

一般国道9号（直地防災工事）改築工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

# 野 広 遺 跡

平成24年3月

国土交通省中国地方整備局浜田河川国道事務所  
島根県教育庁埋蔵文化財調査センター

# 序

一般国道9号は京都府京都市を起点として山口県下関市にいたる主要幹線道路であり、山陰地方の諸都市を結び、沿線各地域における経済・文化活動に重要な役割を果たしています。

国土交通省中国地方整備局浜田河川国道事務所においては、津和野町内における一般国道9号の安全・円滑な交通の確保を目的として、防災工事を進めています。

道路整備に際しては、埋蔵文化財の保護に十分留意しつつ、関係機関と協議しながら進めていますが、回避することのできない埋蔵文化財については、道路事業者の負担によって必要な調査を実施し、記録保存を行っています。

当防災事業においても工事予定地内にある埋蔵文化財について島根県教育委員会と協議し、同委員会の協力のもとに発掘調査を行いました。

本報告書は、平成22年度に実施した野広遺跡の発掘調査を取りまとめたものです。本書が、郷土の埋蔵文化財に関する貴重な資料として、学術並びに教育のために広く活用されることを期待するとともに、道路事業が文化財の保護にも十分留意しつつ行われていることへの理解を深めるものとなれば幸いです。

最後に、今回の発掘調査並びに本書の編集にあたり、ご尽力いただいた島根県教育委員会ならびに関係者の皆様に対し、深く感謝申し上げます。

平成24年3月

国土交通省中国地方整備局

浜田河川国道事務所

所長 安達 久仁彦

# 序

島根県教育委員会では、国土交通省中国地方整備局から委託を受けて、平成22年度に一般国道9号直地防災工事予定地内の埋蔵文化財調査を実施しました。本書は、津和野町地内の野広遺跡の発掘調査成果をまとめたものです。

野広遺跡では中世の建物跡群が調査されました。遺跡の周辺地域はこの時期、吉見氏の支配地域であったとされてきましたが、これまで古文書等の情報や発掘調査例がなく当時の状況は地名などから類推するほかありませんでした。当遺跡は新たに発見された中世遺跡であり、貿易陶磁や茶道具などが出土し、荘園管理者等の居住が想定されるなど注目されます。

本書でまとめられたこれらの成果が、ふるさと島根の歴史を伝える貴重な資料として、学術並びに歴史教育等のために広く活用されることを期待します。

最後になりましたが、発掘調査及び本報告書の刊行にあたりご協力いただきました国土交通省中国地方整備局浜田河川国道事務所をはじめ、地元の方々並びに関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成24年3月

島根県教育委員会

教育長 今井 康雄

# 例 言

1. 本書は島根県教育委員会が国土交通省浜田河川国道事務所より委託を受け平成22年度から平成23年度に実施した、一般国道9号直地防災工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本書で報告する遺跡は、次のとおりである。  
野広遺跡 島根県鹿足郡津和野町字屋敷1049-4番地外
3. 調査組織は以下のとおりである。  
調査主体 島根県教育委員会  
平成22年度  
事務局 川原和人（埋蔵文化財調査センター所長）、山根雅之（同総務G課長）、  
丹羽野 裕（同調査1G課長）、鳥谷芳雄（同調査3G課長）、  
萩 雅人（同総務G企画幹）  
調査担当者 神柱靖彦（同文化財保護主任）錦織幸弘（同兼文化財保護主任）、  
渡辺 聡（同調査補助員）  
平成23年度  
事務局 川原和人（埋蔵文化財調査センター所長）、三島 伸（同総務G課長）  
丹羽野 裕（同管理G課長）、鳥谷芳雄（同調査2G課長）  
調査員 神柱靖彦（同文化財保護主任）、錦織幸弘（同兼文化財保護主任）
4. 発掘調査作業（発掘作業員、機械による掘削、測量等）については、㈱大畑建設に委託し行った。
5. 現地調査において以下の方に調査指導をいただいた。  
村上 勇（奥田元宋・小由女美術館長）
6. 現地調査及び報告書の作成に際しては、津和野町教育委員会より御協力いただいた。
7. 挿入中の北は測量法に基づく平面直角第Ⅲ系のX軸方向を指し、座標系のXY座標は、世界測地系による。レベル高は海拔を示す。
8. 第2図は、国土地理院発行の1/25,000（日原、津和野）を使用した。
9. 本文、図版中に用いた遺構の略号は以下のとおりである。  
SD：溝状遺構 SK：土坑 SX：性格不明遺構
10. 本書の第2章の執筆は錦織が行い、その他に付いては神柱が執筆した。
11. 本書の編集は神柱が行った。
12. 本書に掲載した写真は神柱と錦織が撮影した。
13. 本書に掲載した実測図作成及びデジタルトレースは、調査員のほか阿部賢治、渡辺 聡、陶山佳代、野田清美、難波夏枝、小豆沢美貴が行った。
14. 本書掲載の出土遺物や、図面、写真等の記録保存資料は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センター（松江市打出町33番地）で保管している。



## 凡 例

1. 野広遺跡の遺構名称は、(掘立柱)建物跡、柱列、溝状遺構については、通し番号を付して表記している(例：建物跡1, 柱列2, 溝3)。

なお、その他の性格不明の土坑や柱穴については、現地調査時の遺構名の後に調査時の通し番号を付して表記している(SK01, P02)。

2. 本文・挿図・写真図版中の遺物番号は一致する。
3. 遺物観察表の色調は『標準土色帖』を参考にした。
4. 本書で用いた遺物の分類及び編年観は基本的に下記の各論文・報告書を参考にした。

### (瓦質土器)

岩崎仁志 1990 「防長型播鉢について」『山口考古』19 山口考古学会

岩崎仁志 1999 「足鍋再考」『陶垣』12 山口県埋蔵文化財センター

岩崎仁志 2007 「山陽西部における中世の土製煮沸具 一周防・長門を中心に」『中近世土器の基礎研究』21 日本中世土器研究会

### (陶磁器)

岡山県教育委員会 2002 『山崎古窯跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告167

太宰府市教育委員会 2000 『太宰府条坊跡X V—陶磁器分類編—』太宰府市の文化財第49集

# 本文目次

第1章 調査に至る経緯	1
第2章 遺跡の位置と環境	2
第3章 野広遺跡の調査	6
第1節 発掘調査の経過と概要	6
第2節 発掘調査の結果	9
1. 1区の調査結果	9
2. 2区の調査結果	28
3. 3区の調査結果	30
第4章 総括	69

# 表目次

表1 野広遺跡建物跡一覧表	72
表2 野広遺跡柱列一覧表	77
表3 野広遺跡出土輸入陶磁器一覧表	79
表4 野広遺跡土器・陶磁器観察表	80
表5 野広遺跡土製品観察表	90
表6 野広遺跡石製品観察表	91
表7 野広遺跡金属製品観察表	92
表8 野広遺跡出土銭貨観察表	92

## 図版目次

図版 1	上	野広遺跡全景 1	下	野広遺跡全景 2
図版 2	上	1区全景	下	2区全景
図版 3	上	3区全景	下	建物跡 1・2 柱列 3・4
図版 4	上	建物跡 3 柱列 7	下	集石遺構 1
図版 5	上	集石遺構 1 断面	下	石塔材出土状況
図版 6	上	集石遺構 1 掘方検出状況	下	集石遺構 2
図版 7	上	集石遺構 2 断面	下	SK05 断面
図版 8	上	SK05 完掘	下	SK01 検出状況
図版 9	上	SK01 断面	下	SK02 検出状況 (奥)
図版10	上	SK02 断面	下	SK08 断面
図版11	上	SK08 完掘	下	SX03 検出
図版12	上	SX03 断面	下	SD04 検出状況
図版13	上	SD04 断面	下	丸竈出土状況
図版14	上	1区南側調査終了状況	下	1区北側調査終了状況
図版15	上	2区調査終了状況	下	3区南端部付近
図版16	上	石臼出土状況	下	建物跡21
図版17	上	建物跡22	下	建物跡23
図版18	上	SK21	下	建物跡28~30
図版19		野広遺跡出土遺物		
図版20		野広遺跡出土遺物		
図版21		野広遺跡出土遺物		
図版22		野広遺跡出土遺物		
図版23		野広遺跡出土遺物		
図版24		野広遺跡出土遺物		
図版25		野広遺跡出土遺物		
図版26		野広遺跡出土遺物		
図版27		野広遺跡出土遺物		
図版28		野広遺跡出土遺物		
図版29		野広遺跡出土遺物		
図版30		野広遺跡出土遺物		

# 挿図目次

第1図	野広遺跡の位置	1	第24図	野広遺跡1区出土縄文土器実測図(2)	26
第2図	野広遺跡の位置と周辺の遺跡	5			
第3図	野広遺跡調査区配置図	7	第25図	野広遺跡1区出土縄文土器実測図(3)	27
第4図	野広遺跡1区遺構配置図	10			
第5図	野広遺跡建物跡1～3実測図	11	第26図	野広遺跡2区トレンチ配置図	29
第6図	野広遺跡柱列1～7実測図	12	第27図	野広遺跡3区遺構配置図	31
第7図	野広遺跡集石遺構1実測図	13	第28図	野広遺跡3区南端部遺構配置図	32
第8図	野広遺跡集石遺構1 出土遺物実測図	14	第29図	野広遺跡建物跡4実測図・ 出土遺物実測図	33
第9図	野広遺跡集石遺構2実測図	15	第30図	野広遺跡建物跡5～7実測図・ 出土遺物実測図	34
第10図	野広遺跡集石遺構2出土遺物 実測図	16	第31図	野広遺跡建物跡8・9実測図・ 出土遺物実測図	35
第11図	野広遺跡SK01実測図・ 出土遺物実測図	17	第32図	野広遺跡建物跡10～12実測図・ 出土遺物実測図	36
第12図	野広遺跡SK02実測図・ 出土遺物実測図	17	第33図	野広遺跡建物跡13・14実測図・ 出土遺物実測図	37
第13図	野広遺跡SK08実測図	18	第34図	野広遺跡建物跡15～17実測図・ 出土遺物実測図	38
第14図	野広遺跡SX03実測図・ 出土遺物実測図	18	第35図	野広遺跡建物跡18～20実測図・ 出土遺物実測図	39
第15図	野広遺跡SD04実測図・ 出土遺物実測図	19	第36図	野広遺跡建物跡21実測図・ 出土遺物実測図	40
第16図	野広遺跡1区出土土師質土器 実測図	19	第37図	野広遺跡建物跡22実測図	41
第17図	野広遺跡1区出土瓦質土器 実測図	20	第38図	野広遺跡3区中央部遺構配置図	42
第18図	野広遺跡1区出土国産陶磁器 実測図	21	第39図	野広遺跡建物跡23実測図	43
第19図	野広遺跡1区出土輸入陶磁器 実測図	21	第40図	野広遺跡建物跡24実測図	44
第20図	野広遺跡1区出土土錘実測図	22	第41図	野広遺跡建物跡25実測図	45
第21図	野広遺跡1区出土遺物実測図	23	第42図	野広遺跡建物跡26実測図	46
第22図	野広遺跡SX01実測図・ 出土遺物実測図	24	第43図	野広遺跡柱列8・9実測図・ 出土遺物実測図	47
第23図	野広遺跡1区出土縄文土器実測図(1)	25	第44図	野広遺跡SD19実測図	49
			第45図	野広遺跡SD19出土遺物(煮沸具類) 実測図	50

第46図	野広遺跡SD19出土遺物（播鉢ほか） 実測図	51
第47図	野広遺跡SK20実測図・出土遺物 実測図	52
第48図	野広遺跡SK21実測図	52
第49図	野広遺跡3区北側部分遺構配置図 .....	53
第50図	野広遺跡建物跡27実測図	54
第51図	野広遺跡建物跡27柱穴実測図	55
第52図	野広遺跡建物跡28・29実測図	56
第53図	野広遺跡建物跡30実測図・ 出土遺物実測図	57
第54図	野広遺跡建物跡30柱穴実測図	58
第55図	野広遺跡柱列10・11実測図・ 出土遺物実測図	59
第56図	野広遺跡SD08実測図・ 出土遺物実測図	60
第57図	野広遺跡SD13実測図・ 出土遺物実測図	61
第58図	野広遺跡SD23実測図	62
第59図	野広遺跡SD23出土遺物実測図	63
第60図	野広遺跡3区出土土師器実測図 .....	64
第61図	野広遺跡3区出土瓦質土器実測図 .....	65
第62図	野広遺跡3区出土遺物実測図	66
第63図	野広遺跡3区出土土製品実測図 .....	66
第64図	野広遺跡3区出土石製品実測図 .....	67
第65図	野広遺跡3区出土 鉄製品・金属滓・銭貨実測図	68
第66図	野広遺跡3区出土縄文土器実測図 .....	68
第67図	野広遺跡周辺の地名	71

## 第1章 調査に至る経緯

### 1. 取り巻く情勢と事業の計画

一般国道9号は、京都府京都市から山口県下関市に至る総延長約670kmの山陰地方の諸都市を結ぶ唯一の幹線道路である。一方で、津和野町野広から直地にかけての区間は、急峻な崖面の裾道を走っており、災害で寸断されると他に有効な迂回路がないため地域生活に大きな影響を与える事が危惧されてきた。このような状況を改善するため、国土交通省ではこの区域で改修事業「直地防災事業」を計画した。事業は平成11年度に事業化され、平成15年度より直地地区の法面工事に着手している。

### 2. 文化財保護側との調整

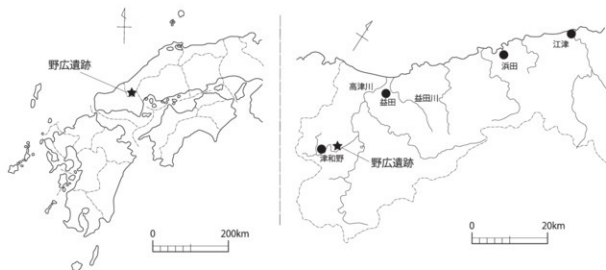
この事業のうち野広地区の工事着手が具体化されるにあたり、平成14年1月国土交通省浜田河川国道工事事務所から津和野町教育委員会に対し、埋蔵文化財の有無について照会がなされた。これを受けて津和野町教育委員会では、該当地点に周知の遺跡である野広遺跡が存在し、遺跡の取り扱いについては島根県教育委員会と協議が必要な旨を回答した。

### 3. 野広遺跡のこれまでの調査

当事業に先立つ平成11年度には、野広遺跡を含む周辺地域において、ほ場整備事業に伴う遺跡の詳細分布調査が行われている。15カ所のトレンチを掘削した結果、遺構は確認されなかったものの弥生土器・土師器・瓦質土器がわずかに出土した。これを受け、野広遺跡が周知の遺跡として登録され、平成17年のほ場整備事業実施時には、津和野町教育委員会による工事立会がなされた。

### 4. 発掘調査実施までの経緯

以後このような経緯を経て、国土交通省と島根県教育委員会の間で適宜協議が行われ、予定地内の埋蔵文化財の調査について具体的に検討が行われた。協議の経過の中で、平成14年11月21日付、国中整浜調設第68号で、文化財保護法第57条の規定による通知が島根県教育委員会あて提出された。それに対して、平成14年11月21日付、島教文財第4号の33で、島根県教育委員会教育長から、野広遺跡のうち工事予定部分の記録作成のための発掘調査の実施が勧告された。その後、工事用地の買収の終了後の平成21年度に確認調査、平成22年度に本発掘を実施した。



第1図 野広遺跡の位置 (S=1/10,000,000, S=1/1,000,000)

## 第2章 遺跡の位置と環境

### 地理的環境

津和野町は、島根県鹿足郡にあり、島根県西部（石見地方）の最西部に位置する。山陰の小京都とも呼ばれ、近世の伝統的建造物も数多くあり、歴史や文化が現在に伝えられている。津和野町の地形は、概して山地地形が広がっており、山林が多くみられる。青野山、地倉ヶ山、田原山、安蔵寺山、燕岳などの高い山々が比較的南側に多く、標高300～500mの高原地域も北西部などに広がっている。青野山火山群に属する青野山、地倉山、三原火山群に属する野坂山、三原山など火山地形もみられる。

野広遺跡は津和野町大字直地野広に所在する。野広地区は津和野町の市街地より5kmに位置し、南は津和野町直地、北は旧日原町滝本に接している。国道9号線が津和野川左岸を走り、JR山口線が右岸の山裾を走る。集落は奥山（標高723m）の北西麓にあり、奥山を源流とする野広川が集落の中央部を西に流下する。野広遺跡はその集落の南側にあたり、北流する津和野川により形成された東西約150m、南北約1kmの河岸段丘上に立地する。現況は水田化しており、標高は約100～102mである。発掘調査の対象地となったのは津和野川の右岸沿いであり、このうち1区・2区が約102m、3区が約100mである。

### 歴史的環境

津和野町の歴史はこれまでの発掘調査成果によると、縄文時代早期まで遡る。縄文時代の遺跡としては早期の山崎遺跡、高田遺跡があり、中期では殿河内遺跡、高田遺跡、後期では木ノ口遺跡、市尾遺跡、喜時雨遺跡、高田遺跡、大蔭遺跡、日原遺跡、萬世ヶ溢遺跡、晩期では西中組遺跡、大蔭遺跡、萬世溢遺跡が知られている。このうち、大蔭遺跡では縄文時代後期後葉の石囲炉を伴う竪穴住居跡が検出されている。

弥生時代では大蔭遺跡から弥生時代前期初頭に位置づけられる弥生土器が出土しており、当地における弥生文化の波及を物語っている。中期では津和野城下町遺跡があり、弥生時代後期後半の竪穴住居跡が喜時雨遺跡で、同終末期のものが大蔭遺跡で検出されている。高田遺跡では弥生時代後期の土器棺墓が発見されている。また外部からの搬入品とみられる吉備系の土器も発見されている。

古墳時代では大蔭遺跡から古墳時代前期の竪穴住居跡が検出されており、喜時雨遺跡では古墳時代前期の掘立柱建物跡が発見されている。後期古墳は最治原古墳群、社寺崎古墳が確認されている。

古代では大蔭遺跡や大婦ヶ遺跡において金属生産関連遺物が出土している。大婦ヶ遺跡では銅精錬が行われていたことが確認されている。高田遺跡からは、奈良・平安時代の緑釉陶器、皇朝十二銭の一つである承和昌寶、土師器、須恵器が出土していることから、吉見氏入部以前国郡里制のもとで、石見国鹿足郡能濃郷の重要な拠点が高田地区にあったことが考えられている。

津和野町内には「名」、「政所」、「別当」等の地名があり、また野広遺跡には「ケズ（下司）」という地名がある。沖本常吉はこれらが荘園との関連があると『津和野町史』において指摘している。

中世の津和野の領主であった吉見氏は弘安5年（1282年）に能登国から津和野町木部に入部後、永仁3年（1295年）～正中元年（1324年）に津和野城を築き、嘉暦2年（1327年）に館を津和野城に移したとされている。中世遺跡は喜時雨遺跡、殿河内遺跡、寺ヶ台前田遺跡、土居丸遺跡、高田

遺跡、大蔭遺跡、有福寺遺跡などが知られており、このうち、高田遺跡では12・13世紀代の白磁が多量に発見されていることから、吉見氏入部以前の有力者の存在が推測されている。土居丸遺跡は14世紀後半に吉見氏に組み入れられたと考えられている長野氏の居館跡とされている。また中世の津和野城の大手口が存在していたと伝えられる喜時雨地区の喜時雨遺跡では13世紀末～14世紀前半の大型総柱建物が発出されており、吉見氏の一族か、その家臣の屋敷があったと考えられている。また、これらの遺跡からは防長系瓦質土器が出土しており、防長地域との交流を窺わせる。

有福寺遺跡、寺ヶ台前田遺跡では金属滓が出土していることから金属生産に関わった遺跡とみられている。関ヶ原の役後、吉見氏は毛利氏に従い長門国萩に移り、坂崎出羽守の治領となり、津和野城、城下町の大規模な整備が行なわれた。その後、亀井氏11代225年間の治世を経て明治維新を迎えることとなる。

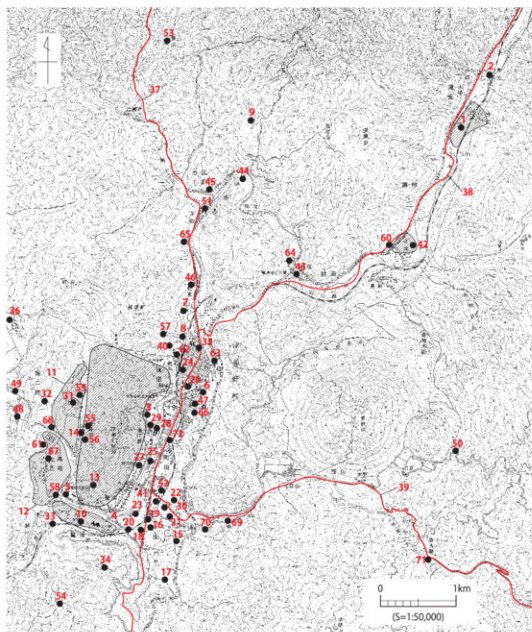
本遺跡が位置する野広地区は、江戸期は津和野藩領であり、村名は野広村であった。石見八重葎によると、「本野地郷之内にてわけて此邊廣き所ゆへ名付く」とあり、野地郷のうちでこの辺りが広いことによるという。近世以前の野広は旧日原町の越原、倉地、木ノ頃を含み、直地、和田にも及んでいたという。宝永石見国高郷村帳では111石余、石見国天保郷帳では271石余であった。寛永14年の検地帳では村高85石で前記の越原、倉地、木ノ頃の三ヶ村が分村されており、明治8年には直地村と合併した。当地は津和野川を挟み、集落の対岸を津和野城下から日原村へと通じる奥筋往還が横断するため、交通の要衝であった。また、直地七ヶ村の氏神である旧日原町滝元の倉地八幡宮は野広の「つばきのもと」に鎮座していたといわれる。

## 参考文献

- 津和野町教育委員会 1991 『高田遺跡説明会』
- 津和野町教育委員会 1992 『高田遺跡Ⅱ』
- 津和野町教育委員会 1993 『高田遺跡Ⅲ』
- 津和野町教育委員会 1993 『西中組遺跡』
- 津和野町教育委員会 1994 『有福寺遺跡発掘調査概要報告書』
- 津和野町教育委員会 1995 『高田地区埋蔵文化財分布調査概要報告書Ⅲ』
- 津和野町教育委員会 1996 『喜時雨地区埋蔵文化財試掘調査報告書Ⅰ』
- 津和野町教育委員会 1997 『喜時雨地区埋蔵文化財試掘調査報告書Ⅱ』
- 津和野町教育委員会 2000 『津和野町埋蔵文化財報告書 喜時雨遺跡』
- 日原町教育委員会 2003 『萬世溢遺跡』
- 津和野町教育委員会 2004 『西谷地区発掘調査報告書  
(出合の場遺跡・殿河内遺跡・寺ヶ台前田遺跡)』
- 津和野町教育委員会 2006 『津和野町内発掘調査報告書1』
- 津和野町教育委員会 2007 『津和野町内発掘調査報告書2』
- 津和野町教育委員会 2008 『木部地区発掘調査報告書 土居丸遺跡・本郷遺跡・大届け遺跡』
- 津和野町教育委員会 2010 『大蔭遺跡 第1・2・4・6・7・8次発掘調査報告書』
- 津和野町教育委員会 2010 『津和野城下町遺跡3(森村地区)』
- 鳥根県教育庁文化財課 鳥取県教育委員会事務局文化財課 2010 『山陰の近世・近代遺跡』



- 沖本常吉編 1970 『津和野町史 第1巻』  
沖本常吉編 1976 『津和野町史 第2巻』  
沖本常吉編 1989 『津和野町史 第3巻』  
角川書店 1991 『角川地名大辞典3 2 島根県』  
廣田八穂 1991 『石西の古墳を尋ねて』  
平凡社 1995 『島根県の地名 日本歴史地名大辞典』  
石西地方未刊資料刊行会 1999 『角郡経石見八重葎』



- |              |             |             |               |
|--------------|-------------|-------------|---------------|
| 1 野広遺跡       | 2 倉地遺跡      | 3 興源寺跡      | 4 津和野城跡       |
| 5 駕原八幡宮流籠馬場跡 | 6 丸山遺跡      | 7 吉見頼行の墓    | 8 吉見少将正頼夫人の墓  |
| 9 日浦遺跡       | 10 大陸遺跡     | 11 喜時雨遺跡    | 12 高田遺跡       |
| 13 中荒城跡      | 14 喜時雨家跡    | 15 仿僧原遺跡    | 16 元山遺跡       |
| 17 門林遺跡      | 18 山崎遺跡     | 19 東中組遺跡    | 20 桂川遺跡       |
| 21 観音平遺跡     | 22 狐尾遺跡     | 23 西中組遺跡    | 24 山根遺跡       |
| 25 森崎外旧宅     | 26 津和野藩校養老館 | 27 西周旧居     | 28 旧津和野藩邸馬場先槍 |
| 29 津和野藩御殿跡   | 30 丸山城跡     | 31 喜時雨陣城跡   | 32 御陣場山城跡     |
| 33 茶臼山城跡     | 34 陶哨買本陣跡   | 35 祇園町遺跡    | 36 山入遺跡       |
| 37 山陰道       | 38 津和野藩矢往還  | 39 津和野廿日市街道 | 40 亀井家墓所      |
| 41 高崎亀井家屋敷跡  | 42 直地遺跡     | 43 和田遺跡     | 44 亀田遺跡       |
| 45 下千原遺跡     | 46 上寺田遺跡    | 47 畦田遺跡     | 48 向中原遺跡      |
| 49 中原遺跡      | 50 権道路遺跡    | 51 下寺田遺跡    | 52 石田遺跡       |
| 53 常山城跡      | 54 段原山城跡    | 55 大光寺跡     | 56 光琳寺跡       |
| 57 光琳寺跡      | 58 伝吉見民部の墓  | 59 伝吉見乳母の墓  | 60 伝正楽院の墓     |
| 61 伝あお様の墓    | 62 永太院宝篋印塔  | 63 興海寺宝篋印塔  | 64 伝土居殿の五輪塔   |
| 65 上寺田石塔群    | 66 本性寺宝篋印塔  | 67 裏門家跡     | 68 朝王山家跡      |
| 69 吉田導火線工場跡  | 70 南谷発電所跡   | 71 唐人焼窯跡    | 72 森遺跡        |

第2図 野広遺跡の位置と周辺の遺跡 (S = 1 / 50, 000)

## 第3章 野広遺跡の調査

### 第1節 発掘調査の経過と概要

#### 1. 調査の経過

野広遺跡は、平成21年度の範囲確認調査を経て、平成22年度に発掘調査を実施した。現地での発掘調査作業（機械、人力による掘削、測量作業等）は、一般競争入札により、株式会社大畑建設に委託して行い、報告書作成作業は平成23年度に行った。

##### 1) 現地調査

現地での発掘調査は平成22年6月7日から同年11月5日までの6ヶ月間を要して行った。調査地の北端部に橋台を、北側の調査区外の部分に橋脚がそれぞれ建設されるために、工事車両が往来するための工事用道路を整備し、その後に橋脚及び橋台の建設工事に入る予定となっていた。このため、まずは工事用道路のルートに重複する調査地南端部を調査し、その後工事箇所である調査地北端部の調査を行い、最後に工事範囲に重複しない中央部を調査することとした。

調査区は工事との兼ね合いから、便宜上南端部を1区とし、北端部を2区、中央部を3区とした（第3図）。前述の事情からまずは南端部の1区から本調査を実施した。1区の調査は、前年度に実施された確認調査のトレンチを再掘削し、追加のトレンチを掘削し、遺跡の状況の把握から始めた。その結果、1区の中央に破砕されたコンクリートを含む客土で埋められた谷状の落ち込み地形がある事が判明し、該当部分は重機による追加掘削を行った。谷の北側部分では、集石遺構が2基検出され、これにかかる実測作業にある程度の時間を要した。また、調査区北側の西側部分では包含層の堆積が厚く、掘削に予想より多くの人役を要し、作業員の増員を行った。谷の南側では確認調査により縄文時代の遺構面が存在することも想定されたので、中世以降の遺構面の精査の後にトレンチを設定し下層の状況を確認した。結果、遺構や包含層の面的な広がり確認できなかった。調査終盤の8月12日にリモコンヘリコプターによる空中写真撮影を実施した。8月18日には全ての遺構の記録を取り終え、1区の調査を終了した。

7月6日には1区の調査と並行し2区の調査に着手した。調査の着手に当たって、昨年度調査分のトレンチの再掘削と追加のトレンチを掘削し、状況の把握に努めた。続いて遺構面の存在が確認調査で指摘されていた堆積層の上で、遺構の検出を試みたが明確な遺構の存在は確認できず、遺物の検出もほとんどみられなかった。このため、調査区を南北に貫くトレンチを掘削し、下層の状況の記録を行った。7月12日～15日にかけて梅雨前線の影響による集中豪雨のため調査区が完全に水没し、作業は中止せざるをえなかった。実測作業等は8月27日には終了し、9月1日には空中写真撮影を実施し、2区の調査を終了した。

3区の調査は1区の調査終了間際の8月17日に着手した。調査は昨年度のトレンチを再掘削することから開始した。遺構面の検出が進むにつれ、遺構の広がりが想定されたことから2度にわたって調査区の西側部分の拡張を行った。まず9月9日に調査区南端部西側を80㎡ほど拡張した。また、10月13日には南端部西側をさらに西側に約100㎡拡張し、11月5日には遺物の取り上げと遺構の記録を終え調査を終了した。この間10月23日に現地説明会を開催し、約50人の参加者を得た。また、11月3日には空中写真撮影を実施した。

今回の調査では各調査区の調査終了後に記録保存の方針が正式決定され、個別に国土交通省浜



第3図 野広遺跡調査区配置図 (S=1/2,500)

田河川国道事務所へ終了報告を提出した。その結果、調査期間中に1区には工事用道路が整備され、3区では橋台の建設工事が実施された。

遺構の実測および遺物の取り上げは基本的に傾キュービックによる遺跡調査システム、「遺構くん」を利用して座標データをデジタルデータ化し記録することにより行った。

## 2) 整理作業

本格的な整理作業は、平成23年度に実施した。出土遺物の出土遺物の分類・実測は主に平成23年3月までに行い、遺構・遺物のトレース、編集などは平成23年の4・5月及び10月から平成24年3月に実施した。遺物のトレースは基本的にデジタルトレースを行っているが、染付等の模様はアナログトレース後スキャンし、配置している。また、遺構図については下図を手作業で作成し、スキャンしたものをデジタルトレースした。写真図版については一部を除きデジタルカメラで撮影したデータを加工し、Adobe社製 InDesign CS4を用いて配置した。

## 2. 発掘調査の概要

### 1) 調査前の状況

野広遺跡は、谷状地形の川沿いに位置するため、川上である南から川下である北に向け、だんだんと地形的に下がっている。ただ、道路用地買収前は水田であったために、水田の区画毎に水平面が形成され高低は境界の小段に集約されてわかりにくくなっている。1区に方形の石積みと2区の西側に五輪塔の一部と推定される石造物が所在した。平成14年度に津和野町教育委員会から国土交通省に提出された資料には位置図と写真が添付されているが、平成21年度に確認調査を行った段階ですでに確認できなかった。

### 2) 発掘調査の概要

1区及び3区の遺構面はいずれもそのほとんどが地表面からごく浅い位置で検出されており、包含層出土遺物もそのほとんどが小片となって出土している。このことから、遺構面は水田の造成時にかなりの影響を受けたものと思われる。遺構によってはその上部を削られて失っているものも少なくないと想定される。

さて、本遺跡の遺構、遺物の中心を占めるのは中世（室町時代を中心とする時期）である。遺構の中心は、いわゆるピットで、3区を中心に全てで500穴近くが検出されている。その多くが掘立柱建物跡を構成すると考えられ、積極的に建物を組むことを意識した結果、30棟の建物を復元した。しかしこの中には実態と異なるものもあると考えられる。

また、1区では縄文時代の性格不明の土坑を1基検出しており、突帯文土器を中心に相当数の縄文土器も出土している。

### 3. 文化財保護法上の措置の経過

本発掘調査の文化財保護法第99条1項にかかる発掘通知は、平成22年4月16日付で提出した。通知上の調査期間は、平成22年10月31日までで、発掘担当者は鳥根県埋蔵文化財調査センター 神柱靖彦である。

発掘調査は平成22年11月5日で全て終了し、同日付で国土交通省浜田河川国道事務所長あてに終了報告を提出した。平成24年1月現在現地では平成25年3月の供用開始を目指し工事が進行中である。

## 第2節 発掘調査の結果

野広遺跡の直地防災事業地内部分は、前述したように1～3区に分けて調査を実施した。1区と3区の間は、確認調査で遺構および遺物の確認ができなかった調査未実施部分によって隔てられている。また、2区と3区の間は水路によって隔てられていた。さらには、1・3区では遺構遺物の検出をみた一方、2区では後述するように、遺構は確認できず遺物の出土もわずかであった。このことから、調査結果について各調査区毎に分けて記述することとする。

なお、本報告では、可能な限り建物跡・柱列を復元し、掲載するように努めた。これらの中には現地調査時点では認識できなかったものも含まれ、特に遺構密度の高いところでは復元の困難なものもあったが、建物跡の可能性のあるものとして提示することとしたい。

### 1. 1区の調査結果

#### 1) 中近世の遺構・遺物

##### (1) 遺構の分布状況（第4図）

1区は、中央部に東西方向に走る水路跡によって区切られている。この水路跡は、埋土にコンクリート片などを含んでおり、遺物の検出も見られなかったため、人力で確認を行った後に重機で掘削を行った。遺構はいずれも表土直下の砂質の黄褐色土層上で検出している。1区で確認できた主な遺構は、建物跡4棟、柱列7条、土坑8基、集石遺構2、溝状遺構4基、性格不明の遺構2基である。

なお、水路跡の北側は東から西に向け標高がかなり下がっており、包含層中から縄文時代から近世にかけての遺物が混在して出土したため、ある時期に大がかりな造成が行われたと推察される。また、平成17年度に実施されたは場整備事業前後までには、水路北側部分の南東端にあたる地点で段状の方形石積みが存在したようである。

##### (2) 建物跡・柱列

###### 建物跡1（第5図）

1区南側に位置し、柱列1と重複する。1間（2.20m）×2間（7.54m）の掘立柱建物跡で、主軸方向はN-25°-Wである。

###### 建物跡2（第5図）

建物跡1の東側に位置している。1間（2.40m）×2間（5.60m）の掘立柱建物跡で、主軸方向はN-26°-Wで、建物跡1とほぼ平行する。

###### 建物跡3（第5図）

1区の北側に位置し、柱列7と重複する。1間（2.38m）×2間（5.38m）の掘立柱建物であり、主軸方向はN-10°-Eである。近接する柱列6にはほぼ平行する。

###### 柱列1（第6図）

1区南西端に位置しており、P21-P54-P56からなる。柱間は2間、長さは4.40mである。主軸方向はN-30°-Wである。

###### 柱列2（第6図）

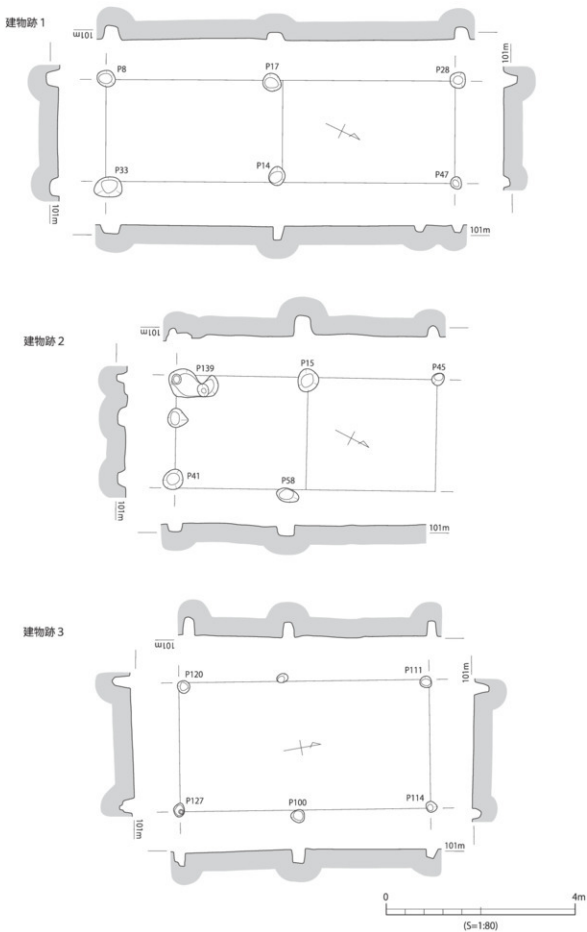
X=167100

Y=32340



X=167150

第4図 野広遺跡1区遺構配置図 (S=1/300)



第5図 野広遺跡建物跡1～3実測図 (S=1/80)



柱列1の北側に位置し、P12-P25-P23からなる。柱間は2間、長さは6.12mである。主軸方向はN-35°-Wであり、柱列1とほぼ平行する。

### 柱列3（第6図）

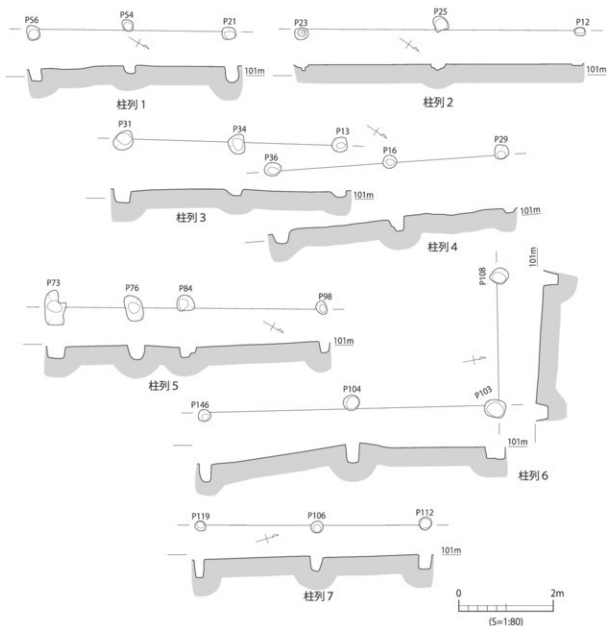
1区南側中央に位置し、建物跡1と重複する。建物跡1および2とほぼ平行で、P13-P34-P31からなる。柱間は2間、長さは4.90mである。主軸方向はN-32°-Wであり、建物跡1と一部切り合っているが、前後関係は確認できなかった。

### 柱列4（第6図）

柱列3の北側に位置し、P29-P16-P36からなる。柱間は2間、長さは5.16mである。主軸方向はN-37°-Wである。

### 柱列5（第6図）

1区南側北東隅に位置し、P98-P84-P73からなる。柱間は2間、長さは5.96mである。主軸方向はN-31°-Wである。



第6図 野広遺跡柱列1～7実測図（S=1/80）

### 柱列 6 (第 6 図)

1 区北側に位置し、鍵形を呈する。P108-P103-P104-P146からなる。南北方向の柱間は 2 間、長さは 6.50m で、東西方向は 1 間で、長さは 3.16m ある。主軸方向は N-10°-E である。

### 柱列 7 (第 6 図)

柱列 6 の北側に位置し、P112-P106-P119からなる。柱間は 2 間、長さは 4.98m である。主軸方向は N-17°-E である。

## (3) その他の遺構

### 集石遺構 1 (第 7・8 図)

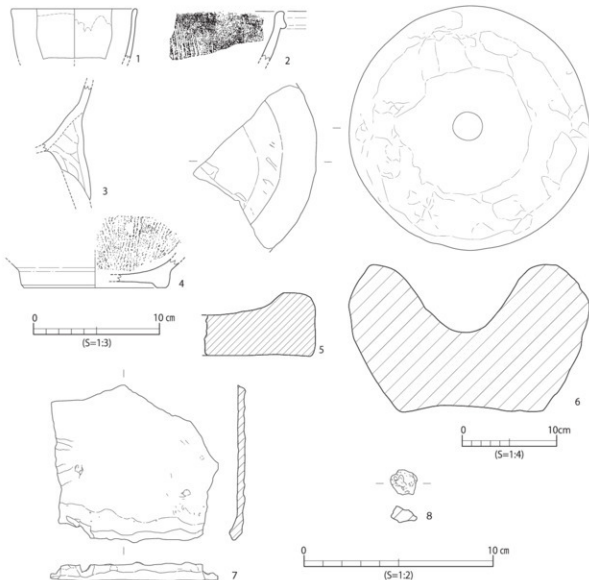
1 区北側中央付近に位置している。約 1.7×2.5m の長方形の範囲に 40cm までの礫が集積されており、厚さは約 30cm である。集積部の中央付近には平面約 2m×1.5m の不整形な落ち込みが一部重複しており、集石部と一体の遺構と判断した。集石部に用いられた礫には五輪塔の水輪部 (第 8 図-6) が混在していた。同様の形態をした五輪塔の水輪部が、六日



第 7 図 野広遺跡集石遺構 1 実測図 (S = 1/30)

市町柿木村福川字新井ヶ原の石塔群で確認されており、調査報告によれば「16世紀代でも後半のものであろう」とされている。遺物は、土器類のほか石臼の破片、金属滓がある。1は萩焼の碗で18世紀後半から19世紀前半にかけてのものである。2および4は播鉢で近世のものである。3は瓦質土器足鍋の脚部の破片である。7、8は金属滓で、7は板状を呈し、8は緑青に覆われており、銅滓の可能性はある。

出土遺物から、18世紀後半以降に構築もしくは補修が行われたと考えられる。

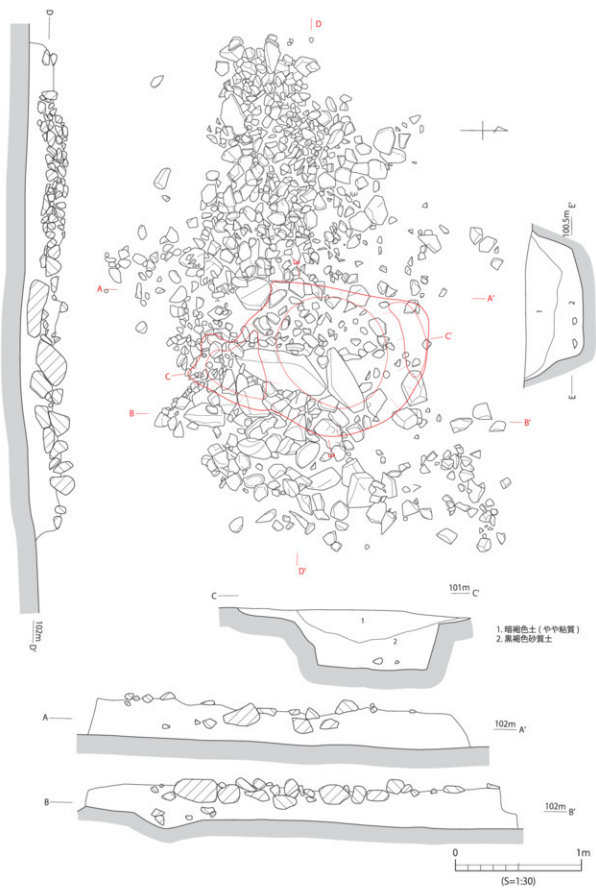


第8図 野広遺跡集石遺構1出土遺物実測図(1~4:S=1/3, 5・6:S=1/4, 7・8:S=1/2)

#### 集石遺構2(第9・10図)

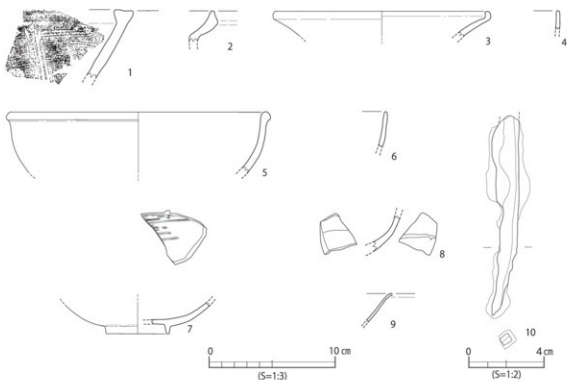
集石遺構1の南西となり位置している。約4m×3.3mの範囲に礫が集積されている。礫は20cm以下の小さなものがほとんどである。集石部の中央部付近で平面円形の土坑が検出された。土坑は南北1.2m東西1.0m、深さは48cmで、西側に段状の平坦面を持つ。

出土遺物には、土器および鉄器がある。1・2は瓦質土器で1は播鉢で4条1単位の播目をもつ、2は鍋である。3~7は陶器で、3は花瓶、4は丸形碗、5はこね鉢、6は萩焼の半球系の碗、7は肥前系の丸形皿である。8は青磁碗、9は白磁碗、10は棒状の鉄製品で釘と



第9図 野広遺跡 集石遺構2実測図 (S=1/30)

考えられる。遺物の時期から19世紀前半代以降に構築もしくは補修されたと考えられる。



第10図 野広遺跡集石遺構2出土遺物実測図(1~9: S=1/3、10: S=1/2)

#### SK01 (第11図)

建物跡1と一部重複している。不整形の土坑で、東西の最大幅約2.5m、南北の最大幅は約2.2mで、深さは約20cmである。縄文土器2点(1・2)が出土しているが、混入と考えられるため、中近世の遺構として掲載した。

#### SK02 (第12図)

建物跡2の南側に隣接している。長さは約1.0m、幅は約60cmで深さは約20cmであった。瓦質土器が1点(1)出土している。

#### SK08 (第13図)

集石遺構2の北側に隣接している。平面円形の土坑で底面はほぼ平坦である。直径は1.65mで深さは33cmであった。

#### SX03 (第14図)

1区南側の調査区際で検出した。遺構の西側は調査区外に続いているが、すぐ外側は切り立った地形になっており要壁が築かれており、要壁構築時に破壊されている可能性が高い。検出部の平面形は半円形で、「すり鉢状」に地山が掘削されている。底面に11基の土坑が掘られている。直径は7.08mで深さは0.66mである。埋土から剥片1点、縄文土器9点、炭化物1点、鉄製品1点(3)、土師質土器1点、中世土師器、瓦質土器4点、播鉢1点、土鍾3点(1、2ほか1点)が出土した。

#### SD04 (第15図)

集石遺構2の西側に位置している。長さ3.81m幅54cmで、深さは26cmであった。土器片と土鍾が出土している。1は瓦質土器の播鉢で、2は陶器のこね鉢、3は土鍾である。

#### (4) 遺構外出土の遺物

1区の包含層から中近世の遺物としては、土師質土器、瓦質土器、陶磁器、土製品、鉄製品、銭貨、金属滓が出土している。このうち石製品に関しては古代の遺物も併せて掲載した。

##### 1. 土師質土器 (第16図)

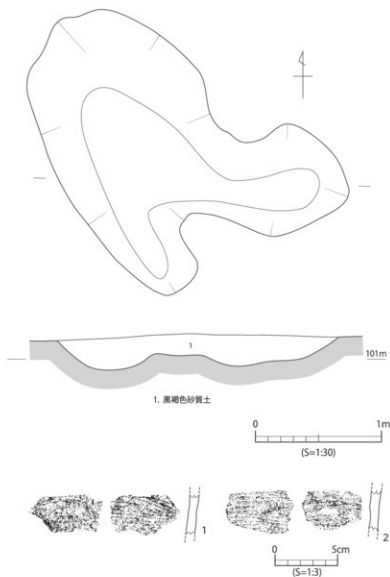
1・2は鍋である。3は鉢もしくは焙烙で、4から7は坏である。

##### 2. 瓦質土器 (第17図)

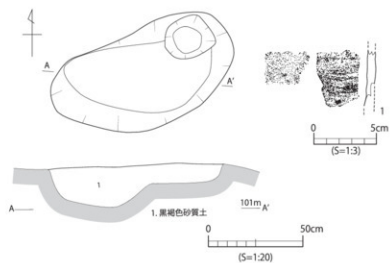
1～11は播鉢である。1～7・11は防長型瓦質土器の播鉢で、口縁部に粘土を貼りつけたり、内側に折り返したりして肥厚させている。12・13は足鍋の脚部である。14～26・28は鍋である。このうち25は防長型瓦質土器の鍋で、口縁端部が内側に屈曲するIV型式に分類される。27・29・30は火鉢で、このうち27は甕型の火鉢である。

##### 3. 国産陶磁器 (第18図)

1は備前焼の播鉢である。口縁部の形態からIVB一期(15世紀後半代)に位置づけられる。2は瀬戸美濃の灰軸皿である。3は肥前系の丸型碗である。4は須佐焼もしくは石見焼の丸型鉢で2次焼成を受けている。5は17世紀中頃の須佐焼と推定される緑折形皿で、内面見込みには胎土目跡が2

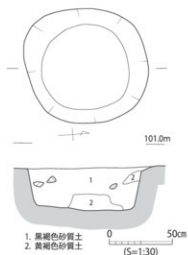


第11図 野広遺跡SK01実測図・出土遺物実測図 (S = 1/30、遺物 1/3)



第12図 野広遺跡SK02実測図・出土遺物実測図 (S = 1/20、遺物 1/3)

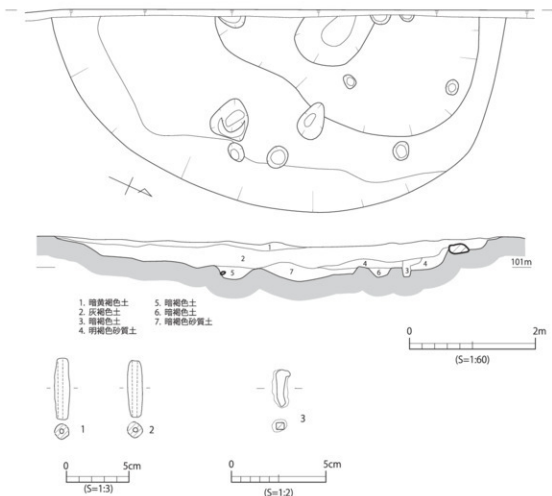
か所認められる。6は須佐焼と推定される丸型碗で、灰釉が施釉されており釉ダレ部分はこのふ釉状の発色を呈している。高台内は若干干巾が発達しており、周囲には縮緬がみられる。时期的には17世紀中頃以降のものと考えられる。7～9は肥前系の磁器である。7は碁笥底の丸形皿で、わずかに若干干巾が発達しており、畳付部分にはアルミナ砂の付着がみられる。17世紀第2四半期に位置づけられる。8は丸型碗で、高台内に「太明年製」の銘が見られ、18世紀前葉に位置づけられる。9は丸形小杯で、網目の描き方から17世紀中頃のものとして推定される。10は須佐焼もしくは石見焼の小壺である。轆轤の後に手びねりで成形され、灰釉が施釉されている。11は萩もしくは須佐焼の白釉の碗で、底部内面の釉が摩滅し、見込みの生地が露呈しひび割れが広がっている。高台裏に3か所粘土塊が付着したままになっている。



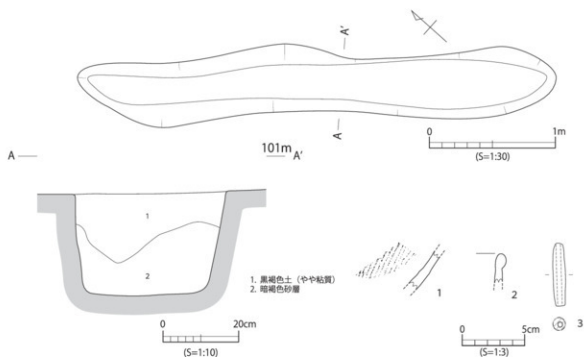
第13図 野広遺跡SK08実測図

#### 4. 輸入陶磁器 (第19図)

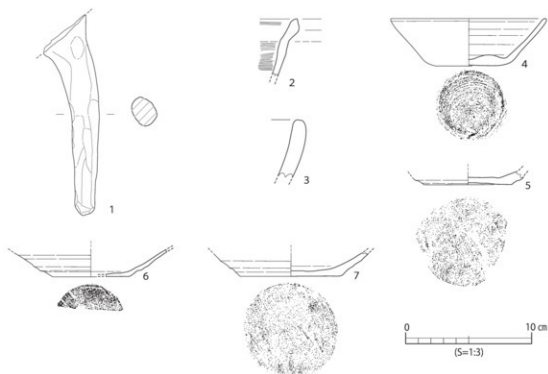
1～4は白磁の口縁部の破片である。このうち1および2は白磁皿D類、3・4は白磁皿E類である。5・6は白磁皿Eの底部である。7～13は青磁の碗である。7は龍泉窯系碗1



第14図 野広遺跡SX03実測図・出土遺物実測図 (S=1/60, 1/3, 1/2)



第15図 野広遺跡SD04実測図・出土遺物実測図 (S = 1/30, 1/10, 1/3)



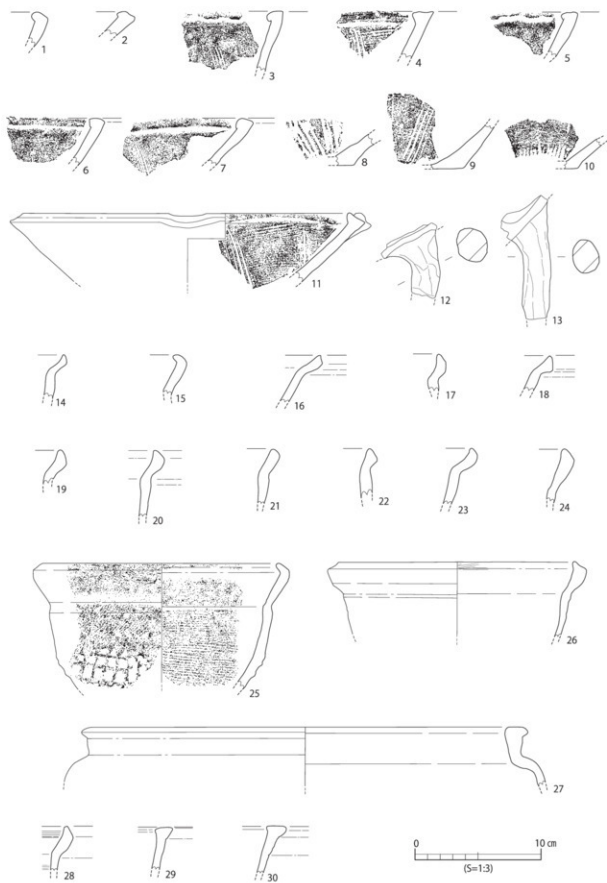
第16図 野広遺跡1区出土土師質土器実測図 (S = 1/3)

類、8・9は龍泉窯系碗B4類、10~12は龍泉窯系碗D類である。14は絞花皿である。15・16は盤である。17・18は青花で、19は茶入れである。

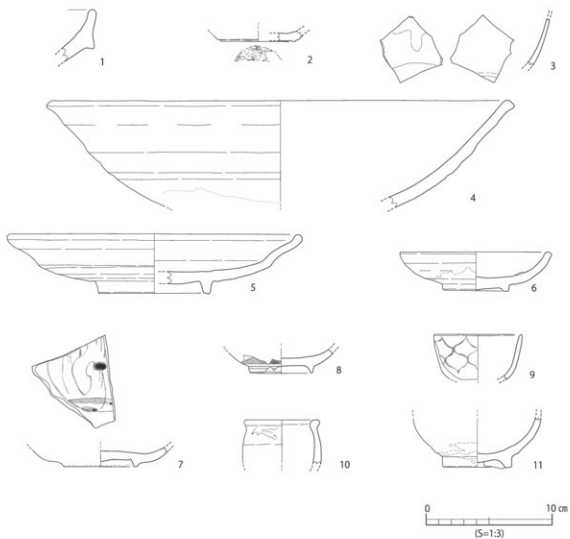
#### 5. 土製品 (第20図)

1~20は土錘である。それぞれ長さは4cm~5cm前後で、太さは1cm~2cm程度で、18は直径約2cmのものである。遺物の時期については詳らかではないが、ここでは仮に中近世の遺物としておく。

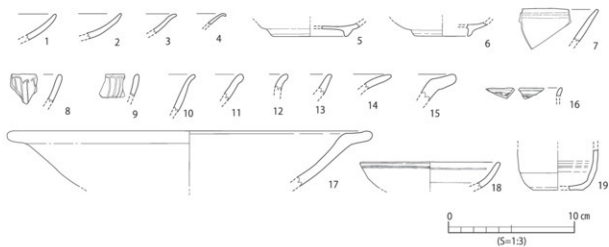




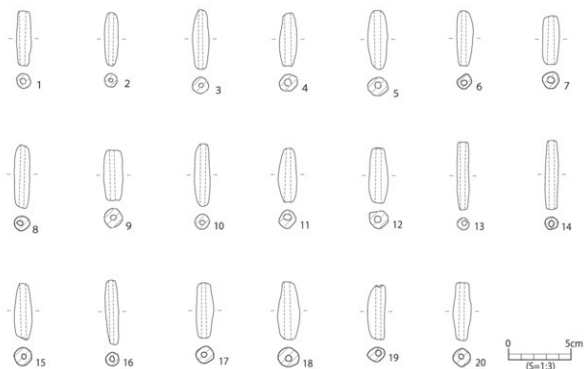
第17圖 野広遺跡1区出土瓦質土器実測図 (S=1/3)



第18图 野広遺跡1区出土国産陶磁器実測図 (S=1/3)



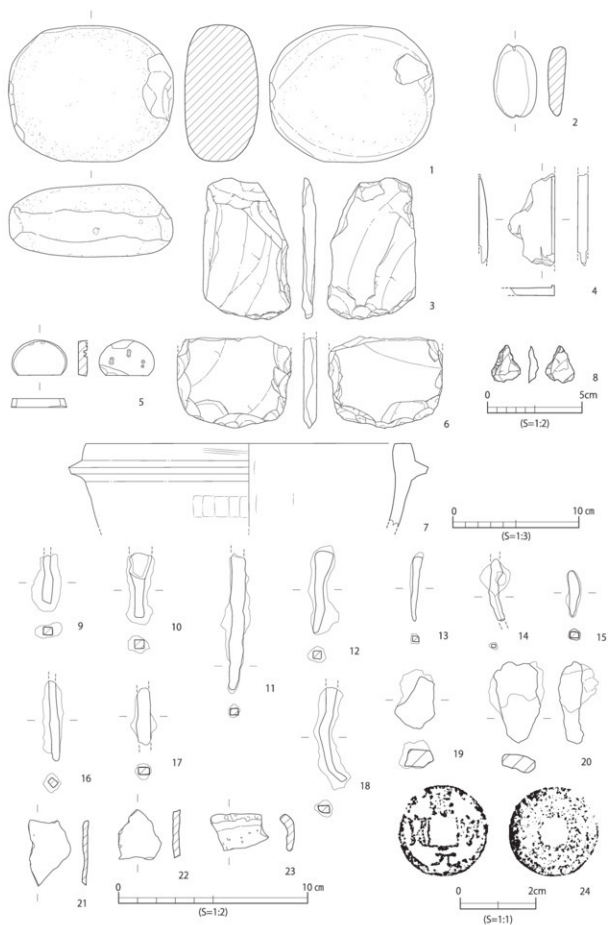
第19图 野広遺跡1区出土輸入陶磁器実測図 (S=1/3)



第20図 野広遺跡1区出土土錘実測図 (S=1/3)

#### 6. 金属製品・金属滓・銭貨 (第21図)

1～8は石製品で、このうち1～3・6・8は縄文時代の遺物の可能性が高いが、紙面の編集の都合上ここに掲載した。1は磨石である。長さは10.8cm、幅は13.0cm、厚さは5.8cmである。2は石錘で、両端に切り目がある。3・6は打製石斧で、ともに石材は頁岩である。8は石鎌の未製品で、石材はチャートである。4は硯で材質はいわゆる赤間石と思われる。5は石製の丸柄である。7は石鍋で、9～20は鉄製品でほとんどが釘だと思われる。21～23は金属滓で、24は照寧元寶である。

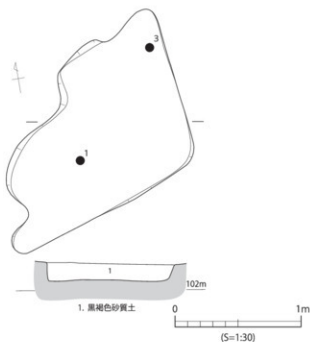


第21図 野広遺跡1区出土遺物実測図 (1~7・1/3、8~23・1/2、24・1/1)

## 2) 縄文時代の遺構遺物

### (1) SX01 (第22図)

1区の南端部に位置する土坑である。平面形は不整形で、深さは約10cmである。底面はほぼ平らで、最大長は約2.2m、最大幅は約1mである。埋土中から3点の縄文土器が出土した。時期はいずれも縄文時代後期中葉のものと考えられる。1には沈線文が施されている。2・3は縄文地の鉢で、同一個体の可能性が高い。

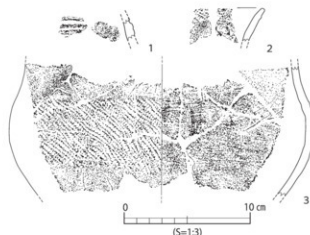


### (2) 出土遺物

縄文時代の出土遺物は、第21図に挙げた石製品のほかに縄文土器がある。

#### 縄文土器 (第23～25図)

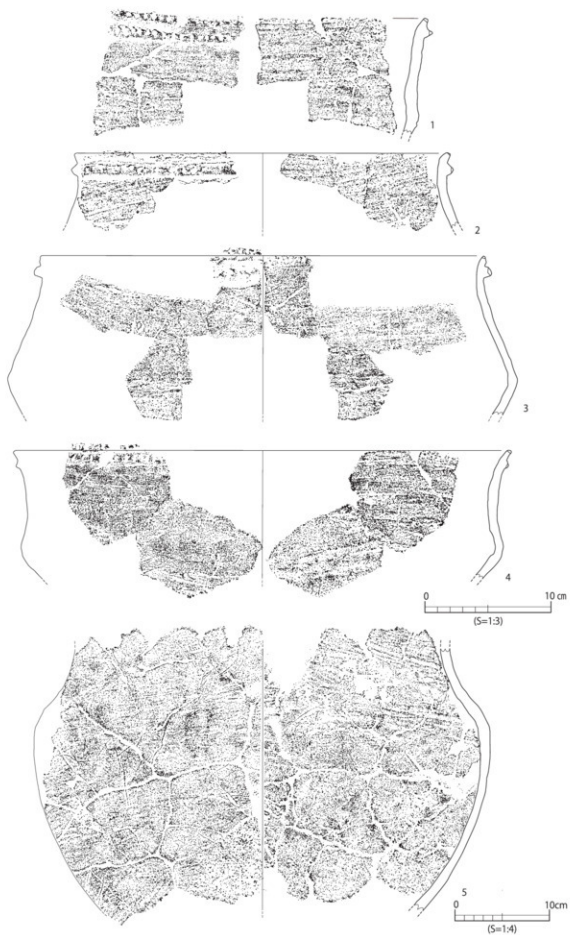
第23図および第24図1～4は突帯土器および時期的に並行すると考えられる土器である。このうち第23図3・8・9・20・22以外は口縁部および突帯に刻み目を施すものである。8は外面に二枚貝による状痕が施され、径7mm、深さが3mm程度の円形の窪みが見られ、口縁部に刻目が施される。9・22は浅鉢の破片で、9の外面には巻貝調整のちミガキが施されている。第24図5は粗製深鉢の破片である。第25図には無文の深鉢と浅鉢を掲載した。1・2は粗製の深鉢で内外面ともにナデ調整を施している。3・4は浅鉢で3は内外面に、4は内面にミガキが施されている。4の外面は摩滅しているので調整は確認できない。5は口縁部内側に段を有し、内外面ともにナデ調整で仕上げている。6・7は精製浅鉢で6は内外面に、7は内面に磨き調整が確認できる。8は浅鉢の口縁部で、端部に沈線が施されている。9～11は精製浅鉢で内外面に磨きが施されている。12は粗製の浅鉢で、内外面ともに巻貝調整のちナデで仕上げている。13～15は底部の破片である。



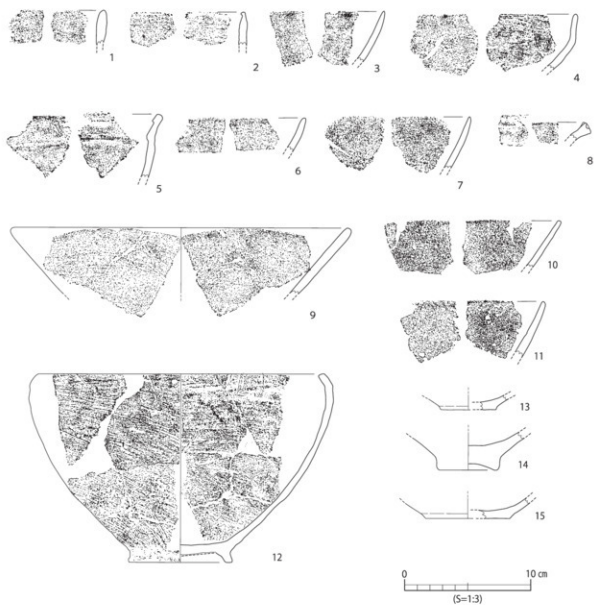
第22図 野広遺跡SX01実測図・出土遺物実測図  
(S=1/30、遺物1/3)



第23図 野広遺跡1区出土縄文土器実測図(1) (S=1/3)



第24図 野広遺跡1区出土縄文土器実測図(2) (1~4: S=1/3, 5: S=1/4)



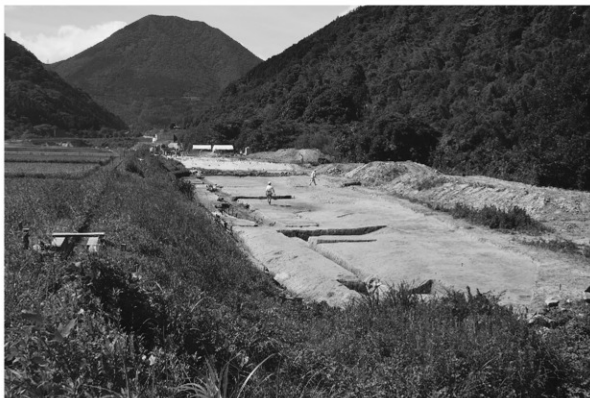
第25図 野広遺跡1区出土縄文土器実測図(3) (S=1/3)



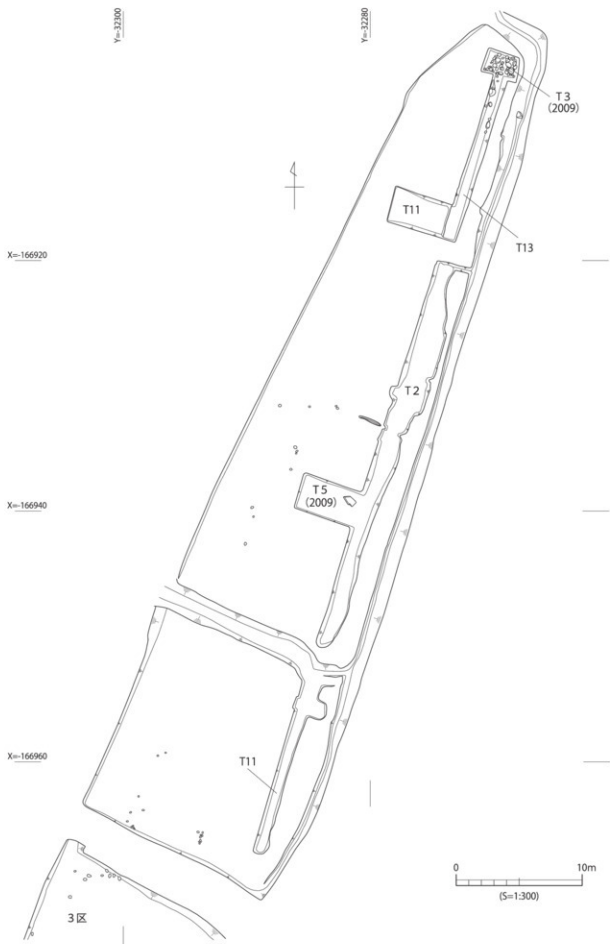
## 2. 2区の調査結果

2区の本発掘調査に先立ち平成21年度に確認調査を実施していた。この際第3トレンチ（第26図ではT3と表記）から若干の遺物が出土していた。このことから、重機による表土掘削後に、人力により確認調査時に遺物包含層とされた土層の掘削を実施した。その後遺構の検出が期待される土層の上面で遺構検出作業を行ったが、遺構を確認することはできなかった。

そこで、調査区北側に第11トレンチを掘削し、検出作業面以下の状況の把握を行った。また、調査区を縦断する形で、第13トレンチ、第2トレンチ、第11トレンチを掘削した。これらのトレンチを掘削したが、遺物の出土を見ることができず、周辺に遺構が存在する可能性を見いだせなかったことから、第2調査区での調査は中断することとした。



2区 全景（北から）



第26図 野広遺跡2区トレンチ配置図 (S = 1/300)

### 3. 3区の調査結果

#### 1) 調査の概要

3区は北を2区、南を1区に挟まれた調査範囲の中央部に位置している。調査区の幅は約15mで長さは110m、面積は約1,800平方メートルである。調査区の南端部から中央部にかけての位置で多くの建物跡、柵列などの遺構が確認された。特に南端部付近では遺構が集中して検出された。調査中に遺構の検出が想定される範囲が当初より広がったために、南端部と北側で調査区の拡張を行った。検出した遺構すべてが中近世のものと推定される遺構であった。出土遺物についても、そのほとんどが中近世のもので、その他の時期の遺物では縄文土器がわずかに出土したに過ぎない。

#### 2) 調査区南側～中央部で検出した遺構

##### 建物跡4 (第29図)

3区南端部付近で検出された野広遺跡で最大の建物跡である。2間(4.32m)×5間(10.14m)の掘立柱建物跡で、主軸方向はN-11°-Eである。出土遺物には瓦質土器、土師器、土師質土器、土鍾、釘がある。1は土師質土器の皿の底部である。2は播鉢で3条以上の播目がある。3・4は土鍾とともに端部がすぼまる。5は釘で断面が長方形を呈する。

##### 建物跡5 (第30図)

建物跡4の南西隅に重複している。1間(2.16m)×2間(3.38m)の掘立柱建物跡で、主軸方向はN-70°-Wである。P254から土師器片が出土している。

##### 建物跡6 (第30図)

建物跡5の北側に位置している。1間(1.8m)×2間(4.72m)の掘立柱建物跡で、主軸方向はN-75°-Wである。瓦質土器、土師器、鉄製品、青磁が出土している。1は瓦質土器の鍋である。2は雷文帯のある青磁碗で、龍泉窯系青磁碗C2形式に分類される。3は釘で、断面が長方形を呈するもので、長さは約6cmである。青磁碗の時期から15世紀前葉から中葉にかけての建物と考えられる。

##### 建物跡7 (第30図)

建物跡6の一部重複している。1間(2.92m)×2間(6.24m)の掘立柱建物跡で、主軸方向はN-78°-Wである。

##### 建物跡8 (第31図)

建物跡7の一部重複している。1間(2.32m)×2間(4.46m)の掘立柱建物跡で、主軸方向はN-80°-Wである。出土遺物には土師質土器と青磁がある。1は土師質土器の皿で、2は龍泉窯系青磁碗B4類である。青磁碗の時期から建物の時期は16世紀前半と考えられる。

##### 建物跡9 (第31図)

建物跡4の東側に接している。1間(2.86m)×2間(3.60m)の掘立柱建物跡で、主軸方向はN-11°-Eである。出土遺物には土鍾がある。3は土鍾で長さ3.6cm、幅1.7cmの比較的小さいタイプの土鍾である。

##### 建物跡10 (第32図)

建物跡4に重複しほぼ平行に建てられている。1間(3.04m)×2間(4.16m)の掘立柱建物跡で、主軸方向はN-13°-Eである。P255からは環状の鉄製品(1)が出土している。断面は方形で、上部は欠損している。このほかP358から土師質土器片が出土している。

X=16700

X=16750

Y=32250

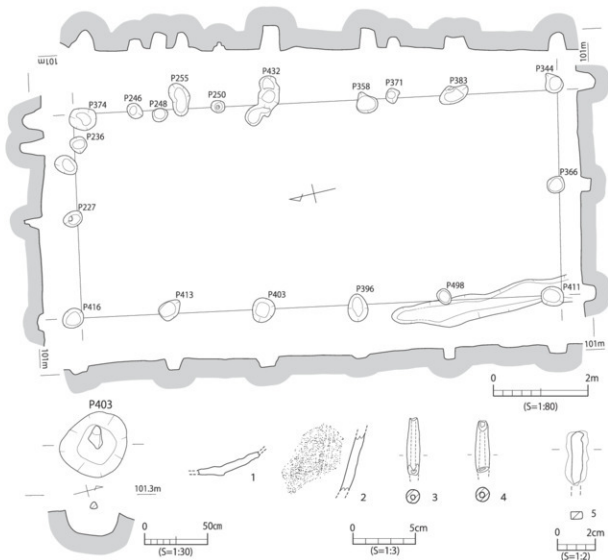
Y=32300



第27図 野広遺跡3区遺構配置図 (S = 1/500)



第28図 野広遺跡3区南端部遺構配置図 (S = 1/120)



第29図 野広遺跡建物跡4実測図・出土遺物実測図  
 (S=1/80、柱穴：S=1/30、遺物1～4：S=1/3、5：S=1/2)

#### 建物跡11 (第32図)

建物跡4に一部重複して建てられている。1間(2.64m)×2間(6.04m)の掘立柱建物跡で、主軸方向はN-17°-Wである。P400からは防長系瓦質土器(2)の鍋の口縁部が出土している。形状からIV型式に位置づけられる。またP358からは土師質土器の皿の破片が出土している。瓦質土器の時期から15世紀後半～16世紀後半の建物と推定される。

#### 建物跡12 (第32図)

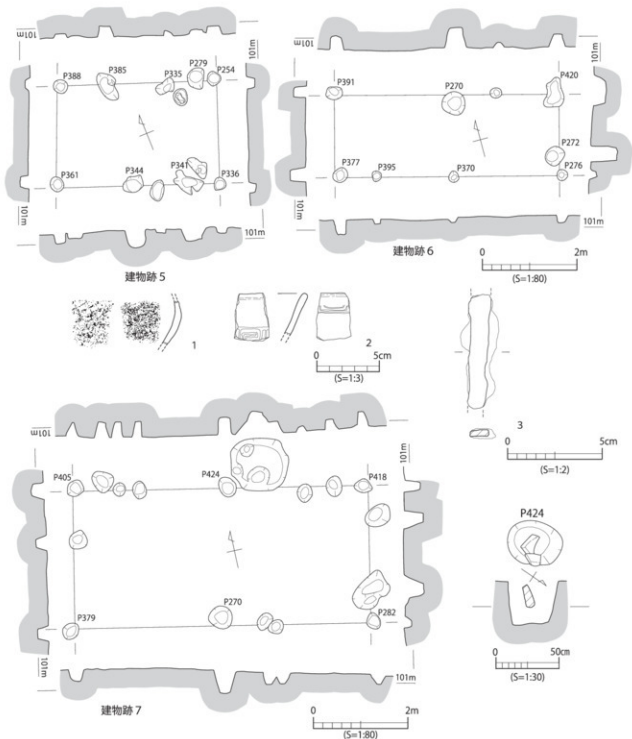
建物跡11に一部重複し、ほぼ平行して建てられている。1間(2.56m)×2間(5.26m)の掘立柱建物跡で、主軸方向はN-15°-Wである。

#### 建物跡13 (第33図)

建物跡12に一部重複し、ほぼ平行して建てられている。1間(2.38m)×2間(5.02m)の掘立柱建物跡で、主軸方向はN-5°-Wである。出土遺物には土錘、瓦質土器、土師質土器、釘がある。1は土錘で、端部が欠失している。2は瓦質土器の破片であるが器種は不明である。3は釘である。

#### 建物跡14 (第33図)

建物跡13に重複しており、ほぼ平行して建てられている。1間(2.04m)×2間(4.18m)



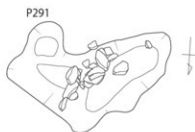
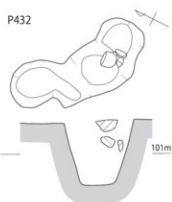
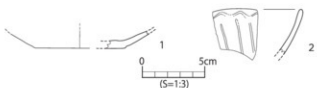
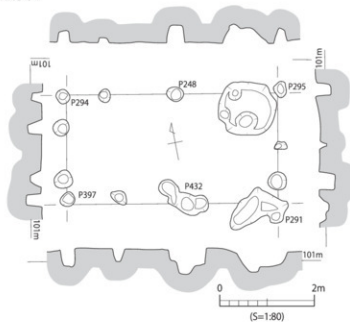
第30図 野広遺跡建物跡5～7実測図・出土遺物実測図  
(S=1/80、柱穴：1/30、遺物1・2：1/3、遺物3：1/2)

の掘立柱建物跡で、主軸方向はN-2°-Wである。

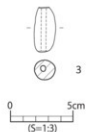
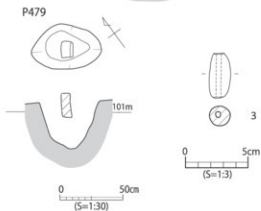
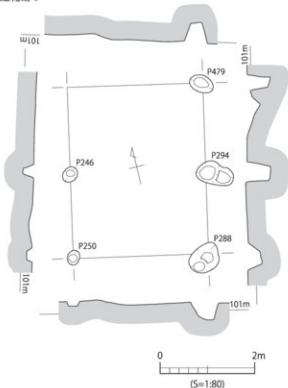
#### 建物跡15 (第34図)

建物跡13の東側に位置しており、ほぼ平行して建てられている。1間(1.78m)×2間(3.60m)の掘立柱建物跡で、主軸方向はN-6°-Wである。出土遺物には瓦質土器、土師質土器、石灰石がある。1は、P289から出土した防長型鍋で口縁部形態などからIV型式に位置づけられる。2は瓦質土器の鍋である。瓦質土器鍋の時期から15世紀後半から16世紀後半にかけての時期の建物と推定される。

建物跡 8



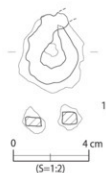
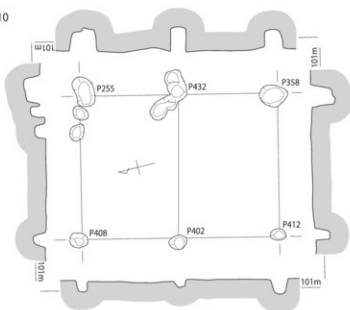
建物跡 9



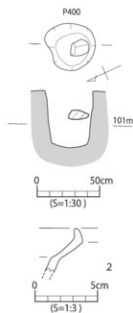
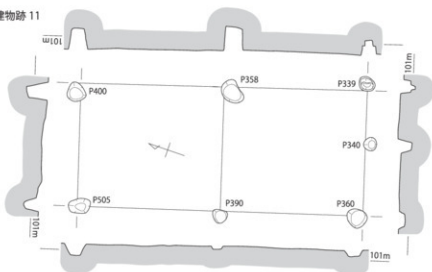
第31図 野広遺跡建物跡 8・9 実測図・出土遺物実測図 (S = 1/80、柱穴 1/30、遺物 S = 1/3)



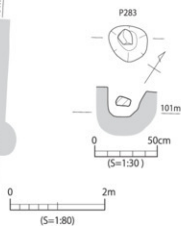
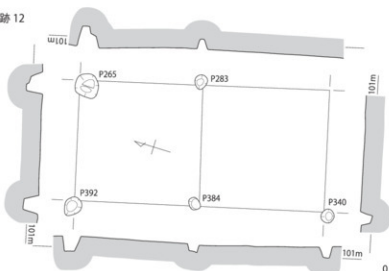
建物跡 10



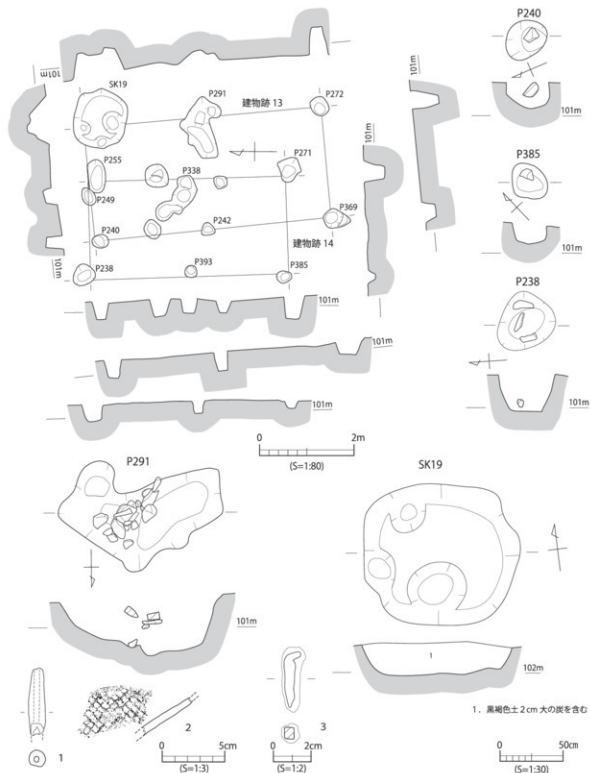
建物跡 11



建物跡 12



第32図 野広遺跡建物跡10~12実測図・出土物実測図  
(S = 1/80、柱穴 : S = 1/30、遺物 : S = 1/2、1/3)



第33図 野広遺跡建物跡13・14実測図・出土物実測図  
(S=1/80、柱穴：S=1/30、遺物：S=1/3、1/2)

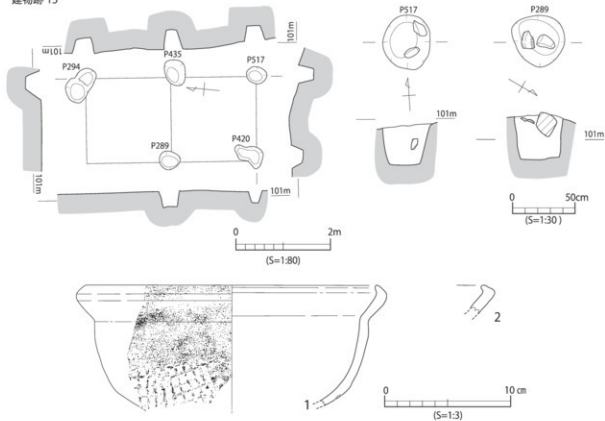
#### 建物跡16 (第34図)

建物跡4に一部重複して建てられている。1間(1.96m)×2間(3.82m)の掘立柱建物跡で、主軸方向はN-80°-Eである。出土遺物には土師器の坏(3)がある。

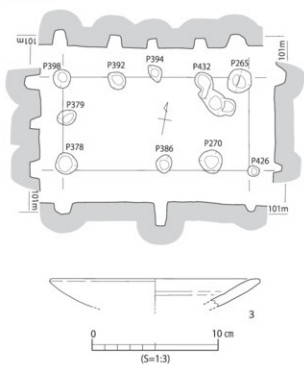
#### 建物跡17 (第34図)

建物跡4に重複して建てられている。1間(2.24m)×2間(4.46m)の掘立柱建物跡で、主軸方向はほぼ真北を指している。

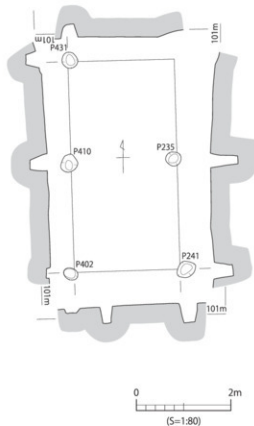
建物跡 15



建物跡 16



建物跡 17



第34図 野広遺跡建物跡15~17実測図・出土遺物実測図  
(S = 1/80、柱穴 : S = 1/30、遺物 : S = 1/3)

### 建物跡18 (第35図)

建物跡15の北側に建てられている。1間(1.94m)×2間(3.10m)の掘立柱建物跡で、主軸方向はN-9°-Wである。

### 建物跡19 (第35図)

建物跡18の北側に一部重複して建てられている。1間(1.94m)×2間(3.10m)の掘立柱建物跡で、主軸方向はN-8°-Wであり、建物跡18とほぼ平行して建てられている。出土遺物には瓦質土器がある。1はP309から出土した防長型鍋で、IV型式に位置づけられる。瓦質土器の時期から、15世紀後半から16世紀後半の建物と考えられる。

### 建物跡20 (第35図)

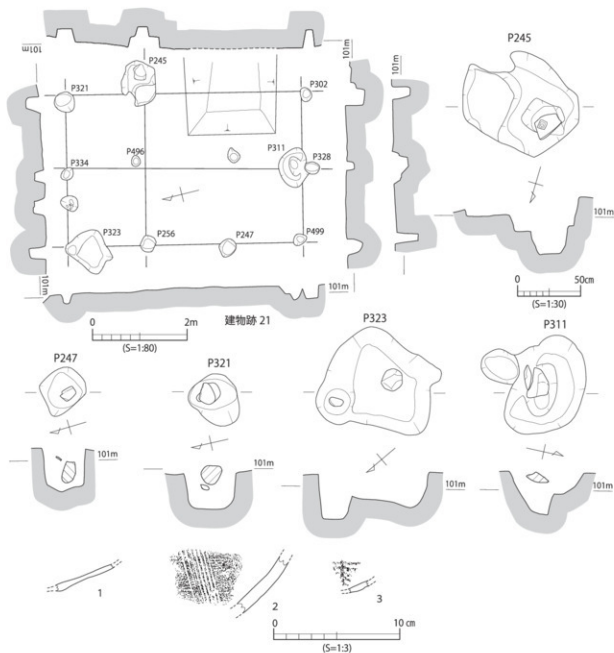
建物跡18・19に重複して建てられている。1間(1.38m)×2間(2.90m)の掘立柱建物跡で、主軸方向はN-30°-Wである。出土遺物には瓦質土器がある。2はP309から出土した防長型鍋で、IV型式に位置づけられる。出土遺物には、近世の国産陶磁器、瓦質土器、土師質土器がある。遺物から近世の建物と考えられる。



第35図 野広遺跡建物跡18～20実測図・出土遺物実測図 (S=1/80、柱穴：S=1/30、遺物：S=1/3)

### 建物跡21 (第36・64図)

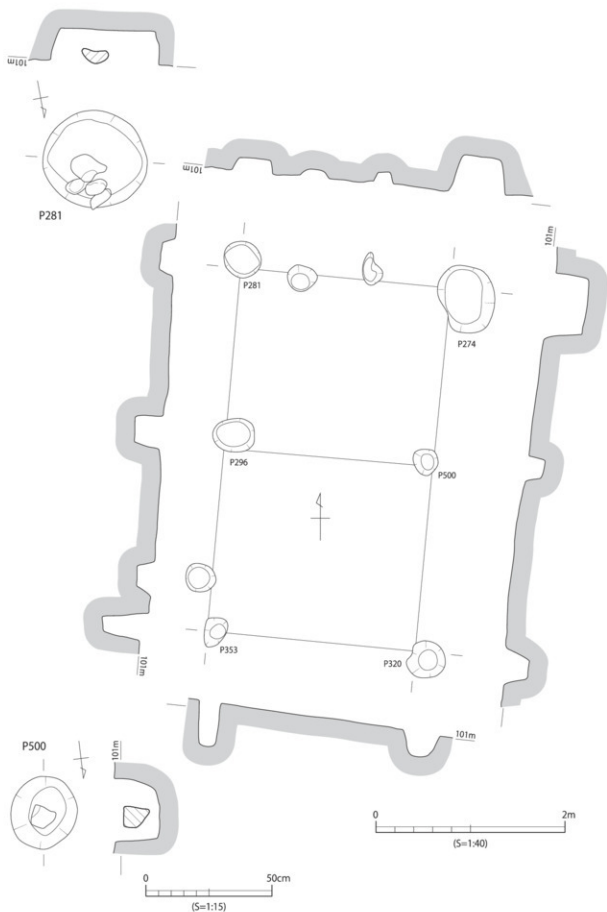
建物跡18・19に重複して建てられている。2間(3.2m)×3間(4.94m)の掘立柱建物跡で、主軸方向はN-12°-Eである。出土遺物には土師質土器と瓦質土器、茶臼がある。1は土師質土器の皿である、2は瓦質土器の播鉢で、7条の播目を有している。3は瓦質土器の鍋で、方形のタタキ目が比較的小さいものである。第64図-7はP245から出土した茶臼で、「片減り」が顕著である。



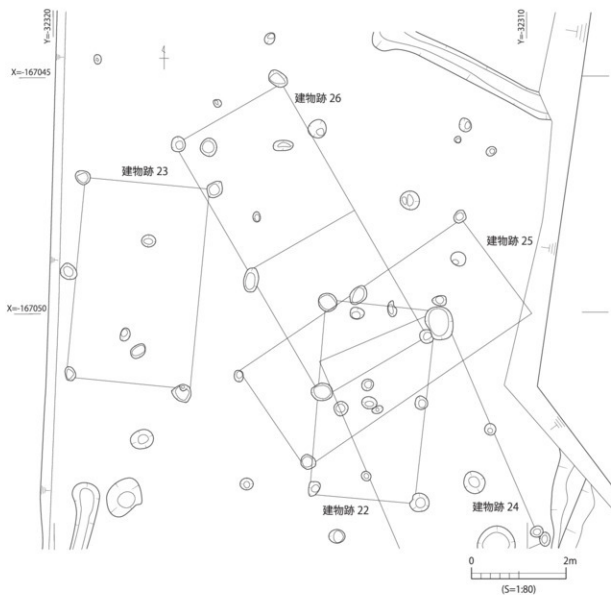
第36図 野広遺跡建物跡21実測図・出土遺物実測図 (S=1/80、柱穴:S=1/30、遺物:S=1/3)

### 建物跡22 (第37図)

第3調査区の中央部付近に位置している。1間(2.22m)×2間(3.86m)の掘立柱建物跡で、主軸方向はN-5°-Eである。P274からは土師器片が出土している。



第37図 野広遺跡建物跡22実測図 (S=1/40、柱穴：S=1/15)



第38図 野広遺跡3区中央部遺構配置図 (S=1/80)

**建物跡23 (第39図)**

建物跡22の西側に位置している。1間(2.62m)×2間(4.24m)の掘立柱建物跡で、主軸方向はN-6°-Eであり、建物跡22とほぼ平行している。P319からは土師片が出土している。

**建物跡24 (第40図)**

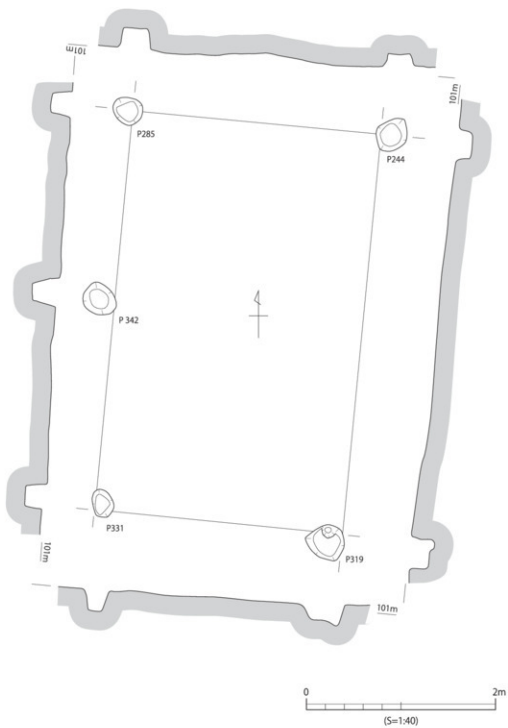
建物跡22・25・26に一部重複している。1間(2.78m)×2間(5.34m)の掘立柱建物跡で、主軸方向はN-24°-Wであり、建物跡26とほぼ平行している。P274からは土師片が出土している。

**建物跡25 (第41図)**

建物跡22・24・26に一部重複している。1間(2.46m)×2間(5.66m)の掘立柱建物跡で、主軸方向はN-56°-Eであり、建物跡26とほぼ直交している。

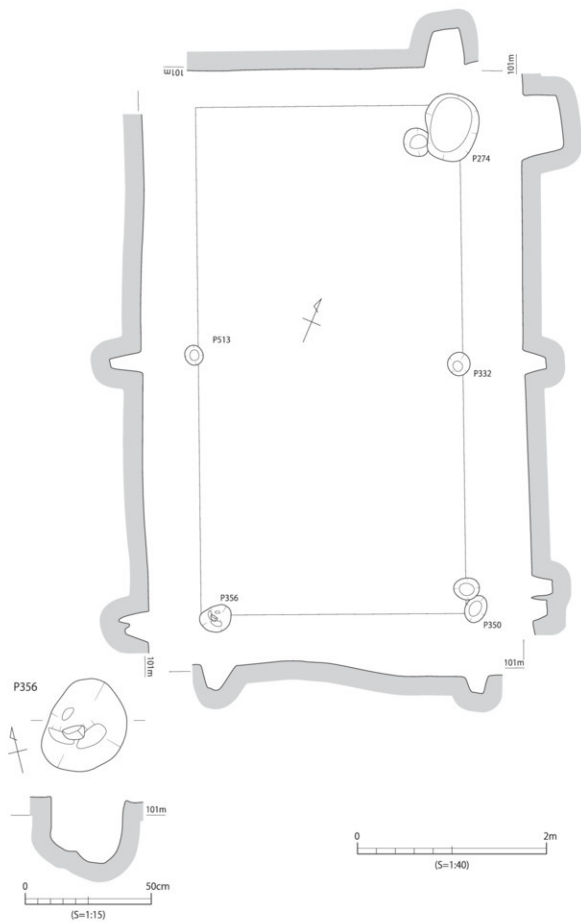
**建物跡26 (第42図)**

建物跡22・24・25に一部重複している。1間(2.60m)×2間(6.18m)の掘立柱建物跡で、主軸方向はN-30°-Wであり、建物跡25とほぼ直交している。

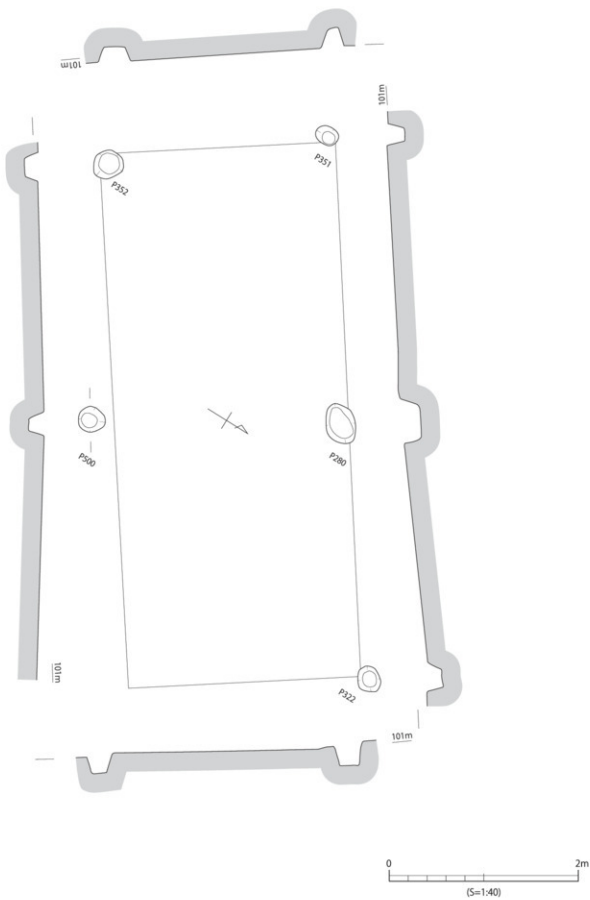


第39図 野広遺跡建物跡23実測図 (S = 1 / 40)

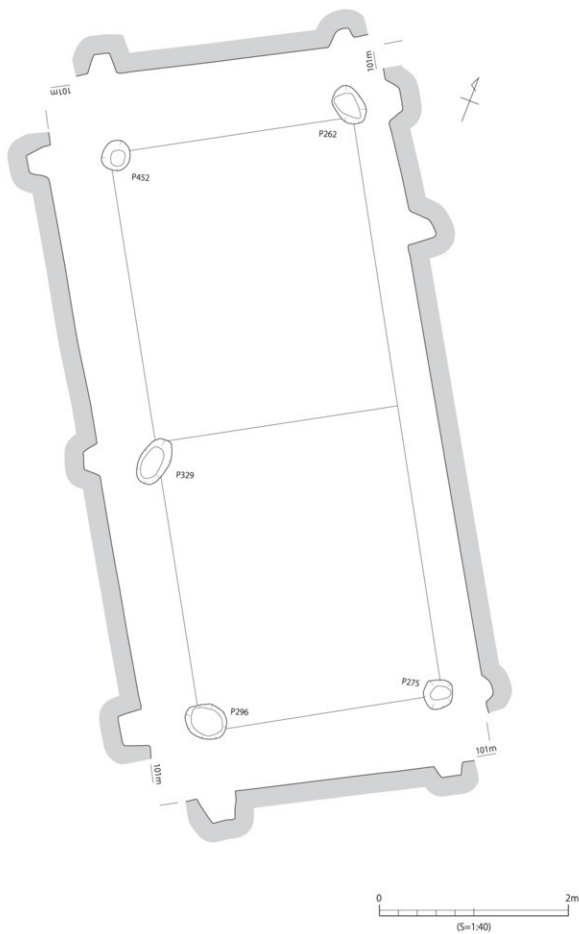




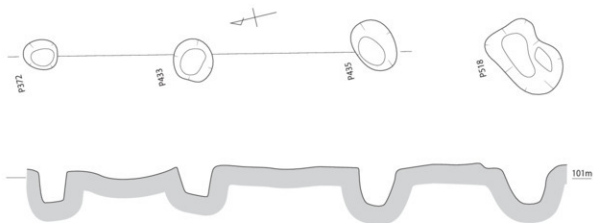
第40図 野広遺跡建物跡24実測図 (S=1/40、柱穴：S=1/15)



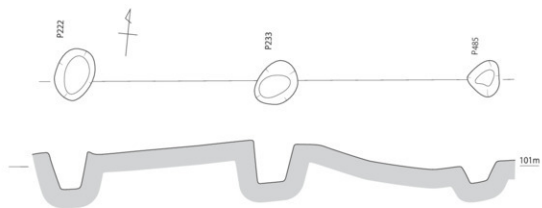
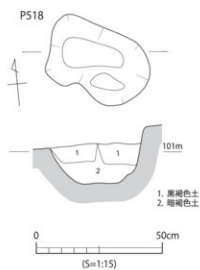
第41図 野広遺跡建物跡25実測図 (S=1/40)



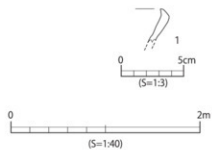
第42図 野広遺跡建物跡26実測図 (S = 1 / 40)



柱列 8



柱列 9



第43回 野広遺跡柱列 8・9 実測図・出土遺物実測図 (S = 1/40、柱穴: S = 1/15、遺物: S = 1/3)

#### 柱列 8 (第43図)

調査区南側建物跡15・18に重複している。P372-P433-P435からなる。柱間は2間、長さは5.44mである。主軸方向はN-13°-Eである。P433から瓦質土器が出土している。

#### 柱列 9 (第43図)

建物跡4・17・19などと重複している。P222-P233-P485からなる。柱間は2間、長さは4.72mである。主軸方向はN-83°-Eである。P233から瓦質土器の鍋(1)が出土している。防長型鍋の破片で、IV型式に位置づけられる。瓦質土器の時期から15世紀後半から16世紀後半の欄列と考えられる。

#### SD19 (第44～46図)

調査区南側の東端に沿って南北方向に伸びる溝の西側の一部を調査した。調査部分の延長は約24mで、最大幅は約2.5mであった。調査部分の深さは14～24cmであった。出土遺物には瓦質土器、青磁、土製品、石製品、鉄製品などがある。第45図は瓦質土器の煮沸具類である。1～2・4は防長系瓦質土器の鍋で、1・4は口縁部が拡張されたⅢ型式、2・10・18・21・22は口縁部が内側に屈曲するⅣ型、13は口縁部が折り返されるⅤ型、3は口縁部との境界付近を特に厚くつくる西長門型鍋a-3型である。19・20は足鍋の脚部である。23は湯釜である。46図1～7は瓦質土器の播鉢である。1は8条、2は7条、3は6条以上の4は見込みに7条、5は5条、6は9条以上、7は4条以上の播目がある。8は備前焼の播鉢である。9は瓦質土器の破片である。10は焼締陶器の瓶である。11は土師質土器の坏で、底部は回転糸切である。12～14は龍泉窯系青磁碗でB2類に、13はD類、14はE類に位置づけられる。15～18は棒状の土錘である。19は赤間石製の硯である。20・21は棒状の鉄製品でいずれも釘であろう。

#### SK20 (第47図)

SD20、建物24、SK20、P348・355・321と重複している。検出長は約5.4mで、幅は約60cm、深さは約15cmであった。出土遺物には青花の底部の破片がある。

#### SK21 (第48図)

調査区南端部に位置し、幅84cm、深さ約85cmであった。遺物は出土していない。

### 3) 調査区中央部～北側部分で検出された遺構

#### 建物跡27 (第50・51図)

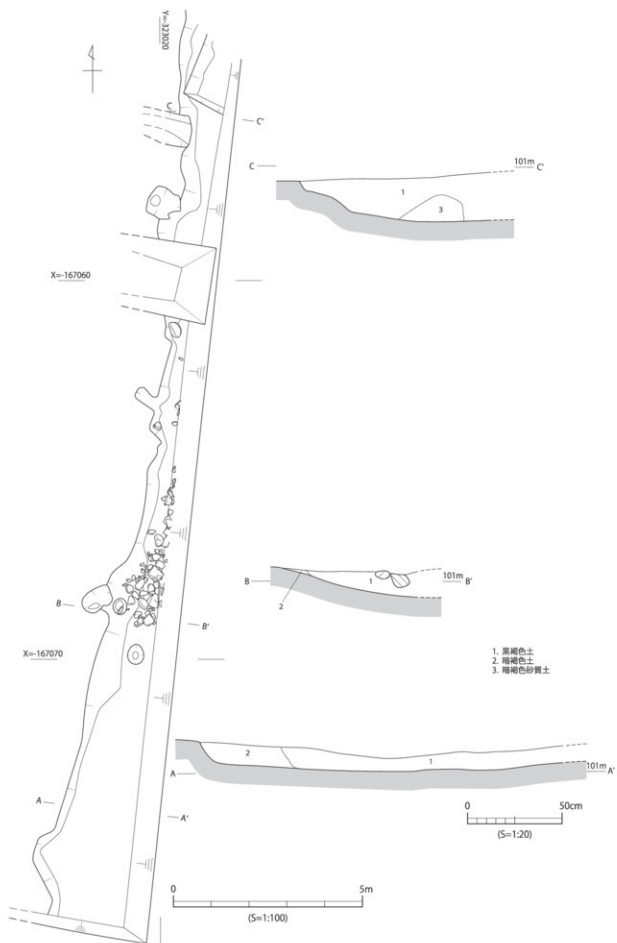
第3調査区中央付近に位置し、建物跡28～30、SD13と重複する。1間(3.36m)×2間(6.70m)の掘立柱建物跡で、主軸方向はN-29°-Wである。P454から瓦質土器鍋の脚部が出土している。

#### 建物跡28 (第52図)

第3調査区中央付近に位置し、建物跡29などと重複する。1間(2.20m)×2間(4.74m)の掘立柱建物跡で、主軸方向はN-6°-Eである。P210からは釘が、P208からは瓦質土器の足鍋が出土している。

#### 建物跡29 (第52図)

建物跡27・28と重複する。1間(1.98m)×2間(4.22m)の掘立柱建物跡である。P267からは瓦質土器が、P477からは土師質土器が出土している。



第44図 野広遺跡SD19実測図 (S = 1/100, 1/20)

建物跡30 (第53・54図)

建物跡27・28と重複する。1間(2.34m)×2間(4.60m)の掘立柱建物跡で、主軸方向はN-86°-Wである。P460から1の土師質土器の坏が出土している。

柱列10 (第55図)

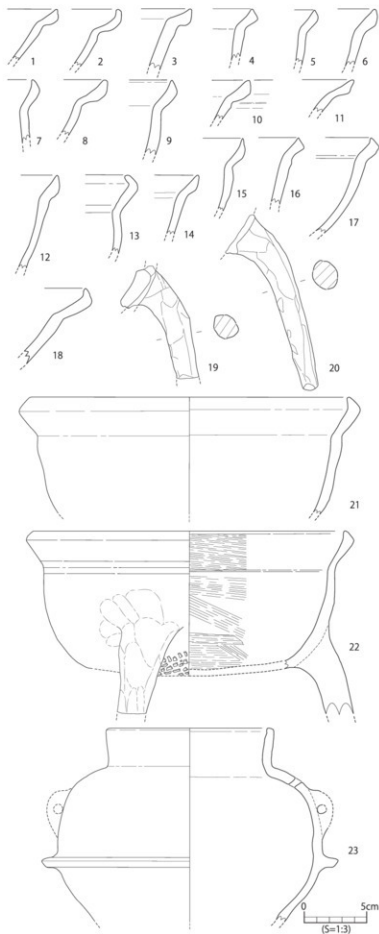
SD13から西に3mの位置で検出された。P444-P451-P195で構成されている。柱間は2間、長さは4.82mで、主軸方向はN-3°-Eである。P451からは1の土師質土器の湯釜が出土している。

柱列11 (第55図)

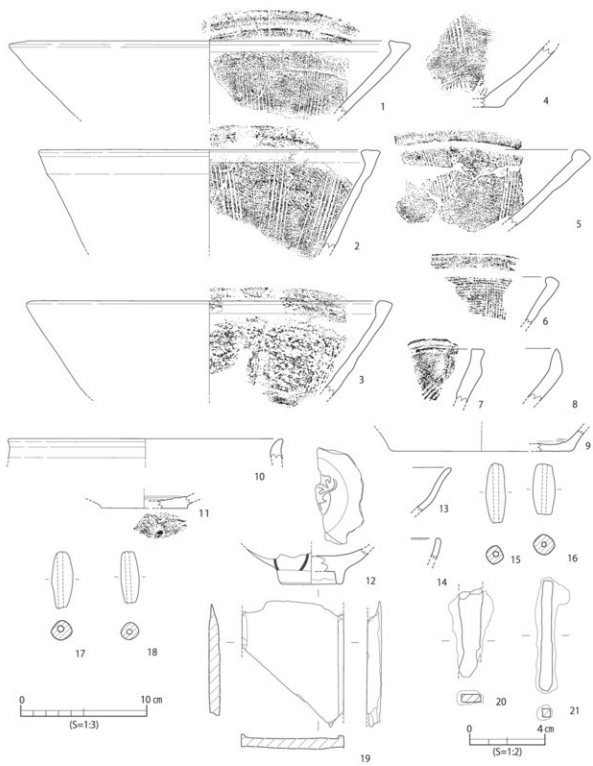
柱列10の西側に隣接しほぼ平行している。P477-P463-P459で構成されている。柱間は2間で、長さは4.76mであった。遺物の出土は見られなかった。

SD08 (第56図)

南北方向に伸びる溝で、検出遺構のうちもっとも北に位置する。幅は約50cm～1.5m程度、長さは約20m、深さは30cm程度であった。出土遺物には、瓦質土器、土製品、石製品などがある。1～5は瓦質土器の鍋である。6は白磁の碗でいわゆる端反りのものである。7・8・12は瓦質土器の播鉢である。8は見込みに4条1単位の播目を持つもので、12は7条1単位の播目を施している。11は備前の播鉢で、3条ないし、6条の播目が施されている。9は焼締陶器で、内外面に細かい調整痕を有

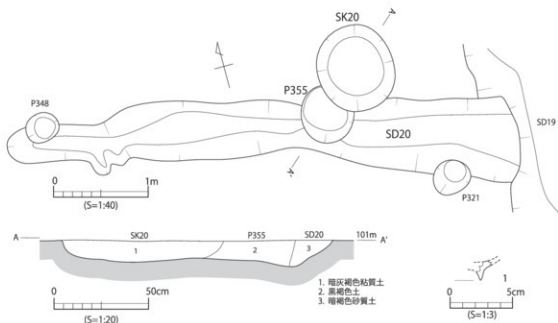


第45図 野広遺跡SD19出土遺物(煮沸具類)実測図(S=1/3)



第46図 野広遺跡SD19出土遺物（播鉢ほか）実測図（1～19：S=1/3、20・21：S=1/2）





第47図 野広遺跡SK20実測図・出土遺物実測図 (S = 1/40, 1/20, 遺物: S = 1/3)

するものである。10は土鍾で、13は瓦質土器の鍋である。14瓦質土器鍋の脚部である。15・16は石臼である。

#### SD13 (第57図)

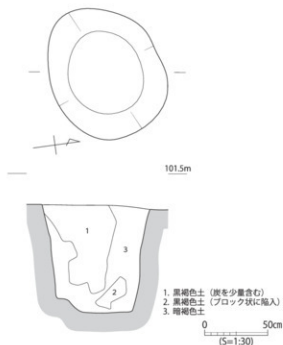
第3調査区中央付近に位置する鍵の手状に伸びる溝で、建物跡27・30と重複する。幅は25~70cm程度で、深さは最大30cm程度である。出土遺物には防長系瓦質土器の鍋(1)があり、口縁部形態からIV型式に分類される。

#### SD23 (第58・59図)

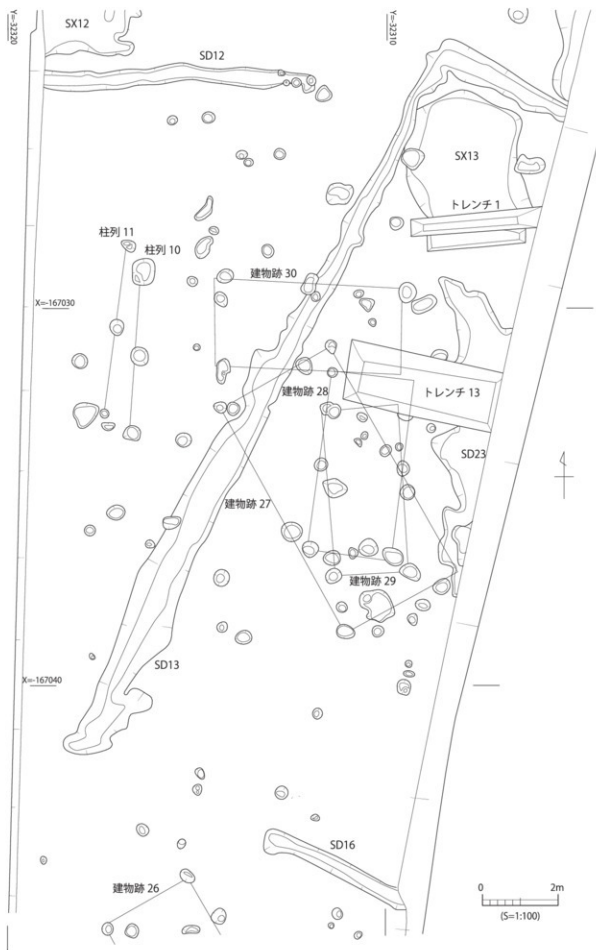
SD13の東側に位置し、SD13に囲まれた地点に位置している。不整形の溝で、溝の西側の肩のみを検出し、東側は調査区外である。検出長は約8mで、幅の最も狭い位置では10cm程度であった。深さは実測地点のうち最も深い地点では、25cm程度であった。出土遺物には土師器、瓦質土器、国産陶器、石臼、鉄製品がある。1~5は土製の鍋で、1は土師質2~5は瓦質のものである。それぞれ、防長系瓦質土器鍋IV型式に分類される。6・7は瓦質土器の挿鉢で、内外面に炭化物が付着している。口縁端部が肥厚しており、防長型挿鉢のII期に分類される。8は土師器の湯釜である。9は瀬戸の天目茶碗で、10は石臼である。11~14は鉄製品である。

#### 4) 遺構外の出土遺物

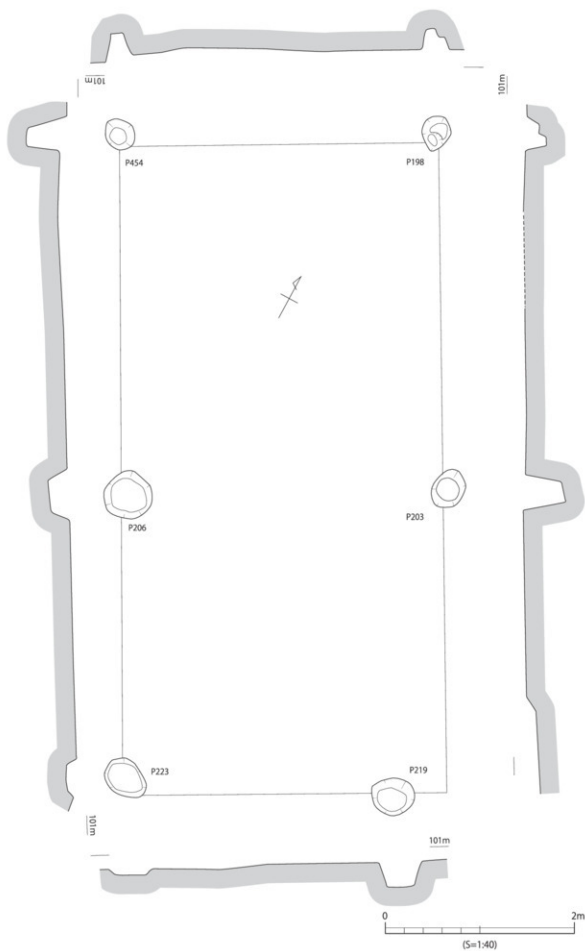
第60図~第66図は中世の遺構検出面よりも上層で出土した、遺構に伴わない遺物である。中近世の土器、陶磁器のほかに土製品、石製品、金属製品、縄文土器が出土している。以下に遺物種類ごとに説明することとする。



第48図 野広遺跡SK21実測図 (S = 1/30)



第49図 野広遺跡3区北側部分遺構配置図 (S = 1/100)



第50図 野広遺跡建物跡27実測図 (S=1/40)

#### 土師質土器（第60図1～4）

1～3は坏で、1および3には底部に回転糸切痕がみとめられる。4は皿で、底部に回転糸切痕がみとめられる。

#### 中須恵器（第60図5～7）

いずれも東播系須恵器のこね鉢である。このうち6・7の内面には摩耗が見られ、7の口縁部には自然釉がかかる。

#### 焼締陶器（第60図8～12）

瓶の破片と推定される破片で、このうち10～12については内外面に細かい刷毛目が見られ、胎土中に多くの石粒を含むものである。

#### 瓦質土器（第61図）

1～15は鍋の口縁部から体部にかけての破片である。このうち7・8・11・14・15は防長系瓦質土器鍋Ⅳ型式に位置づけられる。15は外面に炭化物が付着している。16～23は、足鍋の脚部である。24～30は瓦質土器の播鉢である。このうち25は4条1単位、27・30は6条1単位、29は3条1単位の播目を付されている。31は鉢もしくは火鉢で、32・33は火鉢、34は湯釜である。

#### 国産陶磁器（第62図1～8）

1・2は備前焼の播鉢で、15世紀に位置づけられるものである。3・4は瀬戸の陶器で、3は天目茶碗、4は皿である。5～7は17世紀の肥前系磁器で、5・7は丸形碗、6は仏飯器である。8は陶器の碗で胎土などから萩焼系統のものと推定される。

#### 輸入陶磁器（第62図9～37）

9～16は白磁である。9は細い高台が高く直立する碗で白磁碗Ⅴに位置づけられる。10～12は口縁端部が口弁になった白磁皿Ⅳ類である。13～15はE群の白磁皿である。17～32は青磁である。17は初期の龍泉窯系もしくは同安溪系青磁の碗である。18・19は同安溪系青磁で、18は皿、19は碗である。20～29は龍泉窯系碗である。20は碗Ⅰ-4類で、内面に縦方向の分割線を入れている。21はⅢ-2類、22はⅡ-a類、23・24はB4類である。25はC2類、26・27はD類、28・29はE類である。32は盤の口縁部である。33～36は中国青花である。これらのうち33は皿E群、34は碗C群に分類される。37は李朝白磁の碗で、二次焼成を受けている。

#### 土製品（第63図）

1～6は土錘である。長さは4.4～5.9cm、幅は1.2～1.4cmである。

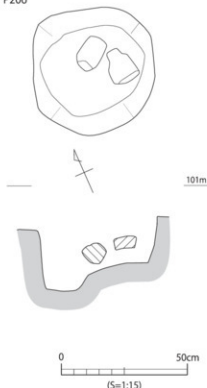
#### 石製品（第64図）

3は砂岩製の砥石である。

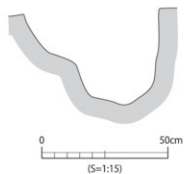
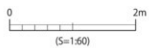
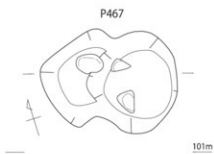
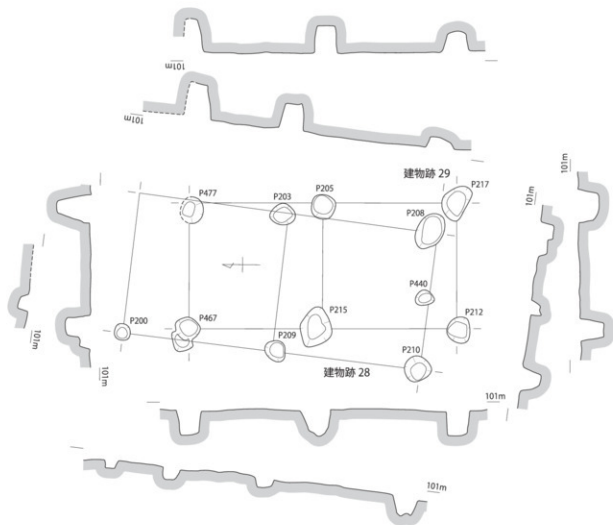
#### 鉄製品（第65図1～7）

1～7は断面方形の棒状鉄製品で、1～6は釘である。

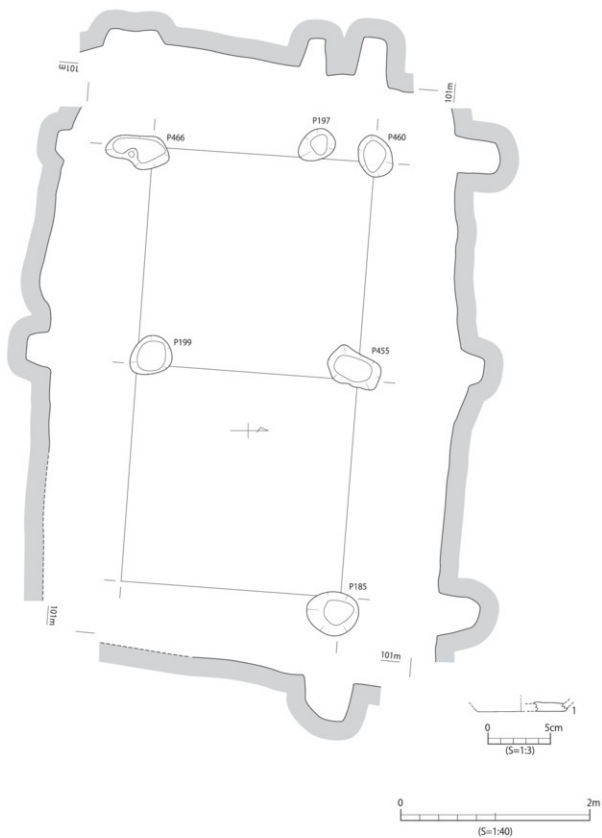
P206



第51図 野広遺跡建物跡27柱穴実測図 (S=1/15)



第52図 野広遺跡建物跡28・29実測図 (S = 1/60; 柱穴 S = 1/15)



第53図 野広遺跡建物跡30実測図・出土遺物実測図 (S = 1/40、遺物 : S = 1/3)

#### 金属滓（第65図 8・9）

8・9は金属滓で、表面に緑青状の付着物が見られることから銅滓の可能性もある。

#### 銭貨（第65図）

10～12は銭貨で、10は天禧通寶で、初鑄は1017年である。11は元豊通寶で初鑄は1078年である。

#### 5) 縄文時代の遺物

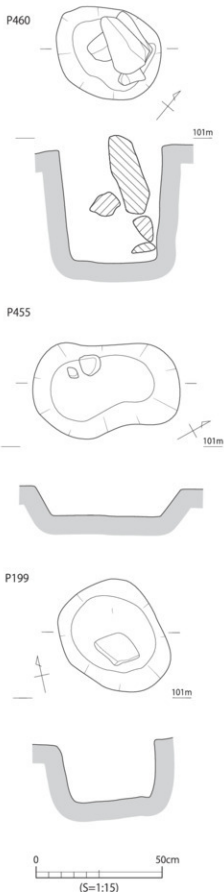
3区では、縄文時代の遺物はほとんど出土を見なかった。これは、ある程度縄文土器等の出土した1区と比較すると対照的である。出土遺物には縄文土器と石製品がある。

#### 縄文土器（第66図）

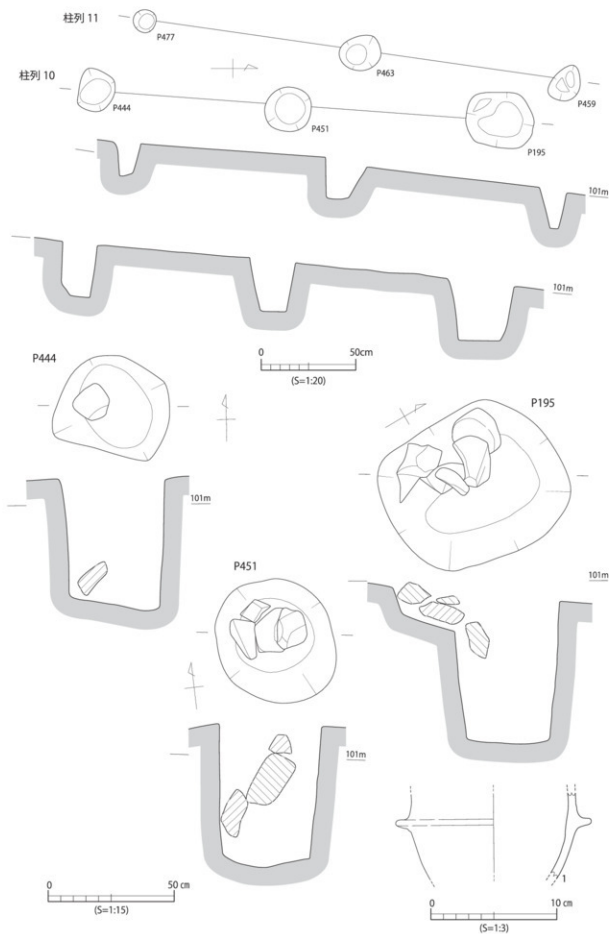
1は隆起線文を施す深鉢で、縄文前期の轟B式に分類されるものである。2は刻目突帯文土器で、口縁端部にも刻目を施すものである。

#### 石製品（第64図 1・2・4～6）

1は磨製石斧で、基底部は研磨され側面には敲打痕が見られ、先端部は欠損している。2は打製石斧で先端は摩滅しており、使用痕と思われる。4は板状の石製品で、側面のうち3方は切断されている。5・6は磨石で、側面には敲打痕が見られる。

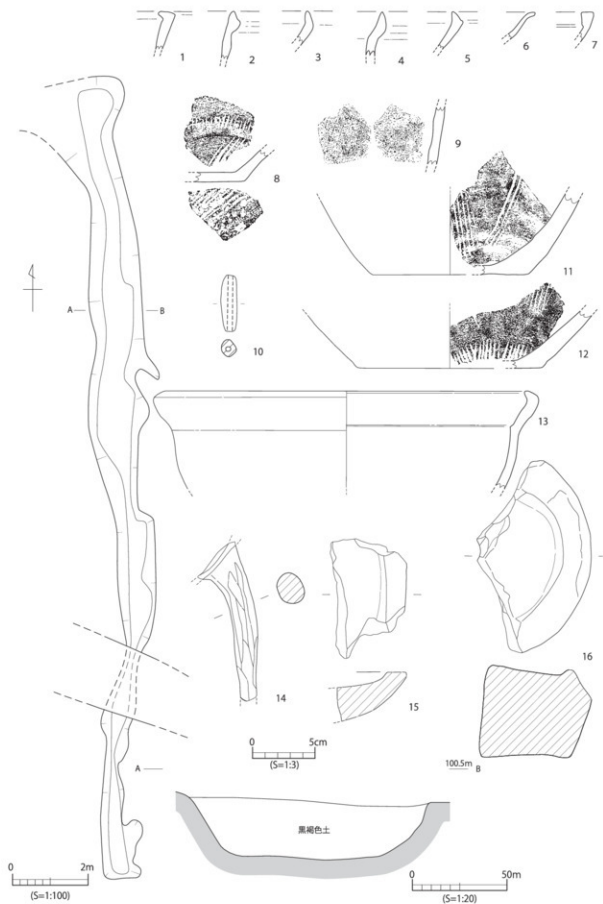


第54図 野広遺跡建物跡30柱穴実測図 (S=1/15)

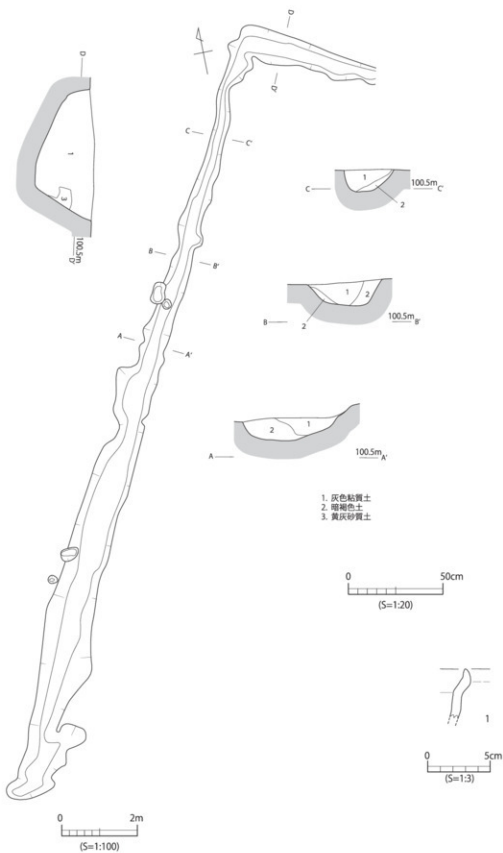


第55図 野広遺跡柱列10・11実測図・出土遺物実測図 (S=1/20、柱穴：S=1/15、遺物：S=1/3)

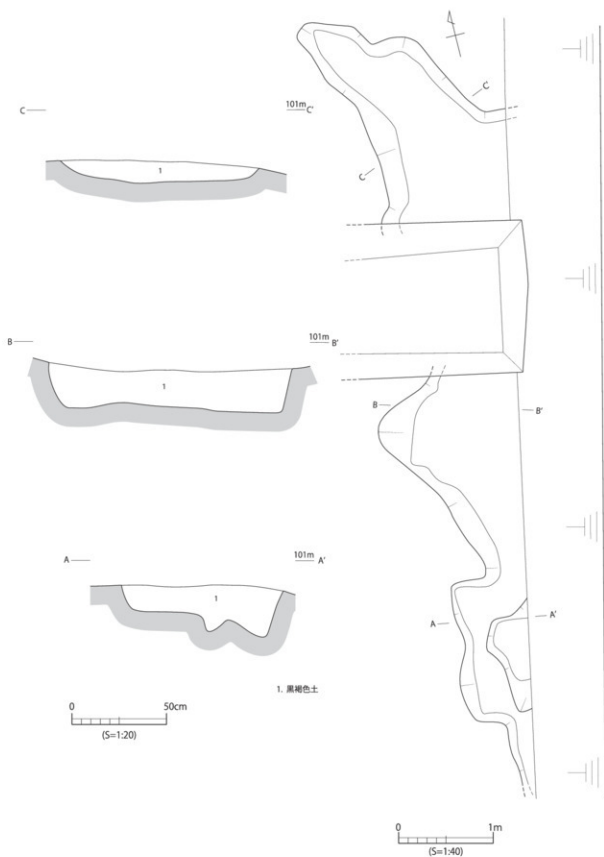




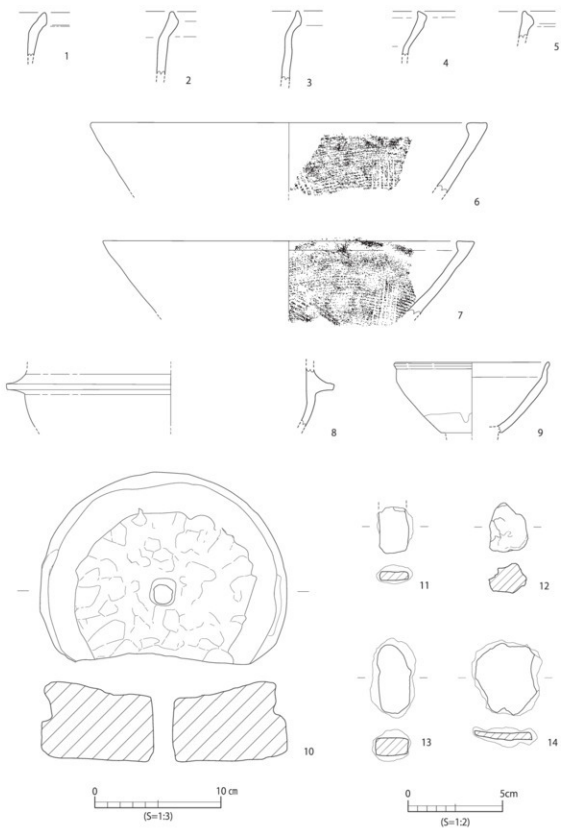
第56図 野広遺跡S008実測図・出土遺物実測図 (S=1/100、1/20、遺物:S=1/3)



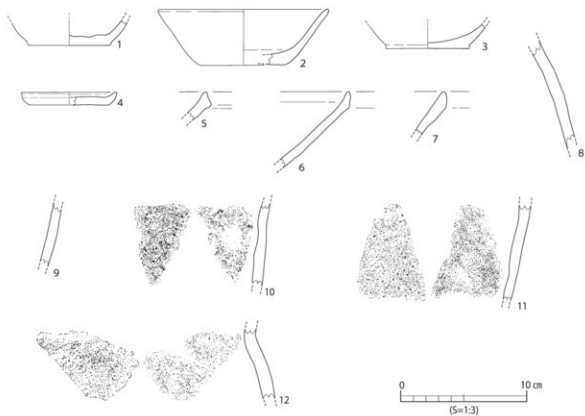
第57図 野広遺跡SD13実測図・出土遺物実測図 (S = 1/100, 1/20, 1/3)



第58図 野広遺跡SD23実測図 (S = 1/40, S = 1/20)



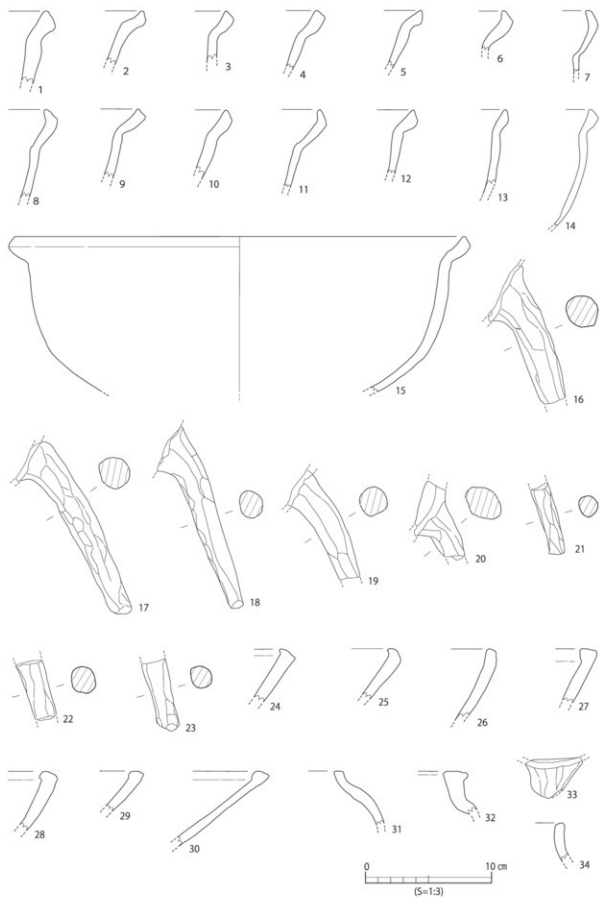
第59図 野広遺跡SD23出土遺物実測図 (1~10: S=1/3、11~14: S=1/2)



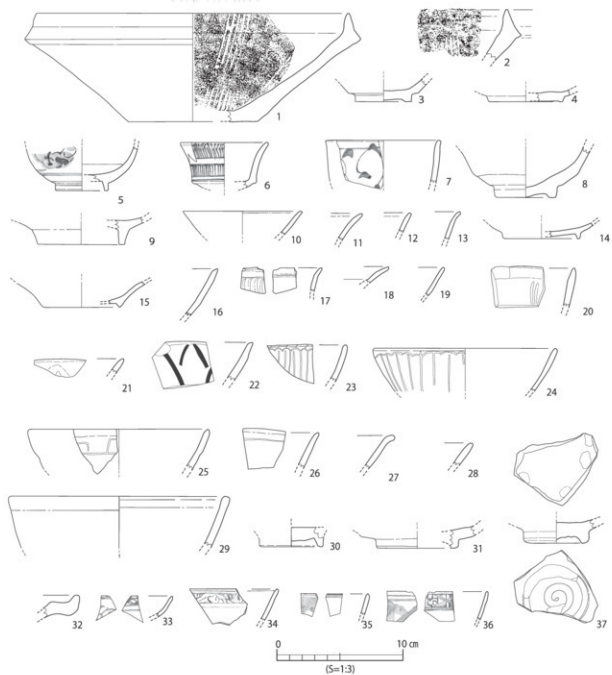
第60図 野広遺跡3区出土土師器実測図 (S=1/3)



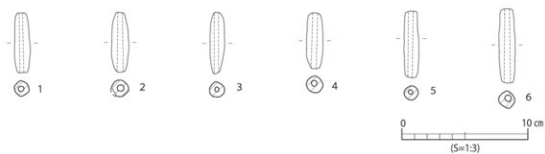
3区 調査状況 (南から)



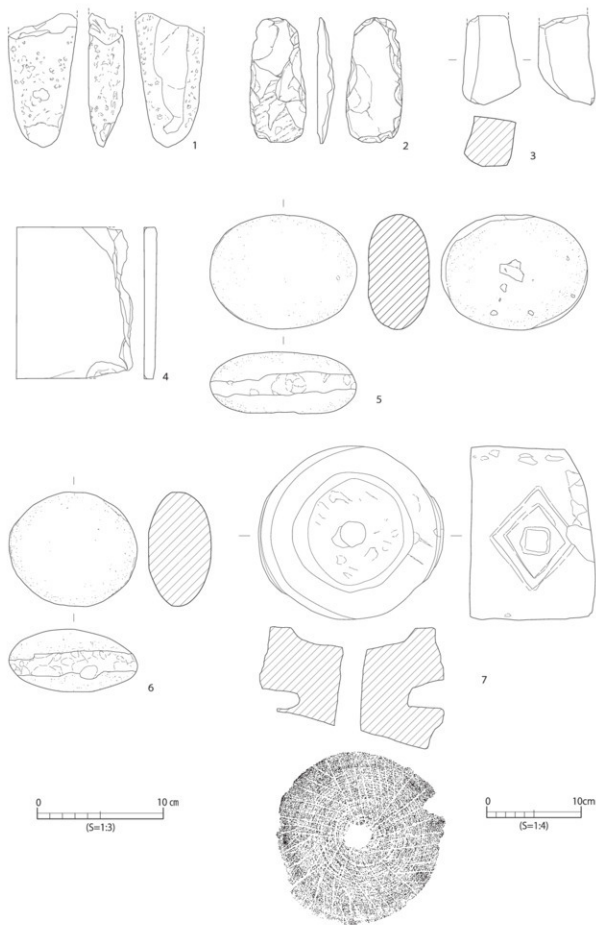
第61図 野広遺跡3区出土瓦質土器実測図 (S=1/3)



第62図 野広遺跡3区出土遺物実測図 (S=1/3)

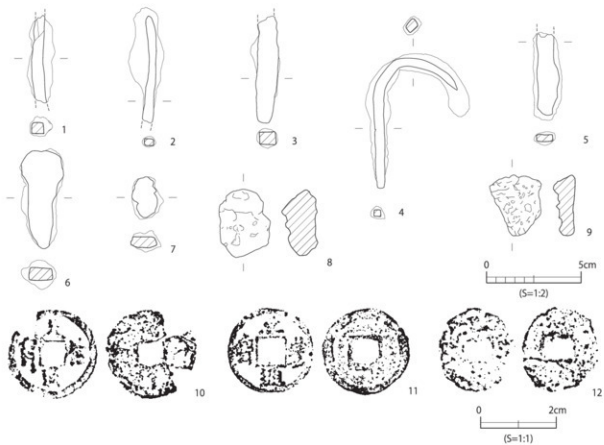


第63図 野広遺跡3区出土土製品実測図 (S=1/3)



第64図 野広遺跡3区出土石製品実測図 (1~6 : S=1/3、7 : S=1/4)





第65図 野広遺跡3区出土 鉄製品・金属滓・銭貨実測図 (1~9: S=1/2、10~12: S=1/1)



第66図 野広遺跡3区出土縄文土器実測図 (S=1/3)

## 第4章 総括

### 1) 縄文時代の様相

今回の発掘調査では、1区の包含層から一定量(約450点)の土器片が出土している。このうち時期が判断できるものほとんどは晩期後葉の突帯文土器であった。しかし、住居跡は検出されず、縄文時代の遺構はSX01を確認するに留まった。

これまでの発掘調査成果から中国地方山間部の縄文時代の集落は、2～3棟程度の住居で構成される小規模なものであったと想定されている(山田2002・2011)。今回の調査地点から住居跡は検出されなかったが、時期的にまとまった土器が出土していることから野広遺跡に縄文時代晩期の集落が存在した可能性が高い。調査区外に住居跡が存在した可能性も考えられるし、後世に遺構面が削平され住居の痕跡が失われた可能性もあろう。

### 2) 中世以降の様相

遺跡周辺には以前より「竹土居」「屋敷」等の小字が残り、中世の有力者層の居住の可能性が指摘されていた【第67図(津和野町所蔵の切絵図により作成)参照】。また第3調査区の南側の小字「ケズ」は、荘園の現地荘官「下司」が転じたものとされ、荘園の存在を示唆しているとも指摘されている(沖本1970)。今回の調査の結果、これらの地名から類推されていた有力者層の居住地の様相が明らかとなってきた。

1区及び3区では、柱列、掘立柱建物跡などの遺構を検出し、瓦質土器片等の遺物が出土した。出土した輸入陶磁器には11世紀後半まで遡るもの(白磁皿Ⅳ類、白磁碗Ⅴ類)が含まれている。

津和野町内の喜時雨遺跡では、12世紀代の後半から13世紀にかけての建物群が検出され、13世紀末にこの地に入り周辺地域を納めた吉見氏以前の有力者の館と推定されている。また、同じく町内の土居丸遺跡では12世紀後半から14世紀代の建物群が、後に吉見氏の一族に加えられる長野氏の先祖の館と想定されている。野広遺跡においても吉見氏の津和野移住前にこの地に拠点を置いた有力者層の居住を想定することができよう。これは、沖本が「ケズ」という地名との関連を取り上げた荘園の現地荘官を想起させる。

第1調査区および第3調査区で検出した掘立柱建物群は、その主軸方向から3グループに大別される。A群は建物3・10・21～23・28、柱列5・6・8・10・11によりなり、建物の方向がほぼ南北に沿って建てられている(第4図・27図)。またこれらの建物はSD19～22およびSD9、10、集石遺構1などにほぼ平行に建てられており、これらの遺構が同時期に存在した可能性が想定される。これらの建物群は建物跡7のP270から出土した青磁龍泉窯系碗C2類(第30図2)から15世紀前葉から中葉のものと推定される。

B群は建物11～19・29・30、柱列9によりなり、建物の主軸方向は南東方向を向いている(第4図・27図)。建物群の主軸方向はSD8にほぼ平行して建てられており、これらの遺構は同時期のものと考えられる。建物群の時期は、建物11・13・16など多くの建物の柱穴から防長系瓦質足鍋のⅣ形式にあたる破片が出土していることから、15世紀後半～16世紀と考えられよう。

C群は建物1・2・20・24～27、柱列1～4、7で主軸を北西方向または直交する北東方向に向けて建てられている(第4図・27図)。建物20のP450からは近世の磁器片が出土しており、これらの建物群は近世のものと推定される。

### 3) 注目される遺物

輸入陶磁器、茶器の外に注目される遺物として第8図-8の金属滓がある。緑青状の付着物があるため、銅滓の可能性もある。遺跡周辺で銅の精錬が行われていた事も考えられよう。建物15のP517からは石灰石が出土している。石灰石は銅の精錬に使用されるため、併せて注目される。

また、第60図-8～12の瓶をはじめとして褐色で表裏に細かい調整痕のある産地不明の焼締陶器が出土している。津和野町内の喜時雨遺跡で類例が出土しており、その産地についても検討が望まれる。

1区からは石製の丸柄(第21図-5)が出土している。石見地方(島根県西部)西部では石帯関連遺物の出土は初めてであり注目される。

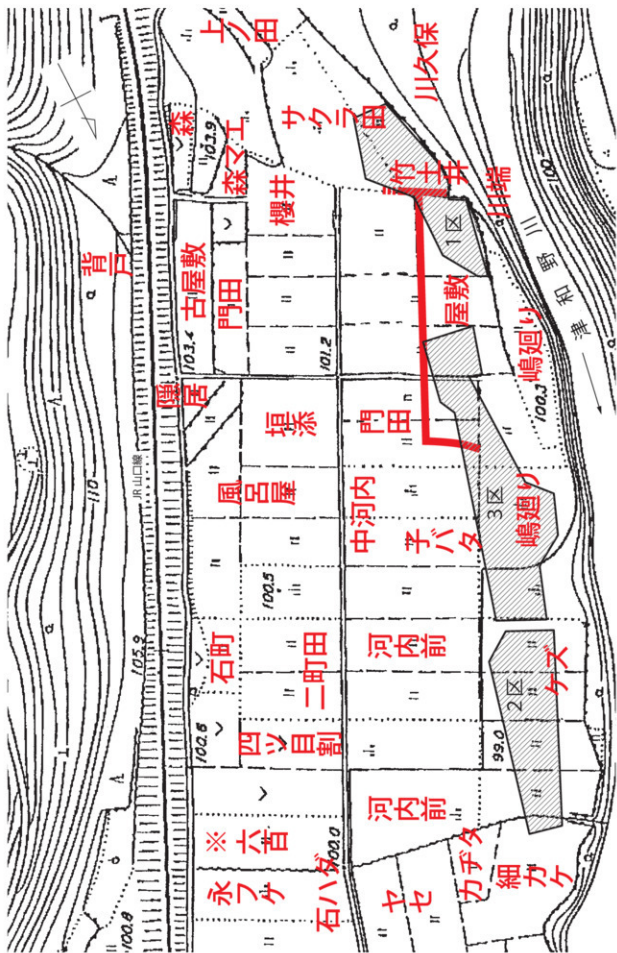
### 4) まとめ

野広遺跡周辺には有力者の居住地が存在したことを示すと推定される小字「屋敷」「竹土居」が存在している。また、遺跡周辺の切り絵図を見ると字「屋敷」の一角が水路によって方形に区画されていたことがわかる。このことは、この地にあった屋敷地の敷地が地割りの形で近代まで残されていた可能性を示しており興味深い。

野広遺跡からは、輸入陶磁器に加え天目茶碗、茶臼、茶入れなどが出土しており、これはこの地で生活した有力者層の所有していたものと思われる。また、野広遺跡を含む野濃郷は13世紀末の入部から関ヶ原の合戦後に萩に移るまで、吉見氏が支配していたとされている。これらの事から野広遺跡の建物跡群のうち、15～16世紀の時期が想定されるA群およびB群は吉見氏家臣の居住地であった事が推定される。

### 参考文献

- 山田康弘 2002「中国地方の縄文集落」『島根考古学会誌 第19集』
- 山田康弘 2011「集落と墓から想定される地域社会の様相—中国地方をケーススタディとして—」  
『季刊考古学114号』
- 沖本常吉 1970『津和野町史第1巻』
- 津和野町教育委員会 2000『喜時雨遺跡』
- 津和野町教育委員会 2008『木部地区発掘調査報告書 土居丸館跡・本郷遺跡・大届け遺跡』
- 村上 勇 2009「15・16世紀の出土陶磁より見た地域社会」第8回山陰中世土器検討会発表要旨



第67回 野広遺跡周辺の地名

※欄外には大百とある

表1 野広遺跡建物跡一覧表

## 建物跡1

規模		梁行き			桁行き		
主軸		2.20m(1間)			7.54m(2間)		
主軸		N-25°-W			面積(m <sup>2</sup> )	16.588	
柱 穴	番号	P28	P17	P8	P33	P14	P47
	上面径(cm)	34×32	41×36	40×34	59×42	40×34	26×24
	下面径(cm)	18×22	30×22	28×22	34×28	26×25	16×14
	深さ(cm)	30	18	25	27	35	17
柱間距離(m)	P47~P28	P33~P8	P28~P17	P17~P8	P47~P14	P14~P33	
		1.92	1.92	3.64	3.2	3.62	3.24

## 建物跡2

規模		梁行き			桁行き		
主軸		2.40m(1間)			5.60m(2間)		
主軸		N-26°-W			面積(m <sup>2</sup> )	13.44	
柱 穴	番号	P45	P15	P139	P41	P58	
	上面径(cm)	28×24	50×44	22×20	46×40	50×30	
	下面径(cm)	16×16	32×24	16×14	26×24	30×24	
	深さ(cm)	24	48	19	21	26	
柱間距離(m)	P139~P41	P45~P15	P15~P139	P58~P41			
		1.84	2.44	2.54	2.16		

## 建物跡3

規模		梁行き			桁行き		
主軸		2.78m(1間)			5.38m(2間)		
主軸		N-10°-E			面積(m <sup>2</sup> )	8.496	
柱 穴	番号	P111	P109	P120	P127	P100	P114
	上面径(cm)	26×26	16×12	26×28	30×24	30×28	24×24
	下面径(cm)	20×14	10×10	18×18	5×8	20×20	14×14
	深さ(cm)	35	30	42	33	30	24
柱間距離(m)	P111~P114	P120~P127	P111~P109	P109~P120	P114~P100	P100~P127	
		2.46	2.42	2.56	2.3	2.68	2.4

## 建物跡4

規模		梁行き			桁行き		
主軸		4.32m(2間)			10.14m(5間)		
主軸		N-11°-E			面積(m <sup>2</sup> )	43.8048	
柱 穴	番号	P416	P413	P403	P396	P498	P411
	上面径(cm)	44×42	50×38	54×48	42×60	30×34	48×40
	下面径(cm)	30×30	36×28	30×28	20×42	22×22	34×26
	深さ(cm)	16	26	20	8	24	28
	番号	P366	P344	P383	P358	P432	P248
	上面径(cm)	40×36	36×36	66×38	46×44	44×44	70×42
	下面径(cm)	30×24	30×26	42×22	40×32	40×32	52×24
	深さ(cm)	21	41	26	452	26	36
	番号	P374	P227				
	上面径(cm)	56×50	40×32				
	下面径(cm)	32×24	6×8				
	深さ(cm)	44	37				
柱間距離(m)		P374~P227	P227~P416	P344~P366	P366~P411	P416~P413	P413~P403
		1.76	1.82	1.78	2.02	1.6	1.56
		P403~P396	P396~P498	P498~P411	P374~P255	P255~P432	P432~P358
		1.54	1.52	1.9	1.66	1.4	1.68
	P358~P383	P383~P344					
	1.34	1.7					

## 建物跡5

規模		梁行き			桁行き		
主軸		2.16m(1間)			3.38m(2間)		
主軸		N-70°-W			面積(m <sup>2</sup> )	7.3008	
柱 穴	番号	P961	P344	P336	P254	P388	
	上面径(cm)	32×30	42×34	26×26	30×30	30×30	
	下面径(cm)	22×18	30×26	18×20	28×20	20×18	
	深さ(cm)	23	41	14	21	13	
柱間距離(m)	P388~P961	P254~P336	P961~P344	P344~P336	P388~P254		
		1.8	1.96	1.26	1.48	2.96	

## 建物跡6

規模		梁行き			桁行き		
主軸		1.8m(1間)			4.72m(2間)		
主軸		N-75°-W			面積(m <sup>2</sup> )	8.496	
柱 穴	番号	P377	P370	P276	P420	P270	P391
	上面径(cm)	30×30	20×24	24×22	64×24	50×19	34×28
	下面径(cm)	16×22	10×12	12×12	50×28	28×28	20×16
	深さ(cm)	35	13	19	28	48	28
柱間距離(m)	P377~P391	P276~P420	P377~P370	P370~P276	P391~P270	P270~P420	
		1.52	1.34	2.94	2.08	2.18	1.8

**建物跡 7**

規模		梁行 ぎ			桁行 ぎ		
主 軸		2.92m(1間)			6.24m(2間)		
主 軸		N-78°-W			面積(m <sup>2</sup> )		
柱 穴	番号	P405	P424	P418	P282	P270	P379
	上面径(cm)	32×34	38×42	40×30	32×34	50×48	34×36
	下面径(cm)	22×28	24×26	24×20	24×22	28×28	18×28
	深 さ(cm)	32	39	34	38	48	25
柱間距離(m)	P405~P379	P418~P282	P405~P424	P424~P418	P379~P270	P270~P282	
		2.68	2.56	2.88	2.48	2.88	2.9

**建物跡 8**

規模		梁行 ぎ			桁行 ぎ		
主 軸		2.32m(1間)			4・46m(2間)		
主 軸		N-80°-W			面積(m <sup>2</sup> )		
柱 穴	番号	P397	P432	P291	P295	P248	P294
	上面径(cm)	32×28	42×42	130×62	36×34	38×32	38×30
	下面径(cm)	22×22	26×26	18×16	14×18	22×22	18×16
	深 さ(cm)	36	54	46	34	38	25
柱間距離(m)	P294~P397	P295~P291	P294~P248	P248~P295	P397~P432	P432~P291	
		1.88	2.16	2.06	1.92	2.06	0.64

**建物跡 9**

規模		梁行 ぎ			桁行 ぎ		
主 軸		2.86m(1間)			3.60m(2間)		
主 軸		N-11°-E			面積(m <sup>2</sup> )		
柱 穴	番号	P250	P246	P288	P294	P479	
	上面径(cm)	30×26	36×30	72×54	80×48	54×36	
	下面径(cm)	16×18	16×18	22×22	30×30	32×30	
	深 さ(cm)	23	27	52	53	50	
柱間距離(m)	P250~P288	P250~P246	P288~P294	P294~P479			
		2.36	1.46	1.24	1.46		

**建物跡10**

規模		梁行 ぎ			桁行 ぎ		
主 軸		3.04m(1間)			4.16m(2間)		
主 軸		N-13°-E			面積(m <sup>2</sup> )		
柱 穴	番号	P408	P402	P412	P255	P432	P358
	上面径(cm)	40×30	40×30	34×24	68×40	44×44	60×48
	下面径(cm)	20×16	20×24	22×16	48×24	26×24	48×30
	深 さ(cm)	28	19	32	41	54	53
柱間距離(m)	P255~P408	P358~P412	P255~P432	P432~P358	P408~P402	P402~P412	
		2.7	2.58	1.56	1.54	1.76	1.78

**建物跡11**

規模		梁行 ぎ			桁行 ぎ		
主 軸		2.64m(1間)			6.04m(2間)		
主 軸		N-17°-W			面積(m <sup>2</sup> )		
柱 穴	番号	P360	P390	P505	P400	P358	P339
	上面径(cm)	44×40	32×30	46×34	40×38	54×40	36×30
	下面径(cm)	30×34	26×26	22×16	30×26	38×30	16×8
	深 さ(cm)	17	14	34	45	53	32
柱間距離(m)	P360~P339	P505~P400	P360~P390	P390~P505	P339~P358	P358~P400	
		2.54	2.06	2.58	2.6	2.66	3.02

**建物跡12**

規模		梁行 ぎ			桁行 ぎ		
主 軸		2.56m(1間)			5.26m(2間)		
主 軸		N-15°-W			面積(m <sup>2</sup> )		
柱 穴	番号	P392	P384	P340	P265	P283	
	上面径(cm)	44×36	38×24	30×28	50×50	30×28	
	下面径(cm)	26×20	20×18	18×14	24×12	14×16	
	深 さ(cm)	32	18	25	40	25	
柱間距離(m)	P392~P265	P392~P384	P384~P340	P265~P283			
		2.16	2.28	2.58	2.06		

**建物跡13**

規模		梁行 ぎ			桁行 ぎ		
主 軸		2.38m(1間)			5.02m(2間)		
主 軸		N-5°-W			面積(m <sup>2</sup> )		
柱 穴	番号	P240	P242	P369	P272	P291	SK19
	上面径(cm)	36×28	28×30	58×42	42×36	1.30×90	36×30
	下面径(cm)	20×24	18×14	24×26	26×22	24×18	10×10
	深 さ(cm)	38	33	30	40	35	40
柱間距離(m)	P240~SK19	P369~P272	P240~P242	P242~P369	SK19~P291	P291~P272	
		1.92	1.98	1.96	2.3	2	1.94

建物跡14

規模		梁行き			桁行き		
主軸		2.04m(1間)			4.18m(2間)		
柱 穴	番号	P238	P393	P385	面積(m <sup>2</sup> )	P338	8.5272
	上面径(cm)	48×44	26×26	30×28	P255	36×36	54×50
	下面径(cm)	30×18	18×16	20×14	70×34	22×22	30×24
	深さ(cm)	37	27	17	52×24	36	44
柱間距離(m)	P238～P255	P385～P271	P238～P393	P393～P385	P271～P338	P338～P255	
		1.7	1.9	1.96	1.7	1.86	1.52

建物跡15

規模		梁行き			桁行き		
主軸		1.78m(1間)			3.60m(2間)		
柱 穴	番号	P289	P420	P517	面積(m <sup>2</sup> )	P435	6.408
	上面径(cm)	44×42	64×40	42×38	P294	76×48	1.24×1.14
	下面径(cm)	34×24	56×24	28×22	34×24	28×24	96×78
	深さ(cm)	38	28	41	42	53	34
柱間距離(m)	SK19～P294	P420～P517	SK19～P289	P289～P420	P294～P435	P435～P517	
		92	1.34	90	1.44	1.5	1.3

建物跡16

規模		梁行き			桁行き		
主軸		1.96m(1間)			3.82m(2間)		
柱 穴	番号	P378	P386	P426	面積(m <sup>2</sup> )	P394	7.4872
	上面径(cm)	48×46	34×38	26×22	P265	50×50	30×38
	下面径(cm)	34×28	20×22	12×24	12×30	18×18	20×20
	深さ(cm)	23	52	16	24	24	32
柱間距離(m)	P398～P378	P265～P426	P378～P386	P386～P426	P398～P394	P394～P265	
		1.36	1.66	1.8	1.66	1.7	1.44

建物跡17

規模		梁行き			桁行き		
主軸		2.24m(1間)			4.46m(2間)		
柱 穴	番号	P431	P410	P402	面積(m <sup>2</sup> )	P241	9.9904
	上面径(cm)	36×32	38×36	32×24	P235	32×30	
	下面径(cm)	22×18	20×16	24×20	44×34	18×20	
	深さ(cm)	32	37	19	28	44	62
柱間距離(m)	P402～P241	P431～P410	P410～P402	P235～P241			
		2.1	1.82	2.06	2.08		

建物跡18

規模		梁行き			桁行き		
主軸		1.94m(1間)			3.10m(2間)		
柱 穴	番号	P305	P481	P417	面積(m <sup>2</sup> )	P302	6.014
	上面径(cm)	26×22	42×40	30×22	P445	60×30	
	下面径(cm)	19×12	26×26	18×14	32×36	48×22	
	深さ(cm)	39	27	17	18×18	38	26
柱間距離(m)	P305～P302	P305～P481	P481～P417	P302～P445			
		1.68	1.3	1.12	1.1		

建物跡19

規模		梁行き			桁行き		
主軸		1.38m(1間)			2.90m(2間)		
柱 穴	番号	P499	P309	P483	面積(m <sup>2</sup> )	P311	4.002
	上面径(cm)	28×24	34×30	50×40	P304	22×20	
	下面径(cm)	14×16	16×16	22×22	84×54	9×12	
	深さ(cm)	47	25	50	20×16	35	30
柱間距離(m)	P499～P309	P309～P483					
		1.1	1.08				

建物跡20

規模		梁行き			桁行き		
主軸		1.60m(1間)			3.00m(2間)		
柱 穴	番号	P310	P484	P487	面積(m <sup>2</sup> )	P257	4.8
	上面径(cm)	30×20	28×22	84×40	P311	24×22	84×54
	下面径(cm)	10×8	14×14	12×10	84×54	12×10	20×16
	深さ(cm)	30	15	47	36	15	35
柱間距離(m)	P310～P311	P487～P450	P310～P484	P484～P487	P311～P257	P257～P450	
		0.92	1.4	1.22	1.3	1.6	1.26

建物跡21

規模		梁行 き			桁行 き		
主 軸		3.2m(2間) N-12°-E			4.94m(3間)		
柱 穴	番 号	P333	P256	P247	面積(m <sup>2</sup> )	P311	P302
	上面径(cm)	102×86	30×34	40×36	28×24	84×56	28×24
	下面径(cm)	18×20	28×20	28×28	23×16	20×14	16×16
	深 さ(cm)	41	35	38	47	35	38
	番 号	P245	P321	P334			
上面径(cm)	96×84	46×42	30×24				
下面径(cm)	24×20	28×30	18×12				
深 さ(cm)	48	32	20				
柱間距離(m)		P333~P234	P334~P321	P499~P311	P311~P302	P333~P256	P256~P247
		1.34	1.18	1.1	1.1	0.7	1.34
		P247~P499	P321~P245				
		1.24	1.3				

建物跡22

規模		梁行 き			桁行 き		
主 軸		2.22m(1間) N-5°-E			3.86m(2間)		
柱 穴	番 号	P281	P296	P353	面積(m <sup>2</sup> )	P500	P274
	上面径(cm)	40×38	44×36	34×24	40×40	36×28	74×56
	下面径(cm)	38×30	36×36	16×14	22×20	16×16	58×42
	深 さ(cm)	18	30	42	28	19	44
	番 号	P281~P274	P353~P320	P281~P296	P296~P353	P274~P500	P500~P320
柱間距離(m)	1.9	1.98	1.52	1.78	1.44	1.82	

建物跡23

規模		梁行 き			桁行 き		
主 軸		2.62m(1間) N-6°-E			4.24m(2間)		
柱 穴	番 号	P285	P342	P331	面積(m <sup>2</sup> )	P319	P244
	上面径(cm)	32×28	36×30	30×22	42×36	40×32	
	下面径(cm)	22×22	22×18	20×16	6×6	24×22	
	深 さ(cm)	25	30	27	28	15	
	番 号	P285~P244	P331~P319	P285~P342	P342~P331		
柱間距離(m)	2.46	2.12	1.8	1.9			

建物跡24

規模		梁行 き			桁行 き		
主 軸		2.78m(1間) N-21°-W			5.34m(2間)		
柱 穴	番 号	P513	P356	P350	面積(m <sup>2</sup> )	P332	P274
	上面径(cm)	22×18	38×30	28×22	24×24	70×58	
	下面径(cm)	10×8	4×3	16×12	10×10	58×42	
	深 さ(cm)	35	33	30	23	44	
	番 号	P350~P356	P274~P332	P332~P350	P513~P356		
柱間距離(m)	3.42	2.02	2.42	2.64			

建物跡25

規模		梁行 き			桁行 き		
主 軸		2.46m(1間) N-56°-E			5.66m(2間)		
柱 穴	番 号	P351	P280	P322	面積(m <sup>2</sup> )	P500	P352
	上面径(cm)	26×20	44×32	30×26	30×26	34×30	
	下面径(cm)	14×13	36×22	18×16	10×14	22×22	
	深 さ(cm)	20	26	17	19	16	
	番 号	P351~P352	P351~P280	P280~P322	P352~P500		
柱間距離(m)	2.14	2.8	2.42	2.4			

建物跡26

規模		梁行 き			桁行 き		
主 軸		2.60m(1間) N-30°-W			6.18m(2間)		
柱 穴	番 号	P452	P329	P296	面積(m <sup>2</sup> )	P275	P262
	上面径(cm)	32×30	52×30	46×40	32×30	42×30	
	下面径(cm)	18×16	36×20	36×28	22×14	30×30	
	深 さ(cm)	24	19	30	14	36	
	番 号	P452~P262	P296~P275	P452~P329	P329~P296		
柱間距離(m)	2.26	2.1	2.88	2.44			



## 建物跡27

規模		梁行 き			桁行 き		
主 軸		3.36m(1間)			6.70m(2間)		
		N-29°-W			面積(m <sup>2</sup> )		
柱 穴	番 号	P454	P206	P223	P203	P198	22.512
	上面径(cm)	32×30	53×50	48×38	42×34	38×30	
	下面径(cm)	18×16	40×36	40×30	22×24	10×12	
	深 さ(cm)	44	29	2	16	23	
柱間距離(m)	P454~P198	P454~P206	P206~P223	P198~P203			
		3.08	3.42	2.52	3.42		

## 建物跡28

規模		梁行 き			桁行 き		
主 軸		2.20m(1間)			4.74m(2間)		
		N-6°-E			面積(m <sup>2</sup> )		
柱 穴	番 号	P200	P209	P210	P208	P203	
	上面径(cm)	24×36	36×32	42×40	62×42	40×34	
	下面径(cm)	16×18	24×22	26×24	46×30	30×24	
	深 さ(cm)	16	16	31	21	46	
柱間距離(m)	P210~P208	P209~P209	P209~P210	P203~P208			
		1.78	2.16	1.9	1.92		

## 建物跡29

規模		梁行 き			桁行 き		
主 軸		1.98m(1間)			4.22m(2間)		
		N-0°-E			面積(m <sup>2</sup> )		
柱 穴	番 号	P467	P215	P212	P217	P205	P477
	上面径(cm)	56×40	66×52	42×38	58×40	40×38	42×?
	下面径(cm)	26×28	40×28	24×30	38×28	30×30	24×20
	深 さ(cm)	43	42	42	36	47	54
柱間距離(m)	P467~P477	P212~P217	P467~P215	P477~P205	P205~P217	P215~P212	
		1.5	1.52	1.56	1.72	1.68	1.82

## 建物跡30

規模		梁行 き			桁行 き		
主 軸		2.34m(1間)			4.60m(2間)		
		N-86°-W			面積(m <sup>2</sup> )		
柱 穴	番 号	P460	P455	P185	P465	P199	10.764
	上面径(cm)	44×34	58×38	54×46	68×38	46×42	
	下面径(cm)	28×36	40×24	30×28	54×26	34×30	
	深 さ(cm)	54	24	47	32	30	
柱間距離(m)	P460~P466	P466~P199	P460~P455	P455~P185			
		2	1.94	1.86	2.16		

表 2 野広遺跡柱列一覧表

柱列 1

規模		4.40m(2間)		
主軸		N-30°-W		
柱 穴	番号	P21	P54	P56
	上面径(cm)	30×26	28×22	34×30
	下面径(cm)	24×16	18×16	22×20
	深さ(cm)	38	19	26
柱間距離(m)		P21~P54	P54~P56	
		1.9	1.84	

柱列 2

規模		6.12m(2間)		
主軸		N-35°-W		
柱 穴	番号	P12	P25	P23
	上面径(cm)	22×20	36×34	30×26
	下面径(cm)	20×12	26×26	8×8
	深さ(cm)	9	16	16
柱間距離(m)		P12~P25	P25~P23	
		2.66	2.72	

柱列 3

規模		4.90m(2間)		
主軸		N-32°-W		
柱 穴	番号	P13	P34	P31
	上面径(cm)	32×32	40×34	56×38
	下面径(cm)	20×12	26×20	24×28
	深さ(cm)	17	18	32
柱間距離(m)		P13~P34	P34~P31	
		1.84	2	

柱列 4

規模		5.16m(2間)		
主軸		N-37°-W		
柱 穴	番号	P29	P16	P36
	上面径(cm)	30×30	30×28	36×28
	下面径(cm)	20×16	18×14	24×16
	深さ(cm)	13	32	30
柱間距離(m)		P29~P16	P16~P36	
		2.1	2.14	

柱列 5

規模		5.96m(2間)		
主軸		N-31°-W		
柱 穴	番号	P98	P84	P73
	上面径(cm)	30×22	40×38	74×46
	下面径(cm)	18×12	22×22	24×32
	深さ(cm)	25	22	33
柱間距離(m)		P98~P84	P84~P73	
		2.58	2.36	

柱列 6

規模		長軸：6.50m(2間)、短軸：3.16m(1間)		
主軸		N-10°-E		
柱 穴	番号	P103	P104	P146
	上面径(cm)	44×38	34×34	28×26
	下面径(cm)	34×30	27×26	12×12
	深さ(cm)	33	47	41
	番号	P108		
	上面径(cm)	40×34		
	下面径(cm)	30×22		
柱間距離(m)		P103~P104	P104~P146	P103~P108
		2.7	2.8	2.48

柱列 7

規模		4.98m(2間)		
主軸		N-17°-E		
柱 穴	番号	P112	P106	P119
	上面径(cm)	28×26	28×26	24×22
	下面径(cm)	22×22	16×16	16×14
	深さ(cm)	31	31	39
柱間距離(m)		P112~P106	P106~P119	
		2.02	2.2	

柱列8

規模		5.44m(3間)		
主	軸	N-13'-E		
	番号	P372	P433	P435
柱 穴	上面径(cm)	36×32	44×44	60×42
	下面径(cm)	24×18	30×22	32×22
	深さ(cm)	35	35	42
	番号	P518		
	上面径(cm)	84×56		
	下面径(cm)	50×36		
	深さ(cm)	45		
柱間距離(m)		P372~P433	P433~P435	P435~P518
		1.22	1.52	0.94

柱列9

規模		4.72m(2間)		
主	軸	N-83'-E		
	番号	P222	P233	P485
柱 穴	上面径(cm)	56×40	48×38	38×34
	下面径(cm)	40×26	32×20	14×28
	深さ(cm)	40	49	27
		P222~P233	P233~P485	
柱間距離(m)		1.74	1.8	

柱列10

規模		4.82m(2間)		
主	軸	N-3'-E		
	番号	P195	P451	P444
柱 穴	上面径(cm)	72×60	52×48	46×42
	下面径(cm)	48×38	32×32	34×24
	深さ(cm)	71	60	55
		P195~P451	P451~P444	
柱間距離(m)		1.64	1.6	

柱列11

規模		4.76m(2間)		
主	軸	N-8'-E		
	番号	P459	P463	P477
柱 穴	上面径(cm)	40×30	44×38	24×24
	下面径(cm)	12×12	22×20	18×14
	深さ(cm)	35	37	31
		P459~P463	P463~P477	
柱間距離(m)		1.82	1.96	

表3 野広遺跡出土輸入陶磁器一覽表

遺跡名	所在 市町村	遺跡の 性格	中国製 陶磁器																				
			青磁 碗						青磁 皿 杯						白磁 碗 皿				白磁 小瓶				
			同安 窯・磁1 同0	遼		部		遼 窯	遼 窯	遼 窯	遼 窯	遼 窯	遼 窯	遼 窯	遼 窯	遼 窯	遼 窯	遼 窯					
				B0	B1	B2	B3												B4	C1	C2	C3	D
野広遺跡	津和野町	集落跡	2	1	3	1	4	3	4	3	3	4	5	10	2	2	1	3	1	4	3	1	1
合計			2	1	4	1	4	3	7	3	7	5	17	2	1	2	4	4	4	11	1	1	1

遺跡名	所在 市町村	遺跡の 性格	中国製 陶磁器								
			青花 碗								
			B	C	D	E	華南	不明 その他			
野広遺跡	津和野町	集落跡		3			4				
合計			3				11				

遺跡名	所在 市町村	遺跡の 性格	調査区	中国製 陶磁器																	
				青花 皿			青花 碗			青花 鉢 皿											
				B	C	D	E	華南	不明 その他	青花 鉢 皿	不明 その他	天目	陶輪								
野広遺跡	津和野町	集落跡	Ⅲ区				1	2	1												
合計							1	2	1												

遺跡名	所在 市町村	遺跡の 性格	調査区	朝鮮王朝製品		東南アジア製品					
				碗	皿	碗	皿				
				不明	不明	不明	不明				
野広遺跡	津和野町	集落跡									
合計											

表4 野広遺跡土器・陶磁器観察表

調査 番号	写真 番号	出土位置	種別	器種	型式・時期	寸法 (cm)			文様・調整		胎土	色調	備考	
						口径	底径	高さ	内面	外面				
8	1	1区 築石1 土庫身の下	陶器(灰被)	半球形陶	18C後半~ 19C前半	10.0	-	-	無釉	無釉	密	灰白色(2.5Y8/1)、 釉・鈍い黄褐色 (10YR7/2)		
8	2	1区 T3 築石 内部	陶器	罐鉢	近世	-	-	-	10系ナメ、罫目 4条 1単位 無釉	10系ナメ 無釉	密	1m以下 の砂粒を含む	灰白色(2.5Y8/3)	
8	3	1区 築石1の下	瓦質土器	瓦	-	-	-	-	ハナメ	ナデ	密	黄褐色(2.5Y6/1)		
8	4	1区 T3 築石 内部	陶器	罐鉢	近世	-	11.2	-	10系ナメ、罫目 1条 1単位 無釉	10系ナメナ	1m以下 の砂粒を含む	内:鈍い褐色(2.5Y8/4) 外:黄褐色(2.5Y8/3)、 鈍い中褐色(2.5Y8/4)		
10	1	1区 築石2の下	瓦質土器	瓦	-	-	-	-	ナデ、ハナメ、罫目 4条1単位	ナデ	密	内:鈍いNS/O 外:鈍いNS/O、 灰黄色(2.5Y7/2)		
10	2	1区 築石2	瓦質土器	瓦	IV	-	-	-	ナデ	ナデ	密	1m以下 の砂粒を含む	灰黄色(2.5Y6/2)	
10	3	1区 築石2	陶器	花瓶	-	17.0	-	-	無釉	無釉	密	灰黄色(2.5Y7/2)		
10	4	1区 築石2	陶器(肥田)	丸形陶	18C代	-	-	-	灰釉	灰釉	密	鈍い黄褐色(2.5Y6/3)		
10	5	1区 築石2	陶器	こね鉢	近世	21.0	-	-	無釉	無釉	密	灰オリーブ色(7.5Y6/2)		
10	6	1区 築石2 の下	陶器(灰被)	半球形陶	18C後半~ 19C前半	-	-	-	無釉	無釉	密	淡黄色(2.5Y8/3)		
10	7	1区 築石2 -1石間	陶器(肥田系)	丸形陶	京焼風肥田 陶器 18C前半	-	-	-	透明釉	透明釉 只目 山水文 彫刻	密	内:内輪:灰黄色 (2.5Y7/3) 胴部:灰白色(10Y8/2)		
10	8	1区 築石2 2層	青磁 (龍泉系)	碗	有作 龍文等 C-B	-	-	-	無釉	無釉	密	灰オリーブ色(7.5Y5/3)		
10	9	1区 築石2	白磁	杯	E-1	-	-	-	無釉	無釉	密	灰白色(2.5Y8/1)		
11	1	1区 SK11	縄文土器	不明	-	-	-	-	二枚貝殻のちナメ	ナデ	1m以下 の砂粒を含む	内:灰黄色(2.5Y8/3) 外:鈍い黄褐色 (10YR7/4)		
11	2	1区 SK11	縄文土器	不明	-	-	-	-	ナデ	ナデ	1m以下 の砂粒を含む	灰黄褐色(10YR6/2)		
12	1	1区 SK12	縄文土器	不明	-	-	-	-	無釉	無釉	1m以下 の砂粒を含む	内:灰黄色(2.5Y7/2) 外:淡黄色(2.5Y8/3)		
15	1	1区 SD04	瓦質土器	罐鉢	-	-	-	-	罫目	ナデ	密	灰赤色(2.5Y8/5)		
15	2	1区 SD04 1層	陶器	こね鉢	-	-	-	-	無釉	無釉	密	灰黄色(2.5Y7/2)		
16	1	1区 T1	土器	瓦	-	-	-	-	ナデ	ナデ	1m以下 の砂粒をわずかに含む	灰黄褐色(10YR6/2)		
16	2	1区 T2	土器	瓦	-	-	-	-	ナデ	ハナメ、ナデ	密	内:鈍い黄褐色(10YR7/2) 外:鈍い黄褐色(10YR7/4)	外面:炭化物付着	
16	3	1区 T3	土器	鉢ないし 器	-	-	-	-	1ダナ	1ダナ	密	内:1m以下 の砂粒をわずかに含む 外:灰黄色(2.5Y8/3) 外:灰黄褐色(10YR6/2)		
16	4	1区	土質土器	杯	12.4	5.4	3.7	10系ナメ	10系ナメ、ナデ	密	内:1m以下 の砂粒をわずかに含む 外:鈍い黄褐色(10YR7/4) ~褐色(2.5YR7/6)			
16	5	1区	土質土器	杯	-	7.0	-	10系ナメ、ナデ	10系ナメ、ナデ	密	1m以下 の砂粒を含む	鈍い黄褐色(10YR7/3)		
16	6	1区	土質土器	杯	-	(6.0)	-	10系ナメ、ナデ	10系ナメ、ナデ、静止 水切り	密	1m以下 の砂粒をわずかに含む	内:灰黄褐色(10YR7/2) 外:鈍い黄褐色 (10YR7/4)		
16	7	1区	土質土器	杯	-	8.0	-	10系ナメ	10系ナメ	密	1m以下 の砂粒を含む	内:鈍い黄褐色 (10YR7/4) 外:鈍い褐色(2.5YR6/4)		
17	1	22 1区	瓦質土器	罐鉢	-	-	-	-	ナデ	ナデ	密	1m以下 の砂粒を含む	灰黄色(2.5Y6/2)	
17	2	22 1区 2層-(2)	瓦質土器	罐鉢	-	-	-	-	ナデ	ナデ	密	内:灰白色(2.5Y8/2) 外:灰黄色(2.5Y7/2)		
17	3	22 1区	瓦質土器	罐鉢	-	-	-	-	ナデ、罫目 4条1単 位	ナデ	密	1m以下 の砂粒をわずかに含む	内:灰黄色(2.5Y7/2) 外:黄褐色(2.5Y6/1)	
17	4	22 1区	瓦質土器	罐鉢	-	-	-	-	ナデ、罫目 4条ない しそれ以上1単位	ナデ	密	1m以下 の砂粒を含む	内:黄褐色(2.5Y6/1) 外:黄褐色(2.5Y5/1)	
17	5	22 1区	瓦質土器	罐鉢	-	-	-	-	ナデ	ナデ	密	1m以下 の砂粒をわずかに含む	灰黄色(2.5Y6/2)	
17	6	22 1区	瓦質土器	罐鉢	-	-	-	-	ナデ	ナデ	密	1m大の 砂粒をわずかに含む	灰黄色(2.5Y6/2)	
17	7	22 1区	瓦質土器	罐鉢	-	-	-	-	ナデ、罫目 3条1単 位	ナデ	密	1m以下 の砂粒をわずかに含む	暗灰黄色(2.5Y5/2)	

圃地 番号	通水 番号	写真 図例	出土位置	圃地 種類	資材 種類	型式・時期	計測値 (cm)			文種・用途		動土	色調	備考		
							口径	幅径	高さ	内面	外面					
17	8	22	1区	瓦質土層	雑草		-	-	-	ナメ、窪目 4集ない 1本以上1単位	ナメ	底 1m以下 の砂粒を占 む	内：黄灰色(2.5Y6/1) 外：黄灰色(2.5Y6/1)			
17	9	22	1区	瓦質土層	雑草		-	-	-	ナメ、窪目 4集1単 位を含む	ナメ	底 1m以下 の砂粒を占 む	黄灰色(2.5Y7/2)			
17	10	22	1区	瓦質土層	雑草		-	-	-	ナメ、窪目 4集1単 位を含む	ナメ	底 1m以下 の砂粒を占 む	内：黄灰色(2.5Y6/0) 外：黄灰色(2.5Y6/0)			
17	11	22	1区	瓦質土層	雑草		28.0	-	-	ナメ、ハケメ、窪目 4集1単位	ナメ	底 1m以下 の砂粒を占 む	内：黄灰色(2.5Y6/1) 外：黄灰色(2.5Y7/2)、 黄灰色(2.5Y7/1)			
17	12	22	1区	瓦質土層	芝草		-	-	-	ナメ、ハケメ	ナメ	2m以下の中 粒を占 む	黄灰色(2.5Y6/2)			
17	13	22	1区	瓦質土層	芝草		-	-	-	ナメ	ナメ	1m以下の中 粒を占 む	黄灰色(2.5Y7/2)			
17	14	22	1区 T3	瓦質土層	雑草		-	-	-	ナメ	ナメ	2m以下の中 粒を占 む	内：黄灰色(2.5Y6/0) 外：黄灰色(2.5Y6/0)			
17	15	22	1区	瓦質土層	雑草		-	-	-	ナメ	ナメ	1m以下の中 粒を占 む	内：黄灰色(2.5Y6/1) 外：黄灰色(2.5Y6/1)			
17	16	22	1区	瓦質土層	雑草		-	-	-	ナメ	ナメ	底 2m以下 の砂粒を占 む	内：灰白色(2.5Y6/2) 外：灰白色(2.5Y6/2)			
17	17	22	1区	瓦質土層	雑草		-	-	-	ナメ	ナメ	底 2m以下 の砂粒を占 む	黄灰色(2.5Y6/1)			
17	18	22	1区	瓦質土層	雑草		-	-	-	ナメ	ナメ	底 1m以下 の砂粒を占 む	黄灰色(2.5Y6/1)			
17	19	22	1区	瓦質土層	雑草		-	-	-	ナメ	ナメ	底 1m以下 の砂粒を占 む	内：黄灰色(2.5Y6/1) 黄灰色(2.5Y7/1)			
17	20	22	1区	瓦質土層	雑草		-	-	-	ナメ	ナメ	底 2m以下 の砂粒を占 む	内：灰白色(2.5Y6/2) 外：黄灰色(2.5Y7/2)			
17	21	22	1区	瓦質土層	雑草		-	-	-	ナメ	ナメ	底 2m以下 の砂粒を占 む	内：黄灰色(2.5Y6/2) 外：黄灰色(2.5Y6/1)			
17	22	22	1区	瓦質土層	雑草		-	-	-	ナメ	ナメ	1m以下の中 粒を占 む	内：黄灰色(2.5Y6/1) 外：黄灰色(2.5Y6/2)			
17	23	22	1区	瓦質土層	雑草		-	-	-	ナメ	ナメ	1m以下の中 粒を占 む	内：黄灰色(2.5Y6/1) 外：黄灰色(2.5Y6/2)			
17	24	22	1区	瓦質土層	雑草		-	-	-	ナメ	ナメ	1m以下の中 粒を占 む	内：黄灰色(2.5Y6/1) 外：黄灰色(2.5Y7/2)			
17	25	22	T3	瓦質土層	雑草		18.2	-	-	ナメ、ハケメ	ナメ、ナメ目	1m以下の中 粒を占 む	内：黄灰色(2.5Y6/1) 外：黄灰色(2.5Y6/1)			
17	26	22	1区	瓦質土層	雑草		18.3	-	-	ナメ、ハケメ	ナメ、ハケメ	底 1m以下 の砂粒を占 む	内：暗黄褐色(2.5Y5/2) 外：黄灰色(2.5Y6/1)			
17	27	22	1区	瓦質土層	雑草		20.8	-	-	ナメ	ナメ	底 1m以下 の砂粒を占 む	内：黄灰色(2.5Y6/1) 外：黄灰色(2.5Y6/2)			
17	28	22	1区	瓦質土層	雑草		-	-	-	ナメ、ハケメ	ナメ	底 1m以下 の砂粒を占 む	内：灰白色(2.5Y6/2) 外：灰白色(2.5Y7/1)			
17	29	22	1区	瓦質土層	雑草		-	-	-	ナメ	ナメ	底 1m以下 の砂粒を占 む	黄灰色(2.5Y7/1)			
17	30	22	1区 T3	瓦質土層	雑草		-	-	-	ナメ	ナメ	底 1m以下 の砂粒を占 む	黄灰色(2.5Y7/1)			
18	1	22	1区	雑草	雑草		-	-	-	ナメ	ナメ	底	内：黄褐色(2.5Y6/0) 外：灰白色(2.5Y6/2)			
18	2	22	1区 1層	雑草 (表層/表層)	雑草		-	5.8	-	雑草、雑草、底層内 雑草	雑草	底	内：黄褐色(2.5Y6/0) 外：灰白色(2.5Y6/2)			
18	3	22	1区	雑草 (表層)	雑草		-	-	-	雑草	雑草	底	内：灰白色(2.5Y6/2) 外：黄褐色(2.5Y6/0)			
18	4	22	1区	雑草	雑草		(37.6)	-	-	雑草	雑草	底	内：黄褐色(2.5Y6/0) 外：黄褐色(2.5Y6/2)	二次造成を 受ける。造成地 面及び石見		
18	5	22	1区	雑草	雑草		17C中粒6	(23.0)	(8.8)	4.7	見込：動土目録×2	→9割0	雑草	内：黄褐色(2.5Y6/2) 外：黄褐色(2.5Y6/2)	造成地 混 雑	
18	6	22	1区 T2上 平	雑草	雑草		17C中粒2 層	12.1	5.2	3.1	6.6	→9割0	雑草	内：黄褐色(2.5Y6/2) 外：黄褐色(2.5Y6/2)	造成地 混 雑	
18	7	22	1区	雑草 (肥後系)	雑草		17C第2内 平	-	(5.0)	-	透明雑	黄褐色	内：黄褐色(2.5Y6/2) 外：黄褐色(2.5Y6/2)	見込 透明雑 文種 見込 黄褐色 にナメ(ナメ)砂付層 基 層をわずかに含む 見込 透明雑	内：灰白色 (5Y7/1)	初期伊方型式
18	8	22	1区	雑草 (肥後系)	雑草		18C前葉	-	(5.0)	-	透明雑	黄褐色	内：黄褐色(2.5Y6/2) 外：黄褐色(2.5Y6/2)	見込 透明雑 文種 外：不明 高層(二葉雑)	内：灰白色 (2.5Y6/1)	高 高内内 ：「天狗草」
18	9	22	1区	雑草 (肥後系)	雑草		18C中粒	(7.0)	-	-	透明雑	黄褐色	内：黄褐色(2.5Y6/2) 外：黄褐色(2.5Y6/2)	見込 透明雑 雑草	内：黄褐色 (5Y6/1)	

編目番号	制作番号	写真期間	山上位置	種別	器種	型式・時期	計測値 (cm)			文様・塗色		動土	色調	備考
							口径	経径	高さ	内面	外面			
18	10	22	1区	陶器	小壺		(6.0)	—	—	灰輪	灰輪	淡褐色	内内輪：紫灰色(2JY4/2)	想定産地 及び石瓦
18	11	22	1区 石ツナ ラウ内	陶器	瓶(脚)	指定年代 18C中～19 C	—	3.4	—	白輪	白輪、白輪ふき取り	灰	内内輪：灰白色(2JY6/2) 輪ふき取り：オリーブ 褐色(2JY4/0)	想定産地 及び 少須谷
19	1	23	1区	白磁	皿	白磁皿D 18C中	—	—	—	灰輪	灰輪	黒	輪：灰白色(2JY6/1)	
19	2	23	1区	白磁	碗	不明	—	—	—	灰輪	灰輪	黒	輪：灰白色(2JY6/1)	
19	3	23	1区	白磁	皿	白磁皿E 18C	—	—	—	灰輪	灰輪	黒	輪：灰白色(2JY6/0)	
19	4	23	1区 T3	白磁	皿	白磁皿E 18C	—	—	—	灰輪	灰輪	黒	輪：灰白色(2JY6/1)	
19	5	23	1区	白磁	皿	白磁皿E 18C	—	—	—	灰輪	灰輪	黒	輪：灰白色(2JY6/0)	
19	6	23	1区	白磁	皿	白磁皿E 18C	—	—	—	灰輪	灰輪	黒	輪：灰白色(2JY6/1)	
19	7	23	1区	青磁 (龍泉系系)	碗	碗1	—	—	—	灰輪	灰輪	黒	輪：オリーブ色 (2JY5/2)	
19	8	23	1区	青磁 (龍泉系系)	碗	龍泉系系青 磁碗 目4 (18C, 18C)	—	—	—	灰輪	灰輪	黒	輪：オリーブ灰(10Y6/2)	
19	9	23	1区	青磁 (C器 B4)	碗	龍泉系系碗 B4期	—	—	—	灰輪	灰輪	黒	輪：オリーブ灰(10Y6/2)	
19	10	23	1区	青磁 (龍泉系系)	碗	龍泉系系碗 D	—	—	—	灰輪	灰輪	黒	輪：オリーブ灰(10Y6/2)	
19	11	23	1区	青磁 (龍泉系系)	碗	龍泉系系碗 D	—	—	—	灰輪	灰輪	黒	輪：明オリーブ灰色 (6GY7/1)	
19	12	23	1区	青磁 (龍泉系系)	碗	龍泉系系碗 D	—	—	—	灰輪	灰輪	黒	輪：オリーブ灰(10Y5/2)	
19	13	23	1区	青磁	碗	不明	—	—	—	灰輪	灰輪	黒	輪：オリーブ灰 (6GY6/1)	
19	14	23	1区	青磁	花瓶皿		—	—	—	灰輪	灰輪	黒	輪：オリーブ灰 (6GY6/1)	
19	15	23	1区	青磁	盤		—	—	—	灰輪	灰輪	黒	輪：オリーブ黄色 (2JY6/3)	
19	16	23	1区	青磁	盤		—	—	—	灰輪	灰輪	黒	輪：オリーブ黄色 (2JY6/3)	
19	17	23	1区	中国青花	不明		—	—	—	灰輪 染付の文様	灰輪 染付の文様	黒	輪：灰白色(2N6/0)	
19	18	23	1区	青花	皿		(11.2)	—	—	黒磁・2 透明輪	黒磁 透明輪	白色	輪蓋 回青	
19	19	23	(増上土) 3層	陶器 (伴塚類)	茶入		—	4.0	—	回転ケズリ	灰輪、回転ケズリ、回転 赤印	黒	内内：灰黄色(2JY6/2) 外輪：暗褐色(2JY6/3)	
22	1	24	1区 SX01 1層 黒色砂 質土	縄文土器 (縄文土器)			—	—	—	ナデ	浅緑文 ナデ	2m以下の中 粒粘土	鈍い黄褐色(10YR6/0)	
22	2	24	1区 SX01 2層 黒色砂 質土	縄文土器 (縄文土器)	深鉢	緑彩文期	—	—	—	ナデ	ナデ、口縁 RL	2m以下の中 粒粘土	内：鈍い黄褐色(10YR5/0) 外：鈍い黄褐色(10YR5/0)	
22	3	24	1区 SX01 1層 黒色砂 質土	縄文土器 (縄文土器)	深鉢	緑彩文期	—	—	—	ナデ	ナデ、RL	2m以下の中 粒粘土	内：灰黄褐色(10YR5/2) 外：鈍い黄褐色 (10YR6/0)	
23	1	24	1区 2層-1(3)	縄文土器 (縄文土器)	深鉢		—	—	—	ナデ	ナデ、口縁 D字形 印目、尖部 V字形 印目	4m以下の中 粒粘土	内：暗色(2JYR6/0) 外：鈍い黄褐色(2JYR6/0)	
23	2	24	1区	縄文土器 (縄文土器)	深鉢		—	—	—	ナデ	ナデ、口縁 D字形 印目、尖部 V字形 印目	2m以下の中 粒粘土	内：鈍い黄褐色 (10YR6/0) 外：暗色(2JYR6/0)	
23	3	24	1区	縄文土器 (縄文土器)	深鉢		—	—	—	ナデ	ナデ、口縁 欠部中、 尖部 V字形または 1字形印目	3m以下の中 粒粘土	明赤褐色(2JYR6/0)	
23	4	24	1区	縄文土器 (縄文土器)	深鉢		—	—	—	ナデ	ナデ、口縁 小O字形 印目、尖部 小O字形 印目	2m以下の中 粒粘土	鈍い褐色(2JYR6/0)	
23	5	24	1区	縄文土器 (縄文土器)	深鉢		—	—	—	ナデ	ナデ、口縁 棒状工具 による斜目、尖部 キマボコ状小O字形 印目	7m以下の中 粒粘土	内：明褐色(2JYR5/0) 外：暗色(2JYR6/0)	
23	6	24	1区	縄文土器 (縄文土器)	深鉢		—	—	—	ナデ	ナデ、口縁 棒状の斜 目、尖部 三角形印、 V字形の印目	2m以下の中 粒粘土	暗色(2JYR6/0)	
23	7	24	1区	縄文土器 (縄文土器)	深鉢		—	—	—	ナデ	ナデ、口縁端部 V字 形印目、尖部上 V字 形印目	3m以下の中 粒粘土	明黄褐色(10YR6/0)	
23	8	24	1区	縄文土器 (古瓦伴 行)	深鉢		—	—	—	ナデ	ナデ、口縁 刺突	2m以下の中 粒粘土	灰黄褐色(10YR6/2)	
23	9	24	1区	縄文土器 (縄文土器)	深鉢		—	—	—	ナデ		3m以下の中 粒粘土	内：暗色(2JYR6/0) 外：明褐色(2JYR5/0)	

調子番号	調子	写真 図例	表示位置	種別	若種	型式・時期	計測値 (mm)			文種・画面		物主	色調	備考
							口縁	幅	高さ	内面	外面			
23	30	24	1区	縄文土器 割目英等文 土器	深鉢		-	-	-	ナテ、口縁部 割目、英等上 V 字割目	4m以下の中 粒赤土	褐色(7.5YR6/6)		
23	11	24	1区	縄文土器	深鉢		-	-	-	ナテ、口縁部 V字割 目、英等 V字割 目	3m以下の中 粒赤土	内：明褐色(7.5YR5/6) 外：黄褐色(7.5YR6/4)		
23	12	24	1区	縄文土器 割目英等文 土器	深鉢		-	-	-	ナテ、口縁部部 D字 割目、英等 D字割 目	4m以下の中 粒赤土	黄褐色(10YR7/4)		
23	13	24	1区	縄文土器	深鉢		-	-	-	ナテ、口縁部 割目英等、 D字割目		黄褐色(10YR6/4)		
23	14	24	1区	縄文土器 割目英等文 土器	深鉢		-	-	-	ナテ、口縁部 小O字割 目、英等 小O字割 目	3m以下の中 粒赤土	褐色(7.5YR6/4)		
23	15	24	1区	縄文土器 割目英等文 土器	深鉢		-	-	-	ナテ、口縁部 小O字割 目、英等 小O字割 目	3m以下の中 粒赤土	赤褐色(2.5YR5/6)		
23	16	24	1区	縄文土器 割目英等文 土器	深鉢		-	-	-	ナテ、口縁部部 D字 割目、英等 D字割 目	2m以下の中 粒赤土	褐色(7.5YR6/6)		
23	17	24	1区	縄文土器 割目英等文 土器	深鉢		-	-	-	ナテ、口縁部部 V字 割目、英等上 V 字割目	4m以下の中 粒赤土	褐色(7.5YR6/6)		
23	18	24	1区	縄文土器 割目英等文 土器	深鉢		-	-	-	ナテ、口縁部 割目の有 無不明、英等上 V字 割目	2m以下の中 粒赤土	黄褐色(7.5YR6/4)		
23	19	24	1区	縄文土器 割目英等文 土器	深鉢		-	-	-	ナテ、口縁部 小O字割 目、英等 小O字割 目	3m以下の中 粒赤土	黄褐色(7.5YR7/4)		
23	20	24	1区	縄文土器 割目英等文 土器	深鉢		-	-	-	ナテ、口縁部 割目の有 無不明、英等上 小O 字割目	4m以下の中 粒赤土	黄褐色(10YR7/4)		
23	21	24	1区	縄文土器 割目英等文 土器	深鉢		-	-	-	ナテ、口縁部部 V字 割目、英等上 D 字割目	4m以下の中 粒赤土	赤褐色(2.5YR5/6)		
23	22	24	試験T19 区 褐色砂質土	縄文土器	浅鉢		-	-	-	黄い土片	3m以下の中 粒赤土	明褐色(7.5YR5/6)		
23	23	24	1区	縄文土器 割目英等文 土器	深鉢		-	-	-	ナテ、口縁部部 V字 割目、英等 V字割 目	3m以下の中 粒赤土	内：黄褐色(7.5YR5/4) 外：黄褐色(7.5YR5/3)		
23	24	24	1区	縄文土器 割目英等文 土器	深鉢		-	-	-	ナテ、口縁部部 V字 割目、英等上 V字 割目	2m以下の中 粒赤土	内：褐色(7.5YR6/6) 外：赤褐色(2.5YR5/6)		
23	25	24	1区	縄文土器 割目英等文 土器	深鉢		-	-	-	ナテ、口縁部部 V字 割目、英等 V字割 目	3m以下の中 粒赤土	内：明褐色(2.5YR5/6) 外：赤褐色(2.5YR4/4)		
24	1	25	1区	縄文土器 割目英等文 土器	深鉢		-	-	-	ナテ、ナズミ、口縁部 部 D字割目、英等 D字割目	3m以下の中 粒赤土	内：灰褐色(10YR7/D) 外：黄褐色(7.5YR6/4)		
24	2	25	1区	縄文土器 割目英等文 土器	深鉢	29.8	-	-	-	ナテ、口縁部部 V字 割目、英等 V字割 目	3m以下の中 粒赤土	黄褐色(2.5YR5/6)		
24	3	25	1区	縄文土器 割目英等文 土器	深鉢	35.6	-	-	-	ナテ、口縁部部 D字 割目、英等上 D字 割目	2m以下の中 粒赤土	黄褐色(10YR7/4)		
24	4	25	1区	縄文土器 割目英等文 土器	深鉢	28.4	-	-	-	ナテ、ナズミ、口縁部 部 V字割目、英等 V字割目	2m以下の中 粒赤土	黄褐色(10YR5/4)		
24	5	25	1区 試験T 21	縄文土器	深鉢		-	-	-	土片	3m以下の中 粒赤土	黄褐色(7.5YR6/4)	最大径 36.2mm	
25	1	25	1区	縄文土器	深鉢		-	-	-	ナテ	2m以下の中 粒赤土	内：褐色(7.5YR6/6) 外：褐色(7.5YR7/6)		
25	2	25	1区	縄文土器	深鉢		-	-	-	ナテ	3m以下の中 粒赤土	内：黄褐色 (10YR7/4) 外：褐色(2.5YR6/6)		
25	3	25	1区	縄文土器	精制浅鉢		-	-	-	土片	1m以下の中 粒赤土	内：黄褐色(10YR7/4) 外：黄褐色(10YR7/3)		
25	4	25	1区	縄文土器	精制浅鉢		-	-	-	磨滅のため不明	4m以下の中 粒赤土	内：黄褐色(10YR7/D) 外：黄褐色(10YR6/2)		
25	5	25	1区	縄文土器	浅鉢		-	-	-	ナテ	3m以下の中 粒赤土	黄褐色(10YR6/4)		
25	6	25	1区	縄文土器	精制浅鉢		-	-	-	土片	3m以下の中 粒赤土	黄褐色(10YR5/3)		
25	7	25	1区	縄文土器	精制浅鉢		-	-	-	磨滅のため不明	1m以下の中 粒赤土	黄褐色(10YR7/4)		
25	8	25	1区	縄文土器	浅鉢		-	-	-	ナテ	1m以下の中 粒赤土	内：灰褐色(10YR5/D) 外：灰褐色(10YR6/2)		
25	9	25	1区	縄文土器	精制浅鉢	27.0	-	(3.2)	土片	土片	3m以下の中 粒赤土	黄褐色(10YR7/3)		
25	10	25	1区	縄文土器	精制浅鉢		-	-	-	土片	1m以下の中 粒赤土	黄褐色(10YR5/3)		
25	11	25	1区	縄文土器	精制浅鉢		-	-	-	土片	1m以下の中 粒赤土	黄褐色(10YR5/3)		
25	12	24	1区 T8	縄文土器	深鉢	32.8	8.2	15.0	ナテ、巻目帯の5ナ テ	ナテ、巻目帯の5ナ テ	4m以下の中 粒赤土	黄褐色(10YR6/2)	最大径 31.2mm	



棟号 区分	階号	写真 図号	机上位置	種別	若種	型式・時期	計測値(mm)			文相・塗装		物主	色調	備考
							口径	幅寸	高さ	内面	外面			
25	13	25	1区	構文土留	浅鉢		-	4.4	-	ナテ	ナテ	2m以下の特 種土	内：灰黄褐色(OY7R6/2) 外：鈍い黄褐色 (OY7R6/3)	
25	14	25	1区試験 11-19 2層	構文土留	深鉢		-	4.6	-	ナテ	ナテ	4m以下の特 種土	内：鈍い黄褐色 (OY7R/1) 外：鈍い褐色(L2Y8R6/1)	
25	15	25	1区	構文土留	浅鉢		-	4.4	-	ナテ	ナテ	3m以下の特 種土	鈍い黄褐色(OY7R/1)	
29	1	25	3区 建物群 4 P954	土留留	皿		-	-	-	ナテ	ナテ・底面凹陥幸切り	1m以下の特 種土	浅黄褐色(OY7R6/1)	
29	2	25	3区 建物群 4 P403 1層	瓦貫土留	深鉢		-	-	-	ナテ、樋目 4集1単位	ナテ	3m以下の特 種土	内：灰白色(OY7/1) 外：黄灰色(OY8R/1)	
30	1	25	3区 建物群 6 P420	瓦貫土留	皿		-	-	-	ナテ	ナテ・ナテ目	1m以下の特 種土	内：黄灰色(OY7R6/1) 外：灰白色(OY4/1)	
30	2	25	3区 建物群 6 P270	青磁 (建築系系)	皿	鋼C 2	-	-	-	無釉・黒文	無釉・黒文	皿	内汚染：灰セリア色 (L2Y5/2)	
31	1	26	3区 建物群 4 P391	土留留	皿		-	7.1	-	ナテ	ナテ・底面凹陥幸切り	1m以下の特 種土	内：鈍い黄褐色 (OY7R/2) 外：灰黄褐色(OY7R6/2)	
31	2	26	3区 P291	青磁 (建築系系)	皿	建築系系系 4集	-	-	-	無釉	無釉	皿	釉：緑灰色(L2G7R/1)	
32	2	26	3区 建物群 11 P400	瓦貫土留	皿		-	-	-	ナテ	ナテ	3m以下の特 種土	内：黄灰色(L2Y7/2) 外：黄灰色(L2Y5/1)	
33	2	26	3区 建物群 13 P272	瓦貫土留	皿		-	-	-	ナテ	ナテ目	1m以下の特 種土	内：黄灰色(L2Y5/1) 灰黄褐色(L2Y6/2)	
34	1	26	3区 建物群 15 P289	瓦貫土留	皿		23.2	-	-	ナテ、ハテ目	ナテ・ナテ目	皿	黄褐色(L2Y5/1)	
34	2	26	3区 建物群 15 SK19 1層	瓦貫土留	皿		-	-	-	ナテ、ハテ目	ナテ	皿	黄褐色(L2Y6/1)	
34	3	26	3区 建物群 16 P265	土留留	杯		16.8	-	-	ナテ	ナテ	1m以下の特 種土	内：鈍い黄褐色(OY7R6/1) 外：鈍い黄褐色(OY7R6/3)	
35	1	26	3区 建物群 19 P308	瓦貫土留	皿		-	-	-	ナテ	ナテ	1m以下の特 種土	灰白(N5/0)	
35	2	26	3区 建物群 20 P487	瓦貫土留	皿		-	-	-	ナテ、ハテ目	ナテ	2m以下の特 種土	黄褐色(L2Y6/1)	
36	1	26	3区 建物群 21 P247	土留留	皿		-	-	-	ナテ	ナテ	2m以下の特 種土	鈍い黄褐色(OY7R/3)	
36	2	26	3区 建物群 21 P245	瓦貫土留	深鉢		-	-	-	樋目 7集1単位	ナテ	2m以下の特 種土	内：黄灰色(OY7R6/1) 外：黄灰色(OY7R/1)	
36	3	26	3区 建物群 21 P521	瓦貫土留	皿		-	-	-	ナテ	ナテ目	2m以下の特 種土	内：黄灰色(OY7R6/1) 外：黄灰色(OY7R6/1)	
43	1	26	3区 柱列 P233	瓦貫土留	皿		-	-	-	ナテ	ナテ	皿	黄褐色(OY7R6/1)	
45	1	26	3区 SD19	瓦貫土留	皿		-	-	-	ナテ	ナテ	1m以下の特 種土	内：黄灰色(L2Y5/1) 外：黄褐色(L2Y6/1)	
45	2	26	3区 SD19 1層	瓦貫土留	皿		-	-	-	ナテ	ナテ	皿	灰白(N5/0)	
45	3	26	3区 SD19 1層	瓦貫土留	皿		-	-	-	ナテ	ナテ	1m以下の特 種土	黄褐色(L2Y6/1)	
45	4	26	3区 SD19 1層	瓦貫土留	皿		-	-	-	ナテ	ナテ	1m以下の特 種土	灰白(OY6/0)	
45	5	26	3区 SD19 1層	瓦貫土留	皿		-	-	-	ナテ	ナテ	1m以下の特 種土	灰白(OY5/1)	
45	6	26	3区 SD19 1層	瓦貫土留	皿		-	-	-	ナテ	ナテ	1m以下の特 種土	黄褐色(L2Y5/1)	
45	7	26	3区 SD19 1層	瓦貫土留	皿		-	-	-	ナテ	ナテ	1m以下の特 種土	内：黄褐色(L2Y6/1) 外：黄褐色(L2Y5/1)	
45	8	26	3区 SD19 1層	瓦貫土留	皿		-	-	-	ナテ	ナテ	1m以下の特 種土	黄褐色(L2Y5/1)	
45	9	26	3区 SD19 1層	瓦貫土留	皿		-	-	-	ナテ	ナテ	2m以下の特 種土	内：黄褐色(L2Y5/1) 外：灰黄褐色(L2Y6/2)	
45	10	26	3区 SD19 1層	土留留	皿	IV	-	-	-	ナテ	ナテ	1m以下の特 種土	鈍い褐色(L2Y7R/3)	
45	11	26	3区 SD19 1層	瓦貫土留	皿		-	-	-	ナテ	ナテ	2m以下の特 種土	内：灰白色(L2Y5/2) 外：黄褐色(L2Y5/2)	
45	12	26	3区 SD19 1層	瓦貫土留	皿		-	-	-	ナテ	ナテ	1m以下の特 種土	灰白(OY5/1)	
45	13	26	3区 SD19 1層	瓦貫土留	皿		-	-	-	ナテ・ハテ目	ナテ・ハテ目	1m以下の特 種土	内：灰白(OY6/1) 外：灰白(OY5/1)	

調子番号	調子番号	写真図例	机上位置	種別	若種	型式・時期	計測値 (cm)			文様・調整		動土	色調	備考
							口径	幅	高さ	内面	外面			
45	14	26	3区 SD19 1層	瓦質土器	編		—	—	—	ナデ	ナデ	2m以下の特 粒丸七	内：黒灰色(2.5Y5/2) 外：黄灰色(2.5Y6/1)	
45	15	26	3区 SD19 1層	瓦質土器	編		—	—	—	ナデ	ナデ	密	内：灰白色(2.5Y6/2) 外：黄灰色(2.5Y6/2)	
45	16	26	3区 SD19 1層	瓦質土器	編		—	—	—	ナデ	ナデ	1m以下の特 粒丸七	内：灰色(5Y4/1) 外：灰色(5Y6/1)	
45	17	26	3区 SD19 1層	瓦質土器	編		—	—	—	ナデ・ハナ目	ナデ	1m以下の特 粒丸七	黄褐色(2.5Y5/1)	
45	18	26	3区 SD19 1層	瓦質土器	編		—	—	—	ナデ	ナデ	2m以下の特 粒丸七	内：灰オリーブ色(5Y6/2) 外：灰オリーブ色(5Y6/2)	
45	19	26	3区 SD19 1層	瓦質土器	足編		—	—	—	ナデ	ナデ	1m以下の特 粒丸七	鈍い黄褐色(10YR7/2)	
45	20	26	3区 SD19 1層	瓦質土器	足編		—	—	—	ナデ	ナデ	1m以下の特 粒丸七	鈍い褐色(7.5YR7/3)	
45	21	26	3区 SD19 1層	瓦質土器	編		25.4	—	—	ナデ	ナデ	1m以下の特 粒丸七	内：黒灰色(10YR5/1) 外：黒灰色(10YR4/0)	
45	22	26	3区 SD19 1層	瓦質土器	足編	IV (15 C 中 ～10 C 中)	12.3	7.5	—	全面にハナ目	下方 ナナ目	密	内汚：黒灰色(10YR6/1)	
45	23	26	3区 SD19 1層	瓦質土器	滑面		14.0	—	—	ナデ	ナデ	密	内：灰黄褐色(10YR6/2) 外：灰黄褐色(10YR6/2)	
46	1	27	3区 SD19 1層	瓦質土器	環鉢		31.8	—	—	8条1単位の環目	ナデ	1m以下の特 粒丸七	黄褐色(10YR6/1)	
46	2	27	3区 SD19 1層	瓦質土器	環鉢		26.8	—	—	7条1単位の環目	磨面により不詳	1m以下の特 粒丸七	内：黄灰色(2.5Y5/1)	
46	3	27	3区 SD19 1層	瓦質土器	環鉢		29.0	—	—	3条以上1単位の環目	ナデ	密	灰白色(2.5Y8/2)	
46	4	27	3区 SD19 1層	瓦質土器	環鉢		—	—	—	7条1単位の環目	ナデ	密	内：黄灰色(2.5Y4/1) 外：灰色(5N5/0)	
46	5	27	3区 SD19 1層	瓦質土器	環鉢		28.0	—	—	6条1単位の環目	ナデ	密	内：黄灰色(2.5Y6/1) 外：黄灰色(2.5Y6/2)	
46	6	27	3区 SD19 1層	瓦質土器	環鉢		—	—	—	8条以上1単位の環目	ナデ	1m以下の特 粒丸七	内：黄褐色(2.5Y4/1) 外：黄褐色(2.5Y5/1)	
46	7	27	3区 SD19 1層	瓦質土器	環鉢		—	—	—	3条1単位の環目	ナデ	密	内：鈍い黄褐色(10YR6/0) 外：鈍い黄褐色(10YR7/0)	
46	8	27	3区 SD19 1層	銅製	環鉢		—	—	—	ナデ	ナデ	密	鈍い赤褐色(2.5YR5/3) 口縁部：黒灰色 (10YR5/1)	
46	9	27	3区 SD19 1層	瓦質土器	不明		—	14.2	—	ナデ、ハナ目	ナデ、ハナ目	2m以下の特 粒丸七	内：鈍い黄褐色(10YR7/3) 外：鈍い黄褐色(10YR6/3)	
46	10	27	3区 SD19 1層	焼締陶器	瓶		21.8	—	—	ナデ	ナデ	密	黄灰色(2.5Y4/1)	
46	11	27	3区 SD19 1層	土師質土器	杯		—	7.0	—	ナデ、底部 凹縁未切り	ナデ	1m以下の特 粒丸七	内：鈍い黄褐色(10YR7/2) 外：鈍い黄褐色(10YR7/0)	
46	12	27	3区 SD19 1層	青磁	内印瓦文	奈良県奈良市 2層(15 C 中頃)	—	4.8	—	無釉、磨光文	無釉	密	オリーブ灰色(10Y6/2)	
46	13	27	3区 SD19 1層	陶磁器	青磁碗D 類	奈良県奈良市 2層(15 C 中頃)	—	—	—	無釉	無釉	密	内汚：灰オリーブ色 (2.5Y6/2)	
46	14	27	3区 SD19 1層	青磁	青磁碗E 類	奈良県奈良市 2層(15 C 中頃)	—	—	—	無釉	無釉	密	灰白色(2.5Y7/2)	
47	1	27	1区 KR20 1層	中国青花	碗		—	—	—	無釉・染付文様	無釉・染付文様	密	内汚：明褐色 (7.5YR5/1)	
53	1	27	3区 建物跡 30 P660	土師質土器	杯		—	7.0	—	ナデ	底部 凹縁未切り	密	鈍い黄褐色(10YR6/0)	
55	1	27	3区 村911 P611	土師器	滑面		—	—	—	ナデ	ナデ	1m以下の特 粒丸七	内：明黄褐色(10YR7/0) 外：鈍い黄褐色 (10YR6/0)	最大径 15.5cm
56	1	27	3区 SD08 1層	瓦質土器	編	V A	—	—	—	ナデ	ナデ	2m以下の特 粒丸七	灰白色(2.5Y8/2)	
56	2	27	3区 SD08 1層	瓦質土器	編	滑	—	—	—	ナデ	ナデ	1m以下の特 粒丸七	内：黄褐色(2.5Y7/2) 外：黄褐色(2.5Y5/1)	
56	3	27	3区 SD08 1層	瓦質土器	編	IV	—	—	—	ナデ	ナデ	4m以下の特 粒丸七	内：灰色(5N5/0) 外：灰色(2.5Y5/1)	
56	4	27	3区 SD08 1層	瓦質土器	編	IV	—	—	—	ナデ	ナデ	4m以下の特 粒丸七	内：鈍い黄褐色 (10YR7/1) 外：黒灰色(10YR5/1)	
56	5	27	3区 SD08 1層	瓦質土器	編	IV	—	—	—	ナデ	ナデ	2m以下の特 粒丸七	灰色(5Y4/1)	
56	6	27	3区 SD08 1層	白磁	皿	IX	—	—	—	無釉	無釉	密	内汚：灰白色(5Y6/1)	

地区番号	道路番号	写真 図例	地上位置	種別	若 種	型式・時期	計 画 値 (m)			文 種 ・ 測 量		物 上	色 調	備 考
							口径	総径	高さ	内 面	外 面			
56	7	27	3区 SD08 1層	瓦質土器	罐鉢		-	-	-	ナテ	ナテ	1m以下の特 徴なし	内：灰黄色(2JY7/2) 外：灰黄色(2JY7/3)	
56	8	27	3区 SD08 1層	瓦質土器	罐鉢		-	13.4	-	ナテ、窪目 4条1単位	ナテ	3m以下の特 徴なし	黒褐色(2JY7/1)	
56	9	27	3区 SD08 1層	焼締陶器	瓶		-	-	-	ナテ	ナテ	3m以下の特 徴なし	内：黒灰色(10YR5/1) 外：黒灰色(10YR4/1)	
56	11	27	3区 SD08 1層	陶器(漆器)	罐鉢		-	12.2	-	窪目 3条または4条1単位	ナテ	4m以下の特 徴なし	内：灰色(5Y6/1) 外：灰色(5Y5/1)	
56	12	27	3区 SD08 1層	瓦質土器	罐鉢		-	14.8	-	ナテ、窪目 7条1単位	ナテ、ハケメのナテ	1m以下の特 徴なし	黒褐色(2JY7/1)	
56	13	27	3区 SD08 1層	瓦質土器	鍋	IV	30.6	-	-	ナテ	ナテ	3m以下の特 徴なし	黒褐色(2JY7/1)	
56	14	27	3区 SD08 1層	瓦質土器	鍋(漆器)		-	-	-	ナテ	ナテ	1m以下の特 徴なし	灰黄色(2JY7/2)	
57	1	27	3区 SD23 1層	土器胎	鍋	IV	-	-	-	ナテ	ナテ	2m以下の特 徴なし	内：鈍い褐色(7.5YR6/0) 外：鈍い褐色 (7.5YR1/4)	
59	1	28	3区 SD23 1層	土器胎	鍋	IV	-	-	-	ナテ	ナテ	3m以下の特 徴なし	鈍い褐色(7.5YR1/0)	
59	2	28	3区 SD23 1層	瓦質土器	鍋	IV	-	-	-	ナテ	ナテ	3m以下の特 徴なし	内：灰黄褐色(10YR6/2) 外：黒灰色(10YR4/1)	
59	3	28	3区 SD23 1層	瓦質土器	鍋	IV	-	-	-	ナテ	ナテ	1m以下の特 徴なし	内：黒灰色(10YR5/1) 外：黒褐色(10YR3/2)	
59	4	28	3区 SD23 1層	瓦質土器	鍋	IV	-	-	-	ナテ	ナテ	1m以下の特 徴なし	内：黒灰色(10YR5/1) 外：灰白色(5Y7/1)	
59	5	28	3区 SD23 1層	瓦質土器	鍋	IV	-	-	-	ナテ	ナテ	1m以下の特 徴なし	黒灰色(10YR4/1)	
59	6	28	3区 SD23 1層	瓦質土器	罐鉢		28.8	-	-	ナテ、窪目 4条1単位	ナテ	4m以下の特 徴なし	内：黒灰色(10YR4/1) 外：黒褐色(10YR3/1)	
59	7	28	3区 SD23 1層	瓦質土器	罐鉢		29.4	-	-	ナテ、ハケメ、窪目 8条1単位	ナテ	2m以下の特 徴なし	黒灰色(10YR6/1)	
59	8	28	3区 SD23 1層	土器胎	漆器		-	-	-	ナテ	ナテ	4m以下の特 徴なし	内：灰黄褐色(10YR6/2) 外：鈍い褐色 (10Y7/2)	最大径 30.0mm
59	9	28	3区 1層・ 2層	陶器(漆器)	大皿	漆器 第2ふ	12.4	-	-	胎輪	胎輪 胎輪ナメのち 面	内輪・胎・漆・胎輪(5YR5/2) 外胎・胎・漆・胎輪 (5YR5/2)	最大径 12.4cm	
60	1	28	3区 P494	土器胎	皿		-	6.6	-	ナテ	ナテ・胎輪糸切り	黒	内：鈍い黒褐色(10YR2/3) 外：黒褐色(10YR2/3)	
60	2	28	3区	土器質土器	杯		13.5	6.6	4.4	ナテ	ナテ	黒	内：鈍い黒褐色 (10Y7/4) 外：褐色(7.5YR7/6)	
60	3	28	3区	土器質土器	杯		-	6.6	-	ナテ	ナテ・胎輪糸切り	黒	内：鈍い黒褐色(10YR2/3) 外：鈍い黒褐色(10YR2/3)	
60	4	28	3区	土器質土器	皿		7.6	-	-	ナテ	ナテ・胎輪糸切り	黒	内：鈍い黒褐色(10YR2/3) 外：灰黄褐色(10YR2/2)	
60	5	28	3区 SD23 1層	中世近世陶 (漆器系)	C 磁鉢		-	-	-	ナテ	ナテ	1m以下の特 徴なし	灰色(5Y5/1)	
60	6	28	3区 中世近世陶 (漆器系)	中世近世陶 (漆器系)	C 磁鉢		-	-	-	ナテ	ナテ	4m以下の特 徴なし	黒褐色(10YR6/1)	
60	7	28	3区 2層	中世近世陶 (漆器系)	C 磁鉢		-	-	-	ナテ	ナテ	1m以下の特 徴なし	内：黄灰色(2.5Y6/1) 外：黄灰色(2.5Y6/1) 外輪・明褐色(2N5/0)	
60	8	28	3区 調査区 内蔵 1層	黄瀬系陶器	観小皿		-	-	-	ナテ	ナテ	3m以下の特 徴なし	内：灰色(5Y5/1) 外：灰色(5Y6/1)	
60	9	28	3区	黄瀬系陶器	観小皿		-	-	-	ナテ	ナテ	3m以下の特 徴なし	灰色(7.5Y6/1)	
60	10	28	3区	黄瀬系陶器	観小皿		-	-	-	胎輪窪痕	ハケ目	3m以下の特 徴なし	黒褐色(10YR4/1)	
60	11	28	3区	黄瀬系陶器	観小皿		-	-	-	胎輪窪痕	ハケ目	3m以下の特 徴なし	内：黒灰色(10YR5/1)	
60	12	28	3区	黄瀬系陶器	観小皿		-	-	-	胎輪窪痕	ハケ目	3m以下の特 徴なし	黒褐色(10YR4/1)	
61	1	28	3区	瓦質土器	鍋		-	-	-	ナテ	ナテ、ハケ目	3m以下の特 徴なし	灰黄褐色(10YR6/2)	
61	2	28	3区	瓦質土器	鍋		-	-	-	ナテ	ナテ	3m以下の特 徴なし	内：灰黄褐色(10YR6/0) 外：鈍い黒褐色 (10Y7/4)	
61	3	28	3区	瓦質土器	鍋		-	-	-	ナテ	ナテ	1m以下の特 徴なし	内：灰黄色(2.5Y7/2) 外：黒灰色(2.5Y6/1)	
61	4	28	3区	瓦質土器	鍋		-	-	-	ナテ	ナテ	1m以下の特 徴なし	内：鈍い黒褐色 (10Y7/4) 外：黒褐色(10YR3/2)	

図面 番号	建物 番号	写真 図号	地上位置	種別	若種	型式・時期	計測値 (cm)			文種・調査		動土 色調	備考	
							口径	総径	高さ	内面	外面			
61	5	28	3区	瓦葺土庫	編		-	-	-	ナテ	ナテ	1m以下の特 格土	内：灰白色(10YR6/2) 外：灰黄色(2.5Y7/2)	
61	6	28	3区	瓦葺土庫	編		-	-	-	ナテ	ナテ	2m以下の特 格土	内：鈍い黄褐色 (10YR7/2) 外：暗灰色(10YR4/1)	
61	7	28	3区	瓦葺土庫	編		-	-	-	ナテ	ナテ	1m以下の特 格土	黄褐色(2.5Y7/1)	
61	8	28	3区	瓦葺土庫	編		-	-	-	ナテ	ナテ	崖	内：黄褐色(2.5Y5/1) 外：黄褐色(2.5Y6/1)	
61	9	28	3区	瓦葺土庫	編		-	-	-	ナテ・ハヤ日	ナテ	崖	灰色(5Y4/1)	
61	10	28	3区	瓦葺土庫	編		-	-	-	ナテ	ナテ	崖	内：灰白色(10YR7/1) 外：暗灰色(10YR6/1)	
61	11	28	3区	瓦葺土庫	編		-	-	-	ナテ	ナテ	崖	灰褐色(10YR6/1)	
61	12	28	3区	瓦葺土庫	編		-	-	-	ナテ	ナテ	崖	内：暗灰色(2.5Y6/1) 外：灰黄色(2.5Y7/1)	
61	13	28	3区	瓦葺土庫	編		-	-	-	ナテ	ナテ	1m以下の特 格土	内：鈍い黄褐色 (10YR6/3) 外：暗灰色(10YR4/1)	
61	14	28	3区	瓦葺土庫	編		-	-	-	ナテ	ナテ	1m以下の特 格土	黄褐色(10YR6/1)	
61	15	28	3区	瓦葺土庫	編		-	-	-	ナテ	ナテ	崖	内：鈍い黄褐色 (10YR7/2)	
61	16	29	3区	瓦葺土庫	瓦編		-	-	-	ナテ	ナテ	1m以下の特 格土	灰白色(10YR6/2)	
61	17	29	3区	瓦葺土庫	瓦編		-	-	-	ナテ	ナテ	1m以下の特 格土	灰白色(10YR6/2)	
61	18	29	3区	瓦葺土庫	編		-	-	-	ナテ	ナテ	2m以下の特 格土	灰黄褐色(10YR6/2)	
61	19	29	3区	瓦葺土庫	瓦編		-	-	-	ナテ	ナテ	2m以下の特 格土	灰白色(10YR6/2)	
61	20	29	3区 P208	瓦葺土庫	瓦編		-	-	-	ナテ	ナテ	1m以下の特 格土	鈍い褐色(7.5YR6/0)	
61	21	29	3区 P404	瓦葺土庫	瓦編		-	-	-	ナテ	ナテ	1m以下の特 格土	灰黄色(2.5Y7/2)	
61	22	29	3区 P407	瓦葺土庫	瓦編		-	-	-	ナテ	ナテ	2m以下の特 格土	灰黄色(2.5Y7/2)	
61	23	29	3区 P404	瓦葺土庫	瓦編		-	-	-	ナテ	ナテ	2m以下の特 格土	鈍い褐色(7.5YR7/0)	
61	24	29	3区	瓦葺土庫	雑材		-	-	-	ナテ	ナテ	2m以下の特 格土	内：鈍い黄褐色 (10YR6/4) 外：灰黄色(2.5Y7/2)	
61	25	29	3区	瓦葺土庫	雑材		-	-	-	ナテ・4集1単位の掘 り日	ナテ	2m以下の特 格土	鈍い黄褐色(10YR7/3)	
61	26	29	3区	瓦葺土庫	雑材		-	-	-	ナテ	ナテ	崖	内：鈍い黄褐色(10YR6/3) 外：鈍い黄褐色(10YR6/3)	
61	27	29	3区	瓦葺土庫	雑材		-	-	-	6集以上1単位の掘り 日	ナテ	崖	黄褐色(2.5Y5/1)	
61	28	29	3区	瓦葺土庫	雑材		-	-	-	断面により不詳	断面により不詳	1m以下の特 格土	内：鈍い黄褐色(10YR7/0) 外：鈍い黄褐色(10YR7/0)	
61	29	29	3区	瓦葺土庫	雑材		-	-	-	ナテ	ナテ	1m以下の特 格土	黄褐色(2.5Y7/1)	
61	30	29	3区	瓦葺土庫	雑材		-	-	-	6集1単位の掘り日	ナテ	1m以下の特 格土	内：暗灰黄色(2.5Y5/2) 外：黄褐色(2.5Y6/1)	
61	31	29	3区	瓦葺土庫	鉄心土庫		-	-	-	ナテ	ナテ	1m以下の特 格土	黄褐色(2.5Y4/1)	
61	32	29	3区	瓦葺土庫	火鉢		-	-	-	ナテ	ナテ	1m以下の特 格土	鈍い黄褐色(10YR7/2)	
61	33	29	3区	瓦葺土庫	火鉢		-	-	-	ナテ	ナテ	2m以下の特 格土	灰白色(10YR6/2)	
61	34	29	3区	瓦葺土庫	湯釜		-	-	-	ナテ	ナテ	崖	黄褐色(2.5Y5/1)	
62	1	29	3区	備前	雑材	IVB-1 (遺構)	24.8	10.2	8.6	10m×ナテ 掘り 1集1 単位の	10m×ナテ、ナテ	1m以下の特 格土	内：灰褐色(7.5YR5/2) 外：灰褐色(10YR6/2)	最大径 26.6cm
62	2	29	3区	備前	雑材	IVB-2	-	-	-	ナテ、掘り 4集1単 位の		2m以下の特 格土	黄褐色(10YR6/1)	
62	3	29	3区 SD08 1層	陶器(銅尸)	天目茶碗		-	4.4	-	ナテ×1	陶輪	崖	内輪：暗赤褐色 (2.5Y5/2) 外：黄褐色(2.5Y6/2)	

調子番号	調子番号	写真 図例	机上位置	種別	若種	型式・時期	計測値 (cm)			文様・調整		動土	色調	備考
							口径	幅	高さ	内面	外面			
62-1	29	3区	SD06 1組	磁器 (瀬川系)	反輪 皿		—	5.8	—	無輪	無輪	黒	内輪：#4-7黄緑(OY4/D) 内・底面緑(OY7B/D) 胴：灰白色(OY7B/D)	
62-5	29	3区		磁器 (肥前系)	丸形碗	1600-70年代	—	(4.0)	—	無輪	白引 透明輪 草花文	白色	内輪：灰白色(OY7B/D) 外輪：灰白色(OY7B/D)	
62-6	29	3区		磁器 (肥前系)	仏前碗	17C中頃 小	(7.0)	—	—	無輪	無輪 縁付文	白色	灰白色(OY7B/D)	
62-7	29	3区		磁器 (肥前系)	丸形碗	17C前半	(9.2)	—	—	無輪	無輪 草花文	白色	灰白色(OY7B/D)	初期伊豆型様式
62-8	29	3区		陶器 (萩焼系-6)	碗		—	4.7	—	明輪	明輪 縁付	陶褐色	内内輪：#4-7黄色 (J5Y5/2) 胴：黒灰色(OY7B/D)	
62-9	29	3区	東 法部	白磁	碗	白磁碗 V (13C後半 ～14C前半)	—	—	—	無輪	無輪	黒	外：灰白色(OY7/D) 内輪：灰白色(OY7/D)	
62-10	29	T7		白磁	A群	白磁碗 Ⅱ (13C後半 ～14C前半)	9.4	—	—	無輪	無輪	黒	内内輪：灰白色(OY7B/D)	
62-11	29	3区		白磁	A群	白磁碗 Ⅱ (13C後半 ～14C前半)	—	—	—	無輪	無輪	黒	内内輪：灰白色(OY7/D)	
62-12	29	3区		白磁	A群	白磁碗 Ⅱ (13C後半 ～14C前半)	—	—	—	無輪	無輪	黒	内内輪：灰白色(OY7/D)	
62-13	29	3区		白磁	小杯	白磁碗Ⅱ 1	—	—	—	無輪	無輪	黒	内内輪：灰白色 (J5Y6/D)	
62-14	29	T25	辰野 宗茂 土師上	白磁	A群	白磁碗Ⅱ 1 (13C)	—	6.0	—	無輪	無輪	黒	内内輪：灰白色 (J5Y6/D)	
62-15	29	3区		白磁	(E2)	白磁碗Ⅱ 1 (13C)	—	6.0	—	無輪	無輪	黒	内内輪：灰白色 (J5Y6/D)	
62-16	29	3区		白磁	碗	不明	—	—	—	無輪	無輪	黒	内内輪：灰白色(OY7/D)	
62-17	29	3区		青磁	碗	龍一回り (12C後半)	—	—	—	無輪	無輪 縁付文	黒	内内輪：#4-7黄色 (J5Y5/2)	
62-18	29	3区		青磁	皿	同定楽系 (12C中頃 ～末)	—	—	—	無輪	無輪	黒	内内輪：#4-7黄色 (J5Y6/2)	
62-19	29	3区		青磁	碗	同定楽系	—	—	—	無輪	無輪 粗い縁付文	黒	内内輪：灰白色 (J5Y7/2)	
62-20	29	3区		青磁	碗	定楽系系 1期(12C後半)	—	—	—	無輪、短文	無輪、2本の分刻線	黒	内内輪：#4-7黄色 (OY6/2)	
62-21	29	3区		青磁	碗	定楽系系系 9期(13C中頃 ～14C初)	—	—	—	無輪、縁付文	無輪	黒	内内輪：#4-7黄色 (OY6/D)	
62-22	29	3区		青磁	碗	定楽系系系 1期(1-a 期)13C中頃 ～14C初)	—	—	—	無輪、縁付文	無輪	黒	内内輪：#4-7黄色 (J5Y5/2)	
62-23	29	3区		青磁	碗	定楽系系系 4期	—	—	—	無輪、細い縁付きの 縁付文	無輪	黒	内内輪：#4-7黄色 (OY6/2)	
62-24	29	3区		青磁	碗	定楽系系系 碗Ⅱ B 4 期	14.7	—	—	無輪、縁付文	無輪	黒	内内輪：#4-7黄色 (OY5/2)	
62-25	29	3区		青磁	碗	定楽系系系 碗Ⅱ C 2 (13C小)	14.2	—	—	無輪、短文等	無輪	黒	内内輪：#4-7黄色 (OY6/2)	
62-26	29	3区	T9 2組	青磁	碗	定楽系系系 碗Ⅱ D期	—	—	—	無輪	無輪	黒	内内輪：#4-7黄色 (J5Y5/2)	
62-27	29	3区		青磁	碗	定楽系系系 碗Ⅱ D期	—	—	—	無輪	無輪	黒	内内輪：#4-7黄色 (J5Y5/2)	
62-28	29	3区	T13	青磁	碗	定楽系系系 碗Ⅱ E期	—	—	—	無輪	無輪	黒	内内輪：#4-7黄色 (OY6/2)	
62-29	29	T13	3組	青磁	碗	定楽系系系 碗Ⅱ E期	—	—	—	無輪	無輪	黒	内内輪：#4-7黄色 (OY6/2)	
62-30	29	3区		青磁	碗	不明	—	—	—	無輪	無輪	黒	胴：#4-7黄色(OY6/D) 内輪：#4-7黄色(OY6/D)	
62-31	29	3区	T9 2組	青磁	碗	不明	—	—	—	無輪	無輪	黒	内内輪：#4-7黄色 (J5Y6/2)	
62-32	29	3区		青磁	盤		—	—	—	無輪	無輪	黒	内内輪：#4-7黄色 (OY6/2)	
62-33	29	3区		青花	皿	染付Ⅱ E (13C後半 頃)	—	—	—	無輪・染付の文様	無輪・染付の文様	黒	内内輪：明濁灰色 (OY6/D)	
62-34	29	T15	陶磁部	染付 碗		染付Ⅱ C (13C後半 ～14C中頃)	—	—	—	無輪・染付の文様	無輪・染付の文様	黒	内内輪：明濁灰色 (OY6/D)	
62-35	29	3区		青花	碗	不明	—	—	—	無輪・染付の文様	無輪・染付の文様	黒	内内輪：明濁灰色 (OY6/D)	

図号 番号	写真 図例	出土位置	種別	器種	型式・時期	計測値 (cm)			文様・調整		胎土	色調	備考	
						口径	底径	高さ	内面	外面				
62	36	29	2区	青花	碗	青花画 (不明)	—	—	—	胎輪・縁付の文様	胎輪・縁付の文様	紺	内外面：紺黒灰色 (T.50Y8/1)	
62	37	29	2区	李朝白磁	碗		(5.2)	—	—	胎輪	胎輪 釘彫り(A印)	灰白色	灰白色(5Y8/1)	二次焼成を受け る
66	1	30	2区	縄文土器	深鉢	縄文式 前期	—	—	—	ナデ	ナデ 捺起線文	1mm以下の粒 粒を含む	内：鈍い黄褐色 (10YR5/4) 外：黄褐色(10YR5/6)	
66	2	30	2区 2層	縄文土器	深鉢		—	—	—	ナデ	ナデ 口縁部：V字 形のみ 実部上：D字彫	2mm以下の粒 粒を含む	内：灰黄褐色(10YR5/2) 外：鈍い褐色(7.5YR6/1)	

表5 野広遺跡土製品観察表

棟区 番号	遺物 番号	写真 図版	出土位置	器 種	計 測 値				色 調	備 考
					長さ (cm)	最大径(cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
14	1	20	1区 SX03 2層	土鉢	4.9	最大径: 1.2	0.3	7.56	浅黄褐色(10YR8/4)	
14	2	20	1区 SX03 2層	土鉢	4.5	最大径: 1.3	0.4	6.67	灰黄褐色(10YR6/2)	
15	3	21	1区 SD04 2層	土鉢	5.0	最大径: 1.0	0.4	5.05	鈍い褐色(7.5YR6/4)	
20	1	23	1区	土鉢	4.4	最大径: 1.2	0.4	5.35	浅黄褐色(10YR8/3)	
20	2	23	1区	土鉢	4.2	最大径: 1.1	0.3	4.95	灰黄褐色(10YR6/2)	
20	3	23	1区	土鉢	4.7	最大径: 1.3	0.4	7.00	鈍い褐色(7.5YR6/4)	
20	4	23	1区	土鉢	4.2	最大径: 1.5	0.4	7.11	鈍い褐色(2.5YR6/4)	
20	5	23	1区	土鉢	4.7	最大径: 1.6	0.4	9.61	鈍い褐色(7.5YR6/4)	
20	6	23	1区	土鉢	4.4	最大径: 1.3	0.4	5.49	灰黄色(2.5Y7/2)	
20	7	23	1区	土鉢	4.9	最大径: 1.4	0.4	7.79	灰黄褐色(10YR6/2)	
20	8	23	1区	土鉢	5.0	最大径: 1.2	0.4	7.43	灰黄褐色(10YR6/2)	
20	9	23	1区 T7 2層上半	土鉢	4.0	最大径: 1.5	0.3	10.20	鈍い黄褐色(10YR6/3)	
20	10	23	1区	土鉢	5.0	最大径: 1.2	0.3	7.00	鈍い黄褐色(10YR7/3)	
20	11	23	1区	土鉢	4.3	最大径: 1.5	0.4	8.41	鈍い黄褐色(10YR6/3)	
20	12	23	1区	土鉢	4.4	最大径: 1.5	0.4	8.85	鈍い褐色(7.5YR6/4)	
20	13	23	1区	土鉢	5.4	最大径: 1.0	0.4	5.60	鈍い褐色(7.5YR7/3)	
20	14	23	1区	土鉢	5.5	最大径: 1.1	0.3	6.14	明赤褐色(2.5YR5/6)	
20	15	23	1区	土鉢	4.5	最大径: 1.4	0.3	7.50	灰黄色(2.5YR6/2)	
20	16	23	1区	土鉢	5.1	最大径: 1.1	0.4	5.17	鈍い褐色(7.5YR7/3)	
20	17	23	1区 T7 2層上半	土鉢	4.4	最大径: 1.4	0.4	7.16	浅黄褐色(10YR8/4)	
20	18	23	1区	土鉢	4.6	最大径: 1.7	0.4	10.67	灰黄褐色(10YR6/2)	
20	19	23	1区	土鉢	4.3	最大径: 1.4	0.4	7.01	鈍い褐色(7.5YR6/4)	
20	20	23	1区	土鉢	4.6	最大径: 1.4	0.3	7.76	灰褐色(7.5YR6/2)	
29	3	25	3区 建物4 P383	土鉢	4.6	最大径: 1.1	0.3	3.85	鈍い黄褐色(10YR5/3)	
29	4	25	3区 建物4 P383	土鉢	4.1	最大径: 1.1	0.4	4.06	褐色(7.5YR4/3)	
31	3	26	3区 P479	土鉢	3.5	最大径: 1.7	0.3	9.41	鈍い褐色(7.5YR7/4)	
33	1	26	3区 建物13 P369	土鉢	5.3	最大径: 1.3	0.3	7.09	灰白色(2.5Y8/2)	
46	15	27	3区 SD19	土鉢	4.7	最大径: 1.5	0.4	10.43	灰黄褐色(10YR5/2)	
46	16	27	3区 SD19	土鉢	4.0	最大径: 1.8	0.3	10.78	鈍い黄褐色(10YR7/3)	
46	17	27	3区 SD19 1層	土鉢	4.5	最大径: 1.7	0.3	9.41	鈍い褐色(7.5YR6/4)	
46	18	27	3区 SD19 1層	土鉢	4.1	最大径: 1.5	0.3	8.19	黒(2.5Y2/1)	
56	10	27	3区 SD08 1層	土鉢	4.5	最大径: 1.4	0.4	7.34	鈍い黄褐色(10YR7/3)	
63	1	30	3区	土鉢	4.7	最大径: 1.3	0.3	7.60	鈍い黄褐色(10YR6/3)	
63	2	30	3区	土鉢	4.7	最大径: 1.4	0.5	7.15	鈍い黄褐色(10YR7/2)	
63	3	30	3区	土鉢	4.9	最大径: 1.2	0.3	6.24	鈍い黄褐色(10YR7/3)	
63	4	30	3区	土鉢	4.4	最大径: 1.3	0.4	7.40	鈍い黄褐色(10YR7/4)	
63	5	30	3区	土鉢	5.3	最大径: 1.2	0.3	7.84	鈍い黄褐色(10YR7/4)	
63	6	30	3区	土鉢	5.9	最大径: 1.4	0.4	11.33	鈍い黄褐色(10YR5/4)	

表6 野広遺跡石製品観察表

採区 番号	遺物 番号	写真 図版	出土位置	器種	石材	計測値				備考
						長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	
8	5	19	1区 集石1	石臼	玄表石	17.1	13.0	6.7	1214.65	
8	6	19	1区 集石1	五輪塔(水輪)	玄表石	25.7	25.5	15.5	9000.00	
21	1	23	1区	磨石		10.8	13.0	5.8	1367.03	敲打全周する
21	2	23	1区	切目石鎌	安山岩か	5.7	3.4	1.4	39.27	
21	3	23	1区	打製石斧	頁岩	11.2	7.0	1.1	110.92	摩耗
21	4	23	1区	硯	赤間石か	(7.3)	(3.7)	0.8	19.16	研磨成形
21	5	23	1区	丸槌	粘板岩か	2.8	4.4	0.7	17.15	表面：ミガキ 裏面：ミガキ 穿孔あり
21	6	23	1区	打製石斧	頁岩	(7.3)	9.0	1.0	126.52	摩耗
21	7	23	1区	石網	滑石	口径 25.8			156.58	外：ケズリ、研磨 内：ケズリ、研磨 Ⅲ-a (12C後半か)
21	8	23	1区	石網未成品	チャート	0.9	1.5	0.5	0.95	
46	19	27	3区 SD19 1層	硯	赤間石か		8.1	1.9	87.67	
56	15	27	3区 SD08 1層	茶臼		9.5	6.1	2.7	163.40	
56	16	27	3区 SD08 1層	石臼		15.2	9.0	7.3	928.90	
59	10	28	3区 SD23 1層	石臼		20.2	26.2	8.5	6500.00	
64	1	30	1区	磨製石斧	頁岩か	10.6	5.4	2.8	217.31	敲打痕あり
64	2	30	3区	打製石斧	頁岩か	9.9	4.5	1.4	70.64	
64	3	30	3区	砥石	砂岩	7.1	4.6	4.0	177.81	
64	4	30	3区	不明		12.0	9.2	1.0	229.12	
64	5	30	3区	磨石	不明	9.1	11.5	4.9	796.21	
64	6	30	3区	磨石	不明	9.0	10.2	5.0	642.64	敲打痕あり
64	7	30	3区 P245 1層	茶臼	玄表石	18.4	19.5	13.3	4500.00	



表7 野広遺跡金属製品観察表

採図 番号	遺物 番号	写真 図版	出土位置	種別	器 種	計 測 値 (cm)			備 考
						長 さ	幅	厚 さ	
8	7	19	1区 集石1の下	銅製品	銅滓(板状滓)	8.3	8.8	0.6	反り上がっている
8	8	19	1区 集石1	銅製品	銅滓	1.3	1.4	0.8	気泡あり
10	10	-	1区 集石2の下 2層	鉄製品	釘	10.8	2.4	1.8	断面 方形
14	3	-	1区 SX03 2層	鉄製品	釘	2.0	1.0	0.7	
21	9	24	1区 T3 1層	鉄製品	釘	3.0	1.5	0.9	断面 方形
21	10	24	1区	鉄製品	釘	3.8	1.5	1.2	
21	11	24	1区	鉄製品	釘	7.4	1.5	1.0	
21	12	24	1区	鉄製品	釘	4.7	1.5	0.9	
21	13	24	1区	鉄製品	釘	3.7	0.8	0.7	
21	14	24	1区	鉄製品	釘	3.2	1.6	0.9	
21	15	24	1区	鉄製品	釘	2.5	0.9	0.6	
21	16	24	1区	鉄製品	釘	4.3	1.1	1.0	
21	17	24	1区	鉄製品	釘	3.0	1.4	0.9	
21	18	24	1区	鉄製品	釘	5.5	1.9	1.0	
21	19	24	1区	鉄製品	不明	2.1	2.1	1.5	
21	20	24	1区	鉄製品	不明	4.3	4.9	1.9	
21	21	24	1区	銅製品	銅滓	3.4	2.2	0.4	
21	22	24	1区	銅製品	銅滓	2.6	2.2	0.4	
21	23	24	1区	銅製品	銅滓(板状滓)	2.0	3.1	0.8	
29	5	-	3区 建物4 P411	鉄製品	釘	2.9	1.2	0.8	
30	3	-	3区 建物6 P270	鉄製品	釘か	6.0	2.0	0.9	
32	1	-	3区 建物9 P255	鉄製品	釘か	4.3	3.5	1.5	断面 方形
33	3	-	3区 SK19 1層	鉄製品	釘	3.5	1.3	1.0	
46	20	-	3区 SD19 1層	鉄製品	釘か	4.7	2.4	1.3	断面 方形
46	21	-	3区 SD19 1層	鉄製品	釘	6.2	1.8	0.8	
59	11	-	3区 SD23 1層	鉄製品	釘か	2.4	1.9	1.0	
59	12	-	3区 SD23 1層	鉄製品	鍛冶滓か(不明)	2.6	2.1	1.4	
59	13	-	3区 SD23 1層	鉄製品	不明	4.2	2.4	1.8	
59	14	-	3区 SD23 1層	鉄製品	不明	4.0	3.7	1.3	
65	1	30	3区	鉄製品	釘	4.6	1.4	1.2	
65	2	30	3区	鉄製品	釘	6.2	1.9	1.6	
65	3	30	3区	鉄製品	釘	5.6	1.5	1.0	
65	4	30	3区	鉄製品	釘	7.1	5.5	1.0	
65	5	30	3区	鉄製品	釘	4.6	1.5	1.0	
65	6	30	3区 P210	鉄製品	釘	5.3	2.3	1.9	
65	7	30	3区 P198	鉄製品	不明	2.2	1.7	1.2	
65	8	30	3区	銅製品	銅滓	3.6	2.7	1.8	
65	9	30	3区	銅製品	銅滓	3.2	2.7	1.1	

表8 野広遺跡出土銭貨観察表

銭径・内径・銭厚：mm

採図 番号	遺物 番号	写真 図版	出土位置	銭 名	銭 径 (A)	銭 径 (B)	内 径 (C)	内 径 (D)	銭 厚	量目 (g)	初繰年	備 考
21	24	24	1区	熙寧元寶	24.66	24.51	20.41	20.16	1.27	2	1068	
65	10	30	3区	天禧通寶	24.59	23.81	19.96	20.6	1.67	1	1017	割れた状態
65	11	30	3区 P234	元豊通寶	23.2	23.55	18.8	19.42	1.22	2	1078	
65	12	30	3区	不明	22.98	-	18.85	-	1.28	2	-	

# 写真図版



野広遺跡全景 1



野広遺跡全景 2

图版 2



1区全景



2区全景



3区全景



建物跡1・2 柱列3・4



建物跡 3 柱列 7



集石遺構 1



集石遺構 1 断面

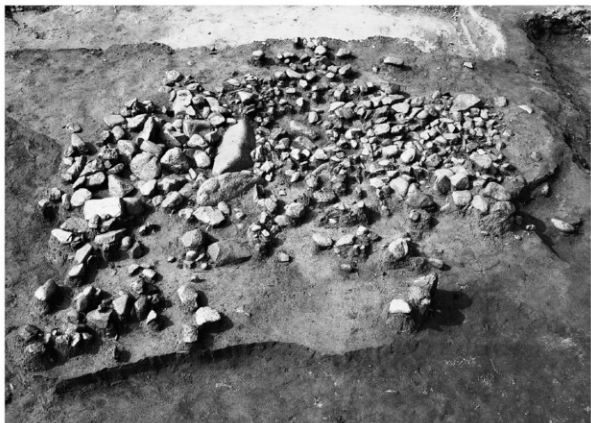


石塔材出土状況





集石遺構 1 掘方検出状況



集石遺構 2





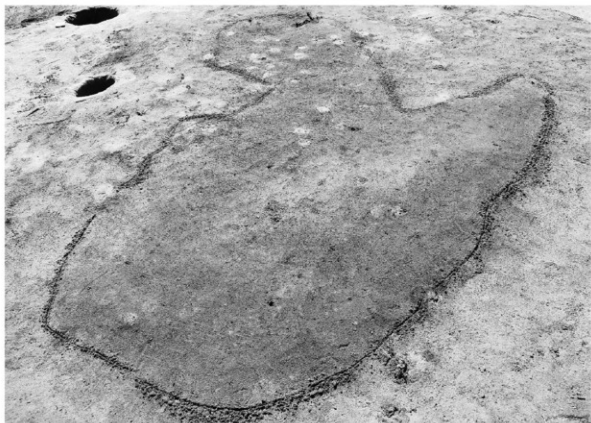
集石遺構 2 断面



SK05 断面



SK05 完掘



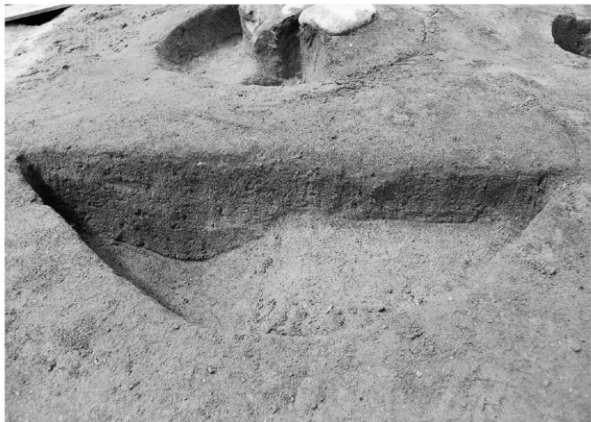
SK01 検出状況



SK01 断面



SK02 検出状況(奥)



SK02 断面



SK08 断面



SK08 完掘



SX03 検出





SX03 断面



SD04 検出状況



SD04 断面



丸形出土状況



1区南側調査終了状況



1区北側調査終了状況

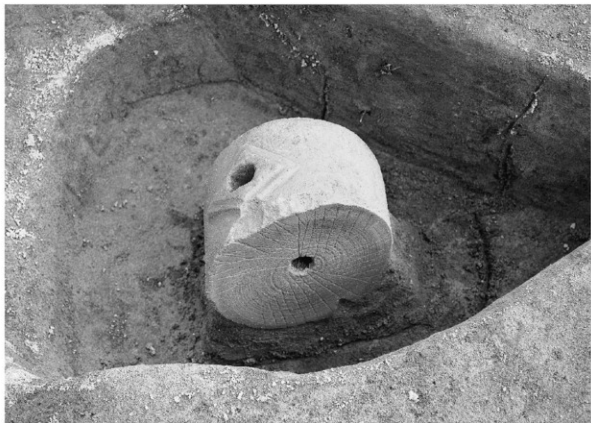




2区調査終了状況



3区南端部付近



石臼出土状況



建物跡21



建物跡22



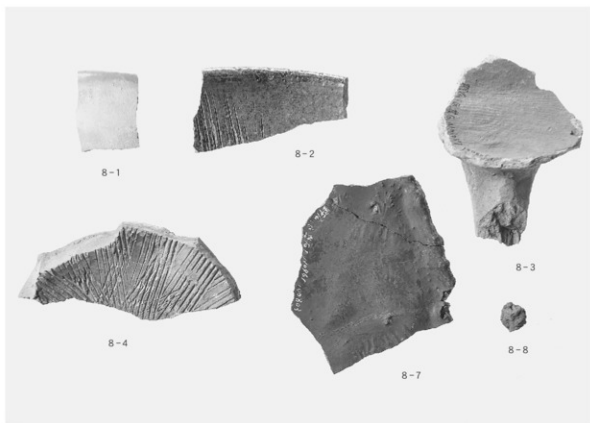
建物跡23

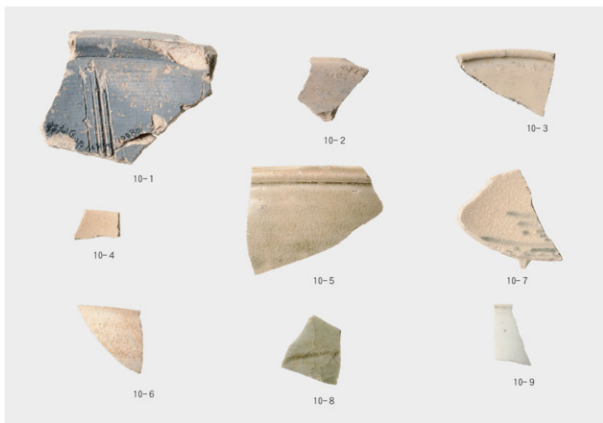


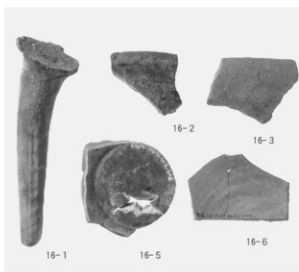
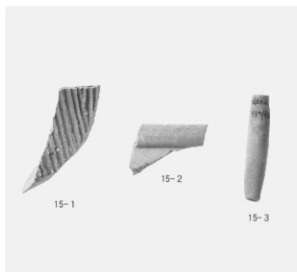
SK21

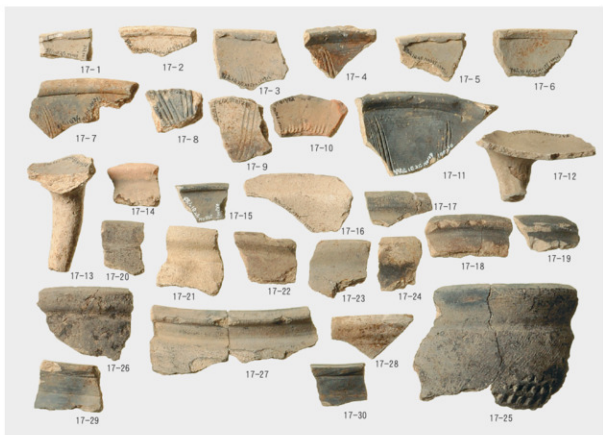


建物跡28~30

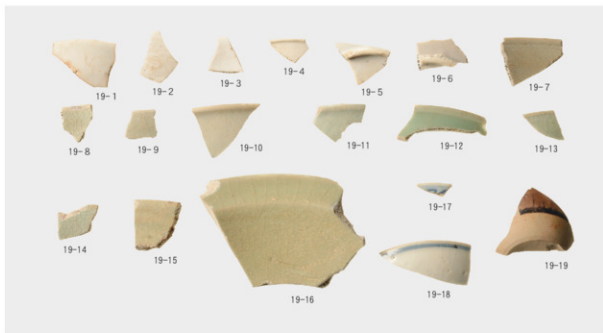




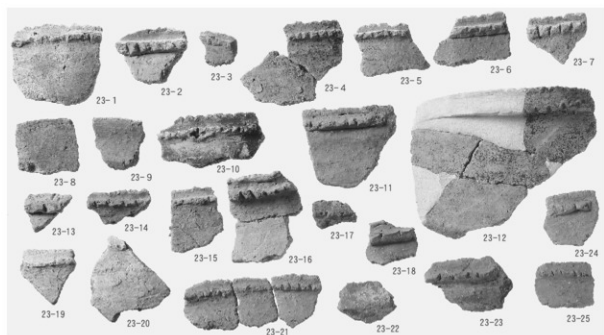
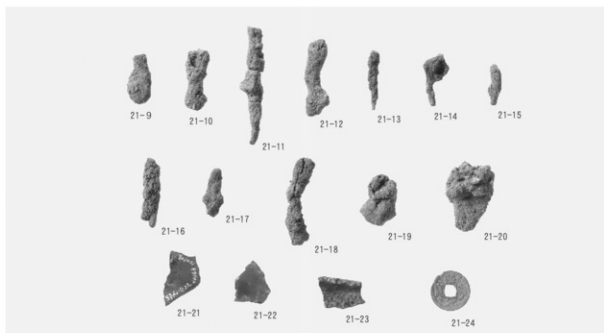




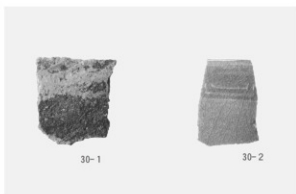
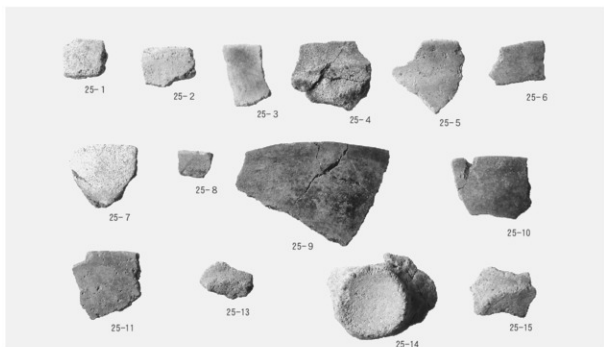
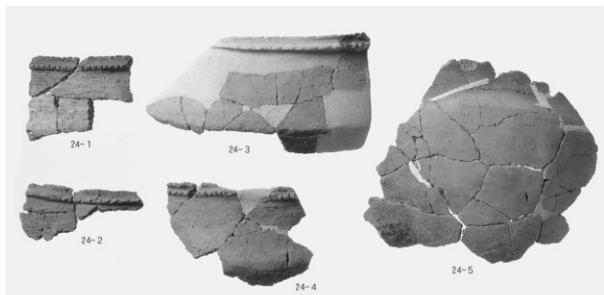




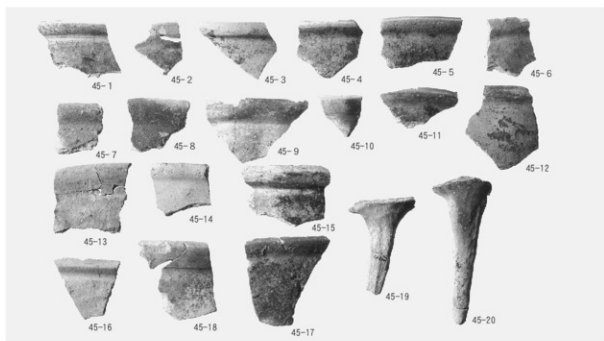
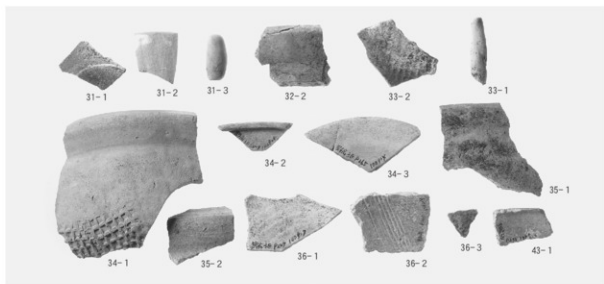
野広遺跡出土遺物

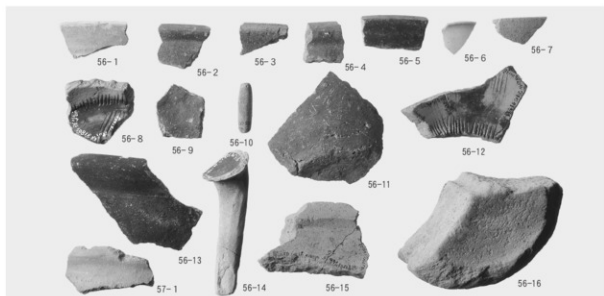
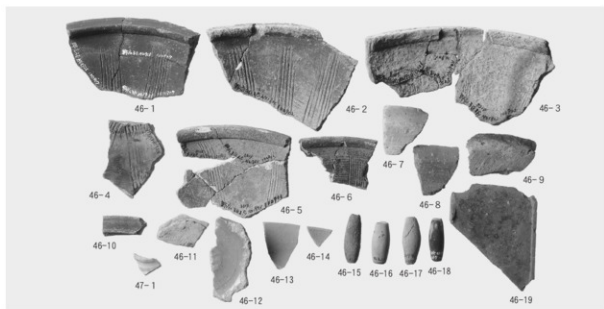


野広遺跡出土遺物

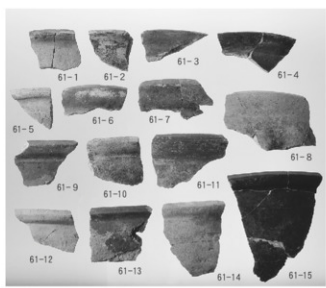
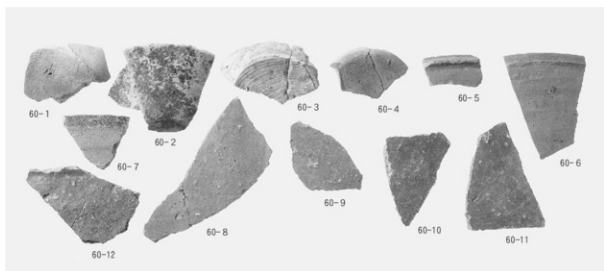
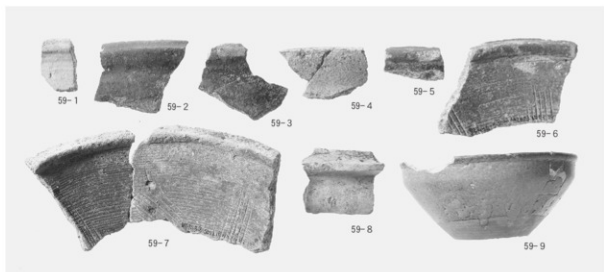


野広遺跡出土遺物



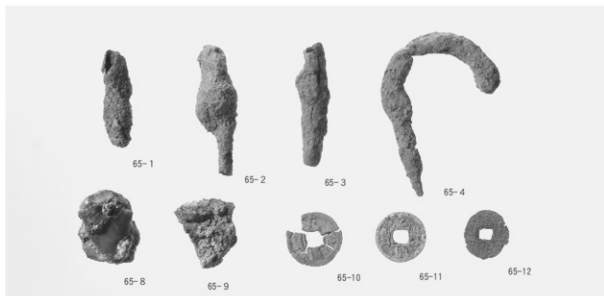
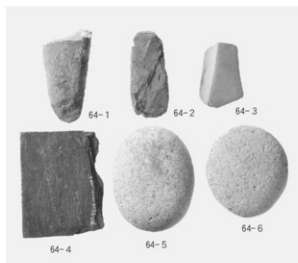


野広遺跡出土遺物





野広遺跡出土遺物





# 報 告 書 抄 録

フリガナ	ノビロイセキ							
書 名	野広遺跡							
シリーズ名	一般国道9号(直地防災工事)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	1							
編集者名	神柱靖彦・錦織幸弘							
編集機関	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒690-0131 島根県松江市打出町33番地 TEL 0852-36-8608 (H) http://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/ E-mail: maibun@pref.shimane.lg.jp							
発行年月日	2012(平成24)年3月15日							
所収遺跡名	所在地	コ ー ド		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
野 広 遺 跡	島根県 鹿足郡 津和野町	32501	W64	34° 29' 35.78667"	131° 48' 52.11280"	20090601 ～ 20101031	4,500	一般国道 9号 改築工事
遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
野 広 遺 跡	集落跡	縄文時代 平安時代 鎌倉時代 室町時代 安土桃山時代 江戸時代	掘立柱建物跡 集石遺構 溝状遺構	縄文土器 瓦質土器 土師質土器 輸入陶磁器 国産陶磁器 鉄製品 古銭 石製品 丸柄				
要 約	<p>野広遺跡は津和野川河岸の河岸段丘上の遺跡である。今回の調査では、道路工事に伴い遺跡の南端部の発掘調査を行った。縄文時代晩期の土器がまとまって出土しており、この地が晩期を中心とした時代の縄文時代人の活動範囲であったことがうかがわれる。検出した遺構・遺物の中心は15～16世紀の時期のものである。掘立柱建物跡が30棟検出され、周辺から瓦質土器などが出土している。出土遺物の中には、輸入陶磁器や茶道具とみられる遺物が含まれ、建物群は吉見氏家臣の居住地であったことが推定される。</p>							

一般国道9号(直地防災工事)改築工事予定地内  
埋蔵文化財発掘調査報告書1

## 野 広 遺 跡

発 行 2012(平成24)年3月

発行者 島根県教育委員会

編 集 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター  
〒690-0131 島根県松江市打出町33番地  
TEL 0852-36-8608  
<http://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/>

印 刷 有限会社 松陽印刷所